

対象病害虫名 立枯病(バリエティック) *Gaeumannomyces*属菌

試験場名 新中國グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 広島カンツリー倶楽部(広島県東広島市西条町)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:コウライシバ 定植:10年以上 ジェネラルエリヤ

刈高:12~14mm 施肥:ジェネラルエリヤの一般管理

土性:花崗岩風化土壌 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区15㎡(5m×3m) 3連制

1-I	2-I
3-I	4-I

1-II	2-II
3-II	4-II

1-III	2-III
3-III	4-III

1:丸和レキシコン 100 倍 0.1L/㎡ 2:丸和レキシコン 500 倍 0.5L/㎡ 3:シバンハ pro フロアブル 500 倍 0.2L/㎡

4:無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年10月20日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤および対照薬剤を、動力噴霧器を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 旬	10月 下旬	11月 上旬	11月 中旬	11月 下旬	12月 上旬	12月 中旬	12月 下旬	1月 上旬	1月 中旬	1月 下旬	2月 上旬	2月 中旬
平均気温(℃)	12.6	11.2	12.4	9.1	5.5	2.8	3.3	-0.4	2.2	4.9	3.9	5.6
降水量(mm)	67.0	23.0	4.0	5.0			38.0		5.5	54.0	16.5	16.5

月 旬	2月 下旬	3月 上旬	3月 中旬	3月 下旬	4月 上旬	4月 中旬	4月 下旬	5月 上旬	5月 中旬	5月 下旬
平均気温(℃)	6.9	7.8	9.0	10.5	11.5	11.1	14.3	14.9	19.0	18.1
降水量(mm)	13.0	28.5	18.5	44.5	24.0	35.5	67.0	25.0	148.0	43.0

観測地点:東広島市市アメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 薬効調査:2021年5月24日(散布217日後)

薬害調査:2020年11月27日、2021年5月24日

(調査方法) 試験区(15㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

3. 試験成績

供 試 薬 剤	処理量	区 制	5月24日		薬害	
			ハッチ面積率(%) 防除価		2020/11/27 2021/05/24	
18) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot.03k003	100倍 0.1L/㎡	I	4.0		-	
		II	3.0		-	
		III	3.0		-	
		平 均	3.3	80.2		
	500倍 0.5L/㎡	I	3.0		-	
		II	3.0		-	
		III	3.0		-	
		平 均	3.0	82.0		
	対) シバンバproフロアブル アゾキシストロビン 18.0% ヘキサコナゾール 15.3%	500倍 0.2/㎡	I	3.0		-
			II	3.0		-
III			4.0		-	
平 均			3.3	80.2		
無処理		I	15.0		-	
		II	15.0		-	
		III	20.0		-	
		平 均	16.7			

4. 考察

2021年5月24日 判定

18) 丸和レキシコン 100倍 0.1L/m² BBB- 500倍 0.5L/m² BBB-

本剤の100倍 0.1L/m² 処理は、対照薬剤シバンバproフロアブル(500倍 0.2L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の500倍 0.5L/m² 処理は、対照薬剤シバンバproフロアブル(500倍 0.2L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 立枯病(ゾニアディクライン) *Gaeumannomyces*属菌

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 和木ゴルフ倶楽部(山口県玖珂郡和木町)

対象病害虫発生状況 多発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:コウライシバ 定植:10年以上 ジェネラルエリヤ

刈高:13~15mm 施肥:ジェネラルエリヤの一般管理

土性:花崗岩風化土壌 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区15㎡(5m×3m) 3連制

1-I	2-I	3-I		
4-I	1-II	2-II		3-II
			4-II	

1-III	2-III
3-III	4-III

1:丸和レキシコン 100 倍 0.1L/㎡ 2:丸和レキシコン 500 倍 0.5L/㎡ 3:シバンバ[®] pro フロアブル 500 倍 0.2L/㎡

4:無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年10月19日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤および対照薬剤を動力噴霧器を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 旬	10月 下旬	11月 上旬	11月 中旬	11月 下旬	12月 上旬	12月 中旬	12月 下旬	1月 上旬	1月 中旬	1月 下旬	2月 上旬	2月 中旬
平均気温(℃)	14.5	12.9	14.4	11.0	7.9	4.9	5.3	1.4	4.3	6.5	6.4	7.1
降水量(mm)	90.0	21.5	7.5	3.5			43.0		2.0	63.5	22.0	29.5

月 旬	2月 下旬	3月 上旬	3月 中旬	3月 下旬	4月 上旬	4月 中旬	4月 下旬	5月 上旬	5月 中旬	5月 下旬
平均気温(℃)	9.2	9.2	10.5	12.3	13.3	12.5	16.1	16.1	19.6	19.3
降水量(mm)	22.0	36.0	53.0	79.0	28.0	62.5	65.5	74.0	205.5	58.5

観測地点:下松市アメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 薬効調査:2021年5月21日(散布215日後)

薬害調査:2020年11月27日、2021年5月21日

(調査方法) 試験区(15㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

一:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

3. 試 験 成 績

供 試 薬 剤	処理量	区 制	5月21日		薬害	
			ハッチ面積率(%) 防除価		2020/11/27 2021/05/21	
18) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサト 4.0% Lot.03k003	100倍 0.1L/㎡	I	3.0		-	
		II	3.0		-	
		III	5.0		-	
		平 均	3.7	79.8		
	500倍 0.5L/㎡	I	4.0		-	
		II	3.0		-	
		III	3.0		-	
		平 均	3.3	82.0		
	対) シバンバproフロアブル アゾキシストロビン 18.0% ヘキサコナゾール 15.3%	500倍 0.2/㎡	I	3.0		-
			II	3.0		-
III			3.0		-	
平 均			3.0	83.6		
無処理			I	20.0		-
	II		15.0		-	
	III		20.0		-	
	平 均		18.3			

4. 考 察

2021年5月21日 判定

18) 丸和レキシコン 100倍 0.1L/㎡ BBB- 500倍 0.5L/㎡ BBB-

本剤の100倍 0.1L/㎡ 処理は、対照薬剤シバンバ pro フロアブル(500 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では防除効果があり、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の500倍 0.5L/㎡ 処理は、対照薬剤シバンバ pro フロアブル(500 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では防除効果があり、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 立枯病 *Gaeumannomyces graminis*

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県常総市崎房 フレンドシップカントリークラブ グリーン

対象病害虫発生状況 多発生 初発:2021年4月上旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:コウライシバ 土性:砂壤土

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高4mm 刈り込み頻度:週3回, ゴルフ場の慣行(グリーンの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 10m² (2.5×4m), 3連制

4-I	1-I		3-I
2-I	3-II		
4-II	2-II		
1-II			
	1-III	4-III	2-III
3-III			

1. 丸和レキシコン 100倍
 2. 丸和レキシコン 500倍
 3. シバンバPROフロアブル
 4. 無処理
- I, II, IIIは連制を示す。

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年9月24日, 10月20日

(作物のステージ) 生育停滞期

(処理方法) 水量0.1L/m²は充電式噴霧器(1頭口, Teejet8003ノズル), 同0.2および0.5L/m²は園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため, 影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

末尾に記載

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年4月15日(最終処理177日後)

薬害:2020年10月20日(初回処理26日後), 12月24日(最終処理65日後), 2021年4月15日(最終処理177日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

薬害は葉身を対象に肉眼により観察した。薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

ー:薬害なし +:軽微な薬害症状あり ++:中程度の薬害症状あり +++:重度の薬害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率 (%)	防除価 4/15	薬害 10/20, 12/24, 4/15
17) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot. 97K006	100	0.1	I	0	92.4	—
			II	0		—
			III	10		—
			平均	3.3		—
	500	0.5	I	10	76.9	—
			II	10		—
			III	10		—
			平均	10.0		—
対) シバンバPROフロアブル アゾキシストロビン 18.0% ヘキサコナゾール 15.3%	500	0.2	I	0	96.1	—
			II	5		—
			III	0		—
			平均	1.7		—
無処理	—	—	I	30		
			II	40		
			III	60		
			平均	43.3		

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

2020年5月に立枯病の発生を確認した箇所で試験を実施した。

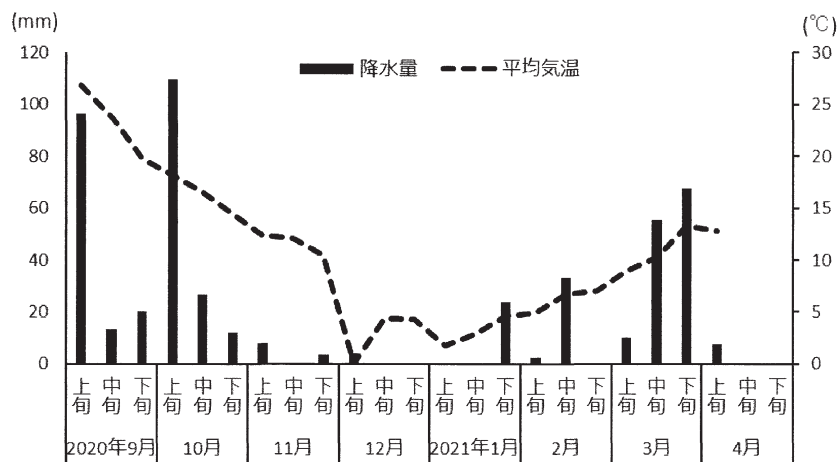
最終処理177日後(4/15)に調査したところ、無処理区に立枯病の発生が確認されたため、この日の調査結果で判定することとした。

17) 丸和レキシコン 100倍, 0.1L/m² BAA- 500倍, 0.5L/m² CBB-

本剤の100倍, 0.1L/m²区は対照薬剤のシバンバPROフロアブルと同等の防除効果を示した。無処理区に比べて防除効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の500倍, 0.5L/m²区は対照薬剤のシバンバPROフロアブルに比べて防除効果は低かった。無処理区に比べて防除効果は認められた。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

試験期間中の気象条件



観測地点: 茨城県下妻アメダスデータ

対象病虫害名・学名 立枯病 *Gaeumannomyces graminis*

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県笠間市南小泉 宍戸ヒルズカントリークラブ ラフ

対象病虫害発生状況 多発生 初発:2021年4月下旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:ノシバ 土性:不明

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高50mm 刈り込み頻度:10月末まで週1回、その後は刈込なし ゴルフ場の慣行(ラフの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 4m² (2×2m) , 3連制

					1-I	
					2-1	3-1
3-II		4-II	2-II	1-II	4-1	
2-III		1-III		3-III		4-III

1. 丸和レキシコン 100倍

2. 丸和レキシコン 500倍

3. クルセイダーフロアブル

4. 無処理

I, II, IIIは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年9月29日, 10月26日

(作物のステージ) 生育停滞期

(処理方法) 水量0.1L/m²は充電式噴霧器(1頭口, Teejet8003ノズル), 同0.25および0.5L/m²は園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため、影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

末尾に記載

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年5月6日(最終処理192日後)

薬害:2020年10月26日(初回処理27日後), 12月24日(最終処理59日後), 2021年5月6日(最終処理192日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

薬害は葉身を対象に肉眼により観察した。薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

一:薬害なし +:軽微な薬害症状あり ++:中程度の薬害症状あり +++:重度の薬害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率 (%)	防除価 5/6	薬害 10/26, 12/24, 5/6
17) 丸和レキシコン ピラクストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot. 97K006	100	0.1	I	5	83.3	—
			II	5		—
			III	10		—
			平均	6.7		
	500	0.5	I	10	79.3	—
			II	5		—
			III	10		—
			平均	8.3		
対) クルセイダーフロアブル テブコナゾール 40.0%	1000	0.25	I	5	70.8	—
			II	20		—
			III	10		—
			平均	11.7		
無処理	—	—	I	40		
			II	50		
			III	30		
			平均	40.0		

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

2020年5月に立枯病の発生を確認した箇所試験を実施した。

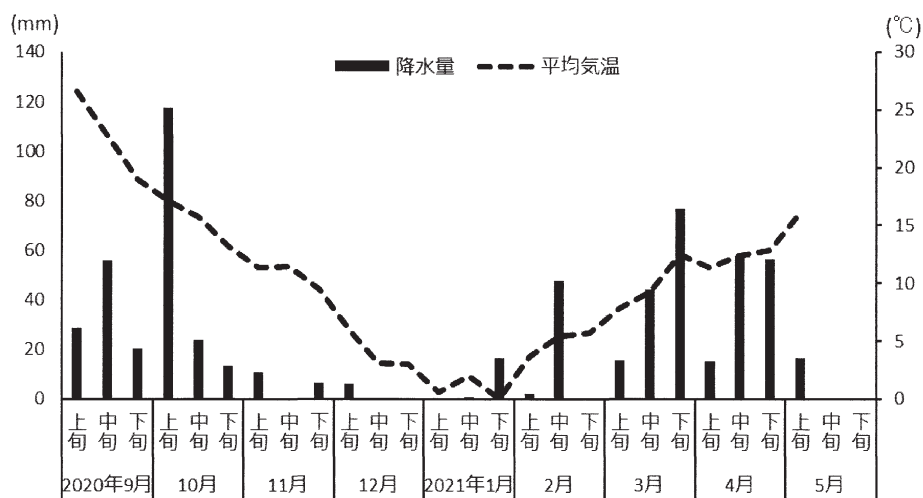
最終処理192日後(5/6)に調査したところ、無処理区に立枯病の発生が確認されたため、この日の調査結果で判定することとした。

17) 丸和レキシコン 100倍, 0.1L/m² AAA- 500倍, 0.5L/m² BBB-

本剤の100倍, 0.1L/m²区は対照薬剤のクルセイダーフロアブルより高い防除効果を示した。無処理区に比べて防除効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の500倍, 0.5L/m²区は対照薬剤のクルセイダーフロアブルと同等の防除効果を示した。無処理区に比べて防除効果は認められた。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

試験期間中の気象条件



観測地点: 茨城県笠間アメダスデータ

対象病害虫名・学名 立枯病 *Gaeumannomyces graminis*

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 東京都多摩市中沢 府中カントリークラブ ラフ

対象病害虫発生状況 中発生 初発:2021年5月下旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:ノシバ 土性:不明

試験期間中の薬剤防除:2021年3月22日葉腐病(ラージパッチ)防除のため、セレンターフ顆粒水和剤(0.5g/0.2L/m²)散布

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高50mm 刈り込み頻度:11月末まで週1回, 12月~4月上旬刈込なし, 4月下旬より週1回

ゴルフ場の慣行(ラフの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 4m² (2×2m), 3連制

2-I		3-II	2-II
1-I		1-II	4-II
4-I	3-I		
	1-III		4-III
	2-III	3-III	

1. 丸和レキシコン 100倍

2. 丸和レキシコン 500倍

3. シバンバPROフロアブル

4. 無処理

I, II, IIIは連制を示す。

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年12月11日, 2021年3月26日

(作物のステージ) 生育停滞期~生育期

(処理方法) 水量0.1L/m²は充電式噴霧器(1頭口, Teejet8003ノズル), 同0.2および0.5L/m²は園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため、影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

末尾に記載

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年6月7日(最終処理73日後)

薬害:2021年3月26日(初回処理105日後), 4月26日(最終処理31日後), 6月7日(最終処理73日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

薬害は葉身を対象に肉眼により観察した。薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

ー:薬害なし 十:軽微な薬害症状あり 十+:中程度の薬害症状あり 十十+:重度の薬害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率 (%)	防除価 6/7	薬害 3/26, 4/26, 6/7
17) 丸和レキシコン ピラクlostロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot. 97K006	100	0.1	I	5	71.2	—
			II	5		—
			III	10		—
			平均	6.7		—
	500	0.5	I	5	71.2	—
			II	5		—
			III	10		—
			平均	6.7		—
対) シバンバPROフロアブル アゾキシストロビン 18.0% ヘキサコナゾール 15.3%	500	0.2	I	10	75.5	—
			II	2		—
			III	5		—
			平均	5.7		—
無処理	—	—	I	20		
			II	20		
			III	30		
			平均	23.3		

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

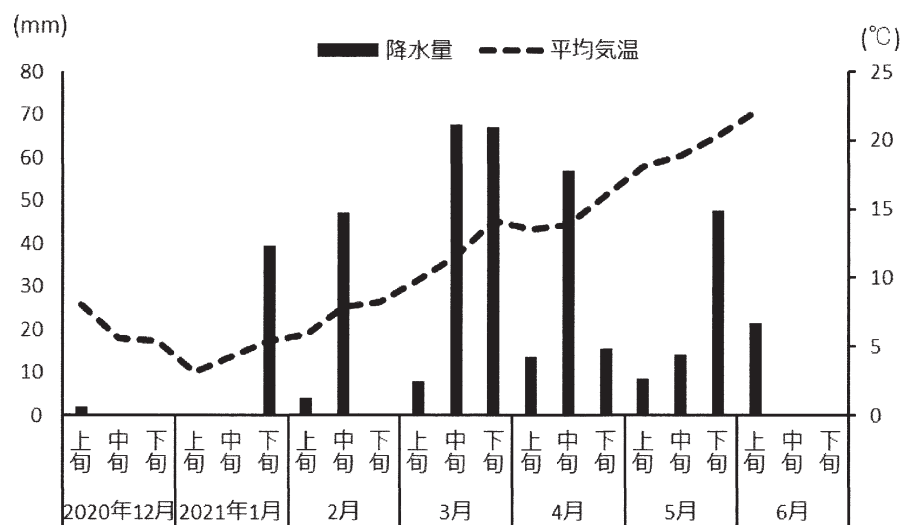
2020年5月に立枯病の発生を確認した箇所試験を実施した。

最終処理31日後(4/26)の調査では、無処理区に立枯病の発生が見られなかった。最終処理73日後(6/7)に調査したところ、無処理区に立枯病の発生が確認されたため、この日の調査結果で判定することとした。

17) 丸和レキシコン 100倍, 0.1L/m² BBB- 500倍, 0.5L/m² BBB-

本剤の100倍, 0.1L/m²区および500倍, 0.5L/m²区は対照薬剤のシバンバPROフロアブルと同等の防除効果を示した。無処理区に比べて防除効果は認められた。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

試験期間中の気象条件



観測地点: 東京都府中アメダスデータ

対象病虫害名・学名 立枯病 *Gaeumannomyces graminis*

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 静岡県沼津市宮本 新沼津カントリークラブ ラフ

対象病虫害発生状況 多発生 初発:2021年3月下旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:ノシバ 土性:不明

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高50mm 刈り込み頻度:10月末まで週1回、その後は刈込なし ゴルフ場の慣行(ラフの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 4m² (2×2m), 3連制

2-I	3-I	1-II	4-II	3-III
	4-I	3-II	2-III	
1-I		2-II	4-III	1-III

1. 丸和レキシコン 100倍
 2. 丸和レキシコン 500倍
 3. シバンバPROフロアブル
 4. 無処理
- I, II, IIIは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年9月15日, 10月30日

(作物のステージ) 生育停滞期

(処理方法) 水量0.1L/m²は充電式噴霧器(1頭口, Teejet8003ノズル), 同0.2および0.5L/m²は園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため、影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

末尾に記載

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年3月30日(最終処理151日後)

薬害:2020年10月30日(初回処理45日後), 2021年3月30日(最終処理151日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

薬害は葉身を対象に肉眼により観察した。薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

—:薬害なし +:軽微な薬害症状あり ++:中程度の薬害症状あり +++:重度の薬害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率(%)	防除価 3/30	薬害 10/30, 3/30
17) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot. 97K006	100	0.1	I	0	100	—
			II	0		—
			III	0		—
			平均	0		—
	500	0.5	I	0	100	—
			II	0		—
			III	0		—
			平均	0		—
対) シバンバPROフロアブル アゾキシストロビン 18.0% ヘキサコナゾール 15.3%	500	0.2	I	10	90	—
			II	0		—
			III	0		—
			平均	3.3		—
無処理	—	—	I	30		
			II	30		
			III	40		
			平均	33.3		

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

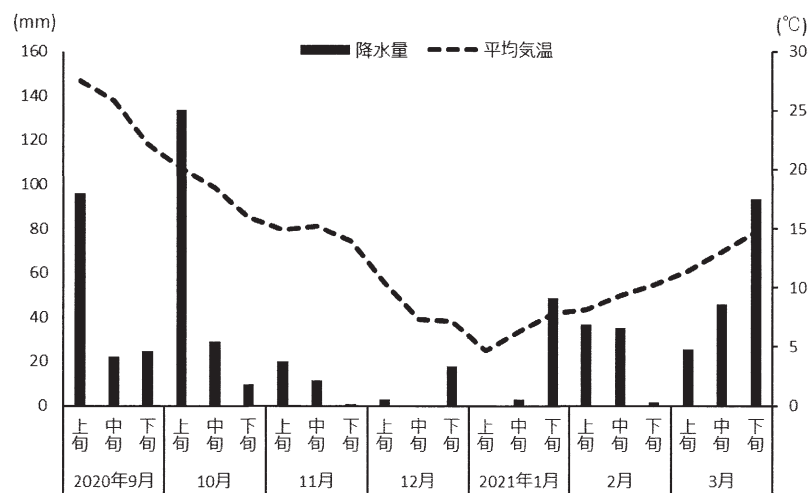
2020年4月に立枯病の発生を確認した箇所試験を実施した。

最終処理151日後(3/30)に調査したところ、無処理区に立枯病の発生が確認されたため、この日の調査結果で判定することとした。

17) 丸和レキシコン 100倍, 0.1L/m² AAA- 500倍, 0.5L/m² AAA-

本剤の100倍, 0.1L/m²区および500倍, 0.5L/m²区は対照薬剤のシバンバPROフロアブルに比べて防除効果は高かった。無処理区に比べて高い防除効果を示した。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

試験期間中の気象条件



観測地点: 静岡県三島アメダスデータ

対象病害虫名 フェアリーリング病(ホリタ) *Lycoperdon perlatum*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 広島カンツリー倶楽部(広島県東広島市八本松町)

対象病害虫発生状況 中発生

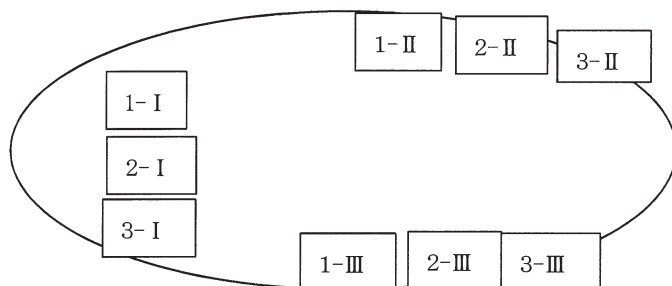
耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:ベントグラス 定植:3年以上 パッティンググリーン

刈高:3.8mm 施肥:パッティンググリーンの一般管理

土性:サンドグリーン 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(2m×1m) 3連制



1:ディスアームフロアブル 800倍 0.1L/㎡ 2:セルカディスフロアブル 800倍 0.2L/㎡ 3:無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年7月29日、8月10日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡ 0.2L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験期間中、降雨日が多かった。

試験期間中の気象条件

月 日	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9
項目												
平均気温(℃)	25.5	27.3	26.8	27.2	27.2	27.4	27.3	28.0	27.8	27.0	26.7	24.5
降水量(mm)											26.0	45.5
月 日	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/24
項目												
平均気温(℃)	24.8	23.2	21.6	23.0	22.7	23.2	21.8	22.7	23.1	23.3	23.3	24.4
降水量(mm)		0.5	95.5	157.5	154.0	7.5	8.5	14.0	31.0	15.5	11.5	1.5

観測地点:東広島市のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年8月10日(1回目処理後12日)、8月24日(2回目処理後14日)

防除効果は、病徴を+++ (明瞭) ~ ++ ~ + ~ ± ~ - (なし)までの5段階で評価

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、降雨日が続いた。

3. 試験成績

供 試 薬 剤	処理量	区 制	7月29日	8月10日	8月24日	薬 害
			病徴1)	病徴1)	病徴1)	2021/8/10 2021/8/24
12) ディスアームフロアブル フルオキサストロビン 40.3% lot.24.4SOE016	800倍 0.1L/m ²	I	+++	+	+	—
		II	+++	++	+	—
		III	+++	++	+	—
対) セルカディスフロアブル フルキサピロキサト 35%	800倍 0.2L/m ²	I	+++	+	+	—
		II	+++	+	+	—
		III	+++	++	+	—
無処理		I	+++	+++	+++	
		II	+++	+++	+++	
		III	+++	+++	+++	

4. 考 察

2021 年 8 月 24 日 判定

12) ディスアームフロアブル 800倍 0.1L/m² BBB-

本剤の800倍 0.1L/m²処理は、対照薬剤セルカディスフロアブル(800 倍 0.2L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 フェアリーリング病(ホリタ) *Lycoperdon perlatum*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 和木ゴルフ倶楽部(山口県玖珂郡和木町)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

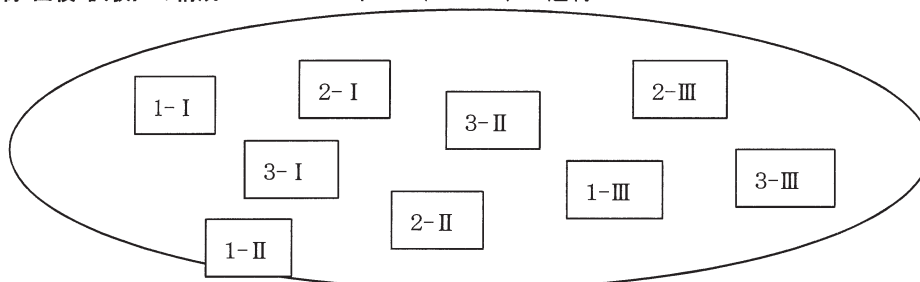
品種:ベントグラス 定植:10年以上 パッティンググリーン

刈高:4.0mm 施肥:パッティンググリーンの一般管理

土性:サンドグリーン 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成

1区2㎡(2m×1m) 3連制



1:ディスタームフロアブル 800倍 0.1L/㎡ 2:セルカディスタームフロアブル 800倍 0.2L/㎡ 3:無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年8月2日、8月11日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡ 0.2L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 8月11日(処理日)の降雨は処理後4時間

試験期間中の気象条件

月 日	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12
項目	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12
平均気温(℃)	28.2	28.2	28.6	29.1	29.9	29.8	29.6	28.1	26.1	25.9	24.0	22.9
降水量(mm)								42.5	100.5		0.5	73.0
月 日	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24
項目	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24
平均気温(℃)	24.9	23.8	24.6	22.7	23.8	23.5	24.5	24.1	24.8	25.4	26.9	27.0
降水量(mm)	121.5	129.5	4.0	11.5	34.5	5.0	21.0	3.0	4.0	9.5		

観測地点:岩国のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年8月11日(1回目処理後9日)、8月23日(2回目処理後12日)

防除効果は、病徴を+++ (明瞭) ~ ++ ~ + ~ ± ~ - (なし)までの5段階で評価

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、降雨日が続いた。

3. 試 験 成 績

供 試 薬 剤	処理量	区 制	8月2日	8月11日	8月23日	薬 害
			病徴1)	病徴1)	病徴1)	2021/8/11 2021/8/23
12) ディスアームフロアブル フルオキサストロビン 40.3% lot.24.4SOE016	800倍 0.1L/m ²	I	+++	++	+	—
		II	+++	++	++	—
		III	+++	++	+	—
対) セルカディスフロアブル フルキサピロキサト 35%	800倍 0.2L/m ²	I	+++	++	+	—
		II	+++	++	+	—
		III	+++	++	++	—
無処理		I	+++	+++	+++	
		II	+++	+++	+++	
		III	+++	+++	+++	

4. 考 察

2021 年 8 月 23 日 判定

12) ディスアームフロアブル 800倍 0.1L/m² BBB-

本剤の800倍 0.1L/m²処理は、対照薬剤セルカディスフロアブル(800 倍 0.2L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ネクロティックスポット病 *Ophiosphaerella Korrae*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 吉備カントリークラブ(岡山県総社市新本)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:コウライシバ 定植:10年以上 ジェネラルエリヤ

刈高:13~15mm 施肥:ジェネラルエリヤの一般管理

土性:花崗岩風化土壌 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区20㎡(5m×4m) 3連積

1-I							
2-I	3-I	1-II		4-II	2-III		4-III
	4-I	2-II	3-II	1-III		3-III	

1:トップバスター顆粒水和剤 200倍 0.2L/㎡ 2:トップバスター顆粒水和剤 500倍 0.2L/㎡ 3:シバンバ pro フロアフル 500倍 0.2L/㎡

4:無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年10月27日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤および対照薬剤を、動力噴霧器を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 旬	10月 下旬	11月 上旬	11月 中旬	11月 下旬	12月 上旬	12月 中旬	12月 下旬	1月 上旬	1月 中旬	1月 下旬	2月 上旬	2月 中旬
平均気温(℃)	13.2	11.4	12.2	9.5	5.9	3.4	3.6	0.1	2.5	5.4	4.4	5.9
降水量(mm)	67.5	30.0		3.0			25.5	0.5	3.5	45.0	9.5	25.0

月 旬	2月 下旬	3月 上旬	3月 中旬	3月 下旬	4月 上旬	4月 中旬	4月 下旬	5月 上旬	5月 中旬	5月 下旬
平均気温(℃)	6.9	8.2	9.7	11.6	12.5	12.5	15.3	15.4	19.8	19.0
降水量(mm)	7.0	28.5	18.0	26.5	17.0	22.5	50.0	32.0	87.0	41.5

観測地点:高梁市アメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 薬効調査:2021年5月19日(処理205日後)

薬害調査:2020年10月28日、2021年4月6日

(調査方法) 試験区(20㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布翌日と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

2020年の秋期は降雨が少なく、薬剤処理後、乾燥状態が続いた。

3. 試 験 成 績

供 試 薬 剤	処理量	区 制	5月19日		薬害
			ハッチ面積率(%) 防除価		2020/10/28 2021/4/6
13) トップバスター顆粒水和剤 チオファネートメチル 35.0% メコナゾール 5.0% lot.SOC-02T	200倍 0.2L/㎡	I	4.0		－
		II	5.0		－
		III	5.0		－
		平 均	4.7	76.5	
	500倍 0.2L/㎡	I	5.0		－
		II	5.0		－
		III	5.0		－
		平 均	5.0	75.0	
対) シバンバproフロアブル アゾキシストロビン 18.0% ヘキサコナゾール 15.3%	500倍 0.2L/㎡	I	3.0		－
		II	3.0		－
		III	5.0		－
		平 均	3.7	81.5	
無処理		I	20.0		
		II	20.0		
		III	20.0		
		平 均	20.0		

4. 考 察

2021年5月19日 判定

13) トップバスター顆粒水和剤 200倍 0.2L/㎡ BBB- 500倍 0.2L/㎡ BBB-

本剤の200倍 0.2L/㎡ 処理は、対照薬剤シバンバ pro フロアブル(500 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の500倍 0.2L/㎡ 処理は、対照薬剤シバンバ pro フロアブル(500 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ネクロティックリングスポット病 *Ophiosphaerella Korrae*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 周南カントリー倶楽部(山口県周南市安田)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種:コウライシバ 定植:10年以上 ジェネラルエリヤ

刈高:15mm 施肥:ジェネラルエリヤの一般管理

土性:花崗岩風化土壌 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成

1区20㎡(5m×4m) 3連制

1-I	4-I
2-I	5-I
3-I	6-I

1-II	4-II
2-II	5-II
3-II	6-II

1-III	4-III
2-III	5-III
3-III	6-III

1:トップバスター顆粒水和剤 200倍 0.2L/㎡ 2:トップバスター顆粒水和剤 500倍 0.2L/㎡ 3:丸和レキシコン 100倍 0.1L/㎡

4:丸和レキシコン 500倍 0.5L/㎡ 5:シバンバ pro フロアブル 500倍 0.2L/㎡ 6:無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年10月26日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤および対照薬剤を、動力噴霧器を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

項目 \ 月 旬	10月 下旬	11月 月上旬	11月 月中旬	11月 月下旬	12月 月上旬	12月 月中旬	12月 月下旬	1月 月上旬	1月 月中旬	1月 月下旬	2月 月上旬	2月 月中旬
平均気温(℃)	15.8	14.0	16.0	11.8	8.5	5.6	6.3	2.2	5.7	8.0	7.3	8.1
降水量(mm)	75.5	17.0	13.0	3.0			33.0		2.5	46.5	27.5	36.5

項目 \ 月 旬	2月 下旬	3月 月上旬	3月 月中旬	3月 月下旬	4月 月上旬	4月 月中旬	4月 月下旬	5月 月上旬	5月 月中旬	5月 月下旬
平均気温(℃)	10.1	10.1	12.1	13.4	14.7	13.7	16.7	16.5	19.9	19.5
降水量(mm)	19.0	42.5	47.0	106.5	35.0	70.5	52.5	120.5	188.5	59.0

観測地点: 下松市アメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 薬効調査: 2021年5月18日(処理205日後)

(調査方法) 試験区(20㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価 = (1 - 処理区病斑面積率の平均 / 無処理区病斑面積率の平均) × 100

薬害は、茎葉を対象に、散布翌日と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

- : 薬害を認めない。+ : 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

2020年の秋期は降雨が少なく、薬剤処理後、乾燥状態が続いた。

3. 試 験 成 績

供 試 薬 剤	処理量	区 制	5月18日		薬害
			ハッチ面積率(%) 防除価		2020/10/27 2021/5/18
12) トップバスター顆粒水和剤 チオファネートメチル 35.0% メコナゾール 5.0% lot.SOC-02T	200倍 0.2L/㎡	I	5.0		-
		II	6.0		-
		III	5.0		-
		平 均	5.3	75.6	
	500倍 0.2L/㎡	I	6.0		-
		II	6.0		-
		III	6.0		-
		平 均	6.0	72.4	
18) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサト 4.0% lot.03k003	100倍 0.1L/㎡	I	6.0		-
		II	6.0		-
		III	5.0		-
		平 均	5.7	73.7	
	500倍 0.5L/㎡	I	6.0		-
		II	6.0		-
		III	4.0		-
		平 均	5.3	75.6	
対) シバンバproフロアブル アゾキシストロビン 18.0% ヘキサコナゾール 15.3%	500倍 0.2L/㎡	I	5.0		-
		II	5.0		-
		III	5.0		-
		平 均	5.0	77.0	
無処理		I	25.0		-
		II	20.0		-
		III	20.0		-
		平 均	21.7		

4. 考 察

2021年5月18日 判定

12) トップバスター顆粒水和剤 200倍 0.2L/㎡ BBB- 500倍 0.2L/㎡ BBB-

本剤の200倍 0.2L/㎡ 処理は、対照薬剤シバンバ^{pro}フロアブル(500倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の500倍 0.2L/㎡ 処理は、対照薬剤シバンバ^{pro}フロアブル(500倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

18) 丸和レキシコン 100倍 0.1L/㎡ BBB- 500倍 0.5L/㎡ BBB-

本剤の100倍 0.1L/㎡ 処理は、対照薬剤シバンバ pro フロアブル(500 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では防除効果があり、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の500倍 0.5L/㎡ 処理は、対照薬剤シバンバ pro フロアブル(500 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では防除効果があり、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ネクロティウム病 *Ophiosphaerella Korrae*

試験場名 新中國グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 吉備カントリークラブ(岡山県総社市新本)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種:コウライシバ 定植:10年以上 ジェネラルエリヤ

刈高:13~15mm 施肥:ジェネラルエリヤの一般管理

土性:花崗岩風化土壌 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区20㎡(5m×4m) 3連制

	2-I		1-II				
	3-I		2-II	4-II		2-III	4-III
1-I	4-I		3-II		1-III	3-III	

1:丸和レキシコン 100 倍 0.1L/㎡ 2:丸和レキシコン 500 倍 0.5L/㎡ 3:シバシバ pro フロアフル 500 倍 0.2L/㎡

4:無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年10月27日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤および対照薬剤を、動力噴霧器を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 旬	10月 下旬	11月 上旬	11月 中旬	11月 下旬	12月 上旬	12月 中旬	12月 下旬	1月 上旬	1月 中旬	1月 下旬	2月 上旬	2月 中旬
平均気温(℃)	13.2	11.4	12.2	9.5	5.9	3.4	3.6	0.1	2.5	5.4	4.4	5.9
降水量(mm)	67.5	30.0		3.0			25.5	0.5	3.5	45.0	9.5	25.0

月 旬	2月 下旬	3月 上旬	3月 中旬	3月 下旬	4月 上旬	4月 中旬	4月 下旬	5月 上旬	5月 中旬	5月 下旬
平均気温(℃)	6.9	8.2	9.7	11.6	12.5	12.5	15.3	15.4	19.8	19.0
降水量(mm)	7.0	28.5	18.0	26.5	17.0	22.5	50.0	32.0	87.0	41.5

観測地点:高梁市アメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 薬効調査:2021年5月19日(処理205日後)

(調査方法) 試験区(20㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布翌日と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

2020年の秋期は降雨が少なく、薬剤処理後、乾燥状態が続いた。

3. 試 験 成 績

供 試 薬 剤	処理量	区 制	5月19日		薬害
			ハッチ面積率(%) 防除価		2020/10/28 2021/5/19
18) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサト 4.0% lot.03k003	100倍 0.1L/㎡	I	4.0		-
		II	6.0		-
		III	4.0		-
		平 均	4.7	76.5	
	500倍 0.5L/㎡	I	5.0		-
		II	3.0		-
		III	3.0		-
		平 均	3.7	81.5	
対) シバンバproフロアブル アゾキシストロビン 18.0% ヘキサコナゾール 15.3%	500倍 0.2L/㎡	I	3.0		-
		II	3.0		-
		III	5.0		-
		平 均	3.7	81.5	
無処理		I	20.0		
		II	20.0		
		III	20.0		
		平 均	20.0		

4. 考 察

2021年5月19日 判定

18) 丸和レキシコン 100倍 0.1L/㎡ BBB- 500倍 0.5L/㎡ BBB-

本剤の100倍 0.1L/㎡ 処理は、対照薬剤シバンバ pro フロアブル(500 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の500倍 0.5L/㎡ 処理は、対照薬剤シバンバ pro フロアブル(500 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病虫害名 ネクロティックリングスポット病 *Ophiosphaerella Korrae*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

2. 試験方法 試験地場所 賀茂カントリークラブ(広島県東広島市高屋町)

对象病虫害发生状况	中发生
-----------	-----

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種:ノシバ 定植:10年以上 ジェネラルエリヤ

刈高: 35 mm 施肥: ジェネラルエリヤの一般管理

土性:花崗岩風化土壤

区制・面積・試験区の構成 1区20m²(5m×4m) 3連制

1-I	2-I	3-I	4-I	1-II		2-II				
				3-II	4-II		1-III	2-III	3-III	4-III

1:トップバスター顆粒水和剤 200 倍 0.2L/m² 2:トップバスター顆粒水和剤 500 倍 0.2L/m² 3:シバンバ[®] pro フロアブル 500 倍 0.2L/m²

4: 無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年10月28日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤および対照薬剤を、動力噴霧器を使用して、 $0.2\text{L}/\text{m}^2$ の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 旬 項 目	10 月 下旬	11 月 上旬	11 月 中旬	11 月 下旬	12 月 上旬	12 月 中旬	12 月 下旬	1月 上旬	1月 中旬	1月 下旬	2 月 上旬	2 月 中旬
平均気温(℃)	12.6	11.2	12.4	9.1	5.5	2.8	3.3	-0.4	2.2	4.9	3.9	5.6
降水量(mm)	67.0	23.0	4.0	5.0			38.0		5.5	54.0	16.5	16.5

月 旬 項 目	2月 下旬	3月 上旬	3月 中旬	3月 下旬	4月 上旬	4月 中旬	4月 下旬	5月 上旬	5月 中旬	5月 下旬
平均気温(℃)	6.9	7.8	9.0	10.5	11.5	11.1	14.3	14.9	19.0	18.1
降水量(mm)	13.0	28.5	18.5	44.5	24.0	35.5	67.0	25.0	148.0	43.0

観測地点:東広島市アメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 薬効調査:2021年5月17日(処理202日後)

(調査方法) 試験区(20m²)に発生した病斑面積の測定により調査した。

$$\text{防除価} = (1 - \text{処理区病斑面積率の平均} / \text{無処理区病斑面積率の平均}) \times 100$$

薬害は、茎葉を対象に、散布翌日と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

一：薬害を認めない。＋：軽微な薬害症状を認める。＋＋：中程度の薬害症状を認める。＋＋＋：重度の薬害症状を認める。

その他

2020年の秋期は降雨が少なく、薬剤処理後、乾燥状態が続いた。

3. 試験成績

供 試 薬 剤	処理量	区 制	5月17日		薬害
			ハッチ面積率(%) 防除価		2020/10/29 2021/5/17
12) トップバスター顆粒水和剤 チオファネートメチル 35.0% メコナゾール 5.0% lot.SOC-02T	200倍 0.2L/㎡	I	3.0		－
		II	4.0		－
		III	3.0		－
		平 均	3.3	71.8	
	500倍 0.2L/㎡	I	3.0		－
		II	4.0		－
		III	4.0		－
		平 均	3.7	68.4	
対) シバンバproフロアブル アゾキシストロビン 18.0% ヘキサコナゾール 15.3%	500倍 0.2L/㎡	I	4.0		－
		II	4.0		－
		III	3.0		－
		平 均	3.7	68.4	
無処理		I	15.0		
		II	10.0		
		III	10.0		
		平 均	11.7		

4. 考 察

2021年5月17日 判定

12) トップバスター顆粒水和剤 200倍 0.2L/㎡ BBB- 500倍 0.2L/㎡ BBB-

本剤の200倍 0.2L/㎡ 処理は、対照薬剤シバンバ pro フロアブル(500 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の500倍 0.2L/㎡ 処理は、対照薬剤シバンバ pro フロアブル(500 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 ネクロティックリングスポット病 *Ophiosphaerella korrae*

試験場名 一般財団法人西日本グリーン研究所 担当者氏名 旭 祥吾

1. 試 験 目 的 防除効果および薬害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 福岡県小郡市 (一財)西日本グリーン研究所 試験圃場

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 多発生 初発:4月中旬

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:コウライシバ 土性:砂土 試験期間中の薬剤防除:なし

施肥: なし 管理方法:刈高:15.0mm 刈り込み頻度:1回/週 (刈止;11月21日、刈初め4月8日)

区制・面積・試験区の構成 1区 4 m²(2m×2m) 3連制

2-I	3-I	4-I	1-I
1-II	2-II	3-II	4-II
3-III	4-III	1-III	2-III

1:トップバスター顆粒水和剤 200倍/0.2L/m² 2:トップバスター顆粒水和剤 500倍/0.2L/m²3:ガイア顆粒水和剤 2000倍/0.5L/m² 4:無処理 I, II, IIIは連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年 10月19日および 11月18日の計2回

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 0.2L/m²処理は電池式噴霧器、0.5L/m²は園芸用ジョロを用いて、所定量を散布した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後に降雨は無く、影響はないと思われる。

試験期間中の気象条件

月/旬	10/中	10/下	11/上	11/中	11/下	12/上	12/中	12/下	1/上	1/中	1/下
平均気温(℃)	18.4	15.8	13.7	15.9	11.7	8.5	5.6	6.1	2.0	5.8	8.7
旬別降水量合計(mm)	15.0	36.0	12.5	7.0	5.5	0.0	0.0	37.5	12.5	4.0	29.0
月/旬	2/上	2/中	2/下	3/上	3/中	3/下	4/上	4/中	4/下		
平均気温(℃)	6.9	8.6	11.6	11.1	13.3	13.7	15.4	14.5	18.1		
旬別降水量合計(mm)	32.0	36.5	17.0	57.5	23.5	41.0	11.5	26.0	34.0		

観測地点:アメダス太宰府

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:2021年4月28日(最終散布161日後)

薬害試験:2020年11月18日(2回目散布前)、2020年11月27日(最終散布9日後)

(調査方法) 薬効:処理区内のパッチ面積の測定により調査した。

薬害:茎葉を対象に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない +:軽微な薬害症状を認める

++:中程度の薬害症状を認める +++:重度の薬害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 ネクロティックリングスポット病 *Ophiosphaerella korrae*

試験場名 一般財団法人西日本グリーン研究所

3. 試 験 成 績

供 試 薬 剤	希釈倍数 (倍)	希釈水量 (L/㎡)	区制	パッチ面積率 (防除価)	薬 害	
				2021/4/28 調査	2020/11/18, 11/27	
12)トップバスター顆粒水和剤 チオファネートメチル 35% メコナゾール 5% Lot No. 20.11 SGL-01T	200	0.2	I 区	7.5%	—	
			II 区	8.8	—	
			III区	3.5	—	
			平均	6.6 (83)		
	500	0.2	I 区	9.2	—	
			II 区	9.0	—	
			III区	6.1	—	
			平均	8.1 (79)		
	対)ガイア顆粒水和剤 ペンチオピラド 50%	2000	0.5	I 区	9.9	—
				II 区	8.2	—
III区				5.0	—	
平均				7.7 (80)		
無 処 理	—	—	I 区	42.8	—	
			II 区	39.5	—	
			III区	35.5	—	
			平均	39.3		

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

2021 年 4 月 28 日に行った調査結果から判定した。

12) トップバスター顆粒水和剤 200 倍・0.2L/m²散布 BBB- , 500 倍・0.2L/m²散布 BBB-

本剤の 200 倍・0.2L/m², 500 倍・0.2L/m²の 2 処理は対照処理と比べて防除効果は同等で、無処理と比べて防除効果は認められたので、実用性はあると考えられる。2 処理ともに薬害は認められなかった。

対象病虫害名・学名 紅色雪腐病 *Microdochium nivale*

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所 担当者氏名 岡本陽子、沼田慎一、守田航馬、瀬川沙枝、齋藤龍平

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 群馬県吾妻郡嬭恋村嬭恋高原 嬭恋高原ゴルフ場 No.18 ティーグラウンド

対象病虫害発生状況 少発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:コロニアルベントグラス(品種:ハイランド) 土性:不明 施肥その他の管理はゴルフ場の慣行に従った。

根雪期間:2020年12月中旬~2021年3月中旬

試験期間中の薬剤防除:2020年11月25日、12月10日 グランサー水和剤

区制・面積・試験区の構成 1区4.0m²(2.0m×2.0m) 3連制

1-I	3-I	4-I	2-I	5-I	1. MIF-1804顆粒水和剤 ×2000 0.5L/m ² 2. 丸和レキシコン ×100 0.1L/m ² 3. 丸和レキシコン ×500 0.5L/m ² 4. キノドー水和剤80 ×200 0.5L/m ² 5. 無処理 I、II、IIIは連制を示す
3-II	5-II	1-II	4-II	2-II	
4-III	2-III	5-III	1-III	3-III	

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年11月26日および12月11日の計2回。

(処理方法) 水量0.5L/m²を散布する薬剤は園芸用ジョロを用いて所定量を散布した。水量0.1L/m²を散布する薬剤は背負式バッテリー動力噴霧機を用いて、所定量を散布した。

(処理前後の降雨影響) 処理当日に降雨がなかったため、影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	11/26	27	28	29	30	12/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
平均気温(℃)	5.1	3.5	0.9	0.6	1.6	1.2	0.8	1.8	-0.9	-0.1	1.2	3.3	1.6	-0.2	1.5	2.2	2.4	-0.1	-3	-5.4	-6.6	-6.7	-1.7	-5	-6.9
降水量(mm)	0	0	2.5	0	0	0	0	0	0	2.5	0	0	0	0	0	0	0	1.0	2.5	1.0	5.5	4.0	0	9.0	9.5
降雪量(cm)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.0	0	0	0	1	0	0	0	1.0	7.0	7.0	15.0	6.0	1.0	17.0	14.0

月日	12/21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
平均気温(℃)	-4.8	-2.4	-0.6	1.5	-1.8	-3	-1	0.9	1.6	-0.6	-9.0	-6.2	-5.7	-5.8	-3.1	-1.7	-3.9	-5.6	-9.1	-8.6	-8.0	-6.2	-5.0	-2.7	-0.2
降水量(mm)	0	0	0	0	1.5	0	0	0	0	11.0	5.0	1.5	0	0	0	0	0	2.5	0	0	0	1.0	2.5	0	0
降雪量(cm)	1.0	1.0	2.0	1.0	12.0	2.0	1.0	1.0	2.0	15.0	7.0	6.0	0	0	2.0	2.0	2.0	11.0	0	0	2.0	4.0	6.0	1.0	2.0

月日	1/15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2/1	2	3	4	5	6	7	8
平均気温(℃)	-1.3	-0.4	-4.2	-4.6	-7.9	-5.9	0.6	3.2	0.3	-0.5	-0.6	-1.1	1.0	-3.3	-6.3	-7.3	-4.6	-1.0	-0.8	-4.8	-4.7	-2.6	1.3	-0.1	-6.5
降水量(mm)	0	1.0	0	0	3.0	0	0	0	10.5	19.0	0	0	2.0	0.5	1.5	0.5	0	0	6	0	0	0	0	1.5	3.0
降雪量(cm)	1.0	4.0	1.0	1.0	11.0	1.0	1.0	5.0	12.0	17.0	2.0	4.0	7.0	5.0	10.0	2.0	5.0	0	1.0	2.0	2.0	8.0	3.0	6.0	10.0

月日	2/9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	3/1	2	3	4	5
平均気温(℃)	-7.7	-2.5	-2.2	1.3	2.7	4.5	3.1	-3.0	-6.6	-8.2	-3.4	2.8	6.7	7.9	-2.6	-6.4	-3.1	-2.1	-5.4	0.2	3.3	1.6	-3.1	-1.3	2.1
降水量(mm)	4.5	0	4.0	0	0	0	29.0	1.0	7.0	0.5	0.5	0	0	0	5.0	0	0	0	0	0	0	14.0	0	0	1.5
降雪量(cm)	5.0	3.0	15.0	1.0	3.0	1.0	2.0	1.0	14.0	4.0	5.0	4.0	4.0	2.0	5.0	2.0	2.0	0	1.0	2.0	2.0	2.0	3.0	3.0	6.0

月日	3/6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23							
平均気温(℃)	2.9	-0.7	1.3	1.1	0.5	3.3	5.1	2.2	1.1	2.7	7.0	2.7	4.2	5.1	4.0	6.1	0.2	0.6							
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	0	45.0	0	0	0	0	0	0	5.5	35.5	0	0							
降雪量(cm)	7.0	2.0	7.0	4.0	5.0	3.0	4.0	11.0	1.0	3.0	1.0	0	0	0	0	0	0	0							

(アメダスデータ観測地点：群馬県草津) 大枠は処理日

(アメダスデータ観測地点: 群馬県草津) 太枠は処理日

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:2021年3月23日(最終処理102日後)

薬害試験:2020年12月11日(初回処理15日後)、2021年3月23日

(調査方法) 各試験区のパッチ面積率を調査した。パッチ面積率の平均から防除価を算出した。

防除価=(1-処理区パッチ面積率の平均/無処理区パッチ面積率の平均)×100

薬害は、葉身を対象に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

-:薬害を認めない +:軽微な薬害症状を認める ++:中程度の薬害症状を認める +++:重度の薬害症状を認める

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 紅色雪腐病 *M.nivale*

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

3. 試 験 成 績

薬効薬害調査

供試薬剤	処理方法	連制	パッチ面積率 (%)	防除価	薬害	
					12/11	3/23
5) MIF-1804顆粒水和剤 新規化合物 10.0%, 既知化合物 25.0% Lot.20F-6369	2000倍 0.5L/m ² 散布	I	0.30	94.9	-	-
		II	0		-	-
		III	0.20		-	-
		平均	0.17		-	-
18) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot. 03K003	100倍 0.1L/m ² 散布	I	0.50	93.1	-	-
		II	0		-	-
		III	0.20		-	-
		平均	0.23		-	-
	500倍 0.5L/m ² 散布	I	0	99.1	-	-
		II	0		-	-
		III	0.10		-	-
		平均	0.03		-	-
対) キノンドー水和剤80 有機銅 80.0%	200倍 0.5L/m ² 散布	I	0.50	94.0	-	-
		II	0		-	-
		III	0.10		-	-
		平均	0.20		-	-
無処理		I	5.00			
		II	2.00			
		III	3.00			
		平均	3.33			

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

過去に本病の発生が確認されたティーグラウンドで試験を実施した。2 回目処理 3~4 日後から連続した降雪により根雪となったと思われ、翌年 3 月の第 3 週には完全に融雪した。本病の発生は無処理区の平均パッチ面積率で 3.33%と少なかったが、連制間のばらつきが小さく、達観で処理区との差が明らかであったことから防除効果の判定は可能と判断した。なお、判定は少発生を考慮した。対照薬剤のキノンドー水和剤 80 は高い防除効果を示した。

5) MIF-1804 顆粒水和剤 2000 倍 0.5L/m² 散布 BAB-

本剤の 2000 倍 0.5L/m² 散布は、対照薬剤のキノンドー水和剤 80 200 倍 0.5L/m² 散布と比較して防除効果はほぼ同等であった。無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性はあると思われる。

薬害は認められなかった。

18) 丸和レキシコン 100 倍 0.1L/m² 散布 BAB-、500 倍 0.5L/m² 散布 BAB-

本剤の 100 倍 0.1L/m² 散布は、対照薬剤のキノンドー水和剤 80 200 倍 0.5L/m² 散布と比較して防除効果はほぼ同等であった。無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性はあると思われる。

本剤の 500 倍 0.5L/m² 散布は、対照薬剤のキノンドー水和剤 80 200 倍 0.5L/m² 散布と比較して防除効果はほぼ同等であった。無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性はあると思われる。

処理濃度・量による顕著な薬効の差は見られなかった。

両処理方法ともに薬害は認められなかった。

図 試験区の発病状況

1: MIF-1804 顆粒水和剤

2: 丸和レキシコン ×100 0.1L/m²3: 丸和レキシコン ×500 0.5L/m²

4: キノンドー水和剤 80

5: 無処理

I、II、III は連制を示す

1-I	3-I	4-I	2-I	5-I
○		○		○
3-II	5-II	1-II	4-II	2-II
	○			
4-III	2-III	5-III	1-III	3-III
○	○	○	○	○

対象病害虫名・学名 紅色雪腐病 *Monographella nivalis*

試験場名 長野県植物防疫協会須坂研究所

担当者氏名 山下 亨

1. 試験目的 防除効果および被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 長野県上田市菅平高原 上田菅平高原グランヴィリオゴルフ倶楽部
No. 3 ティーランド前ラフ区域

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:ブルーグラス、ペレニアルライグラス、トールフェスク混播(品種:不明) 試験期間中の薬剤防除:なし 施肥、その他一般管理はゴルフ場の慣行に従った。

土性:不明 根雪期間:2020年12月3半旬~2021年3月5旬(アメダス観測地点菅平のデータによる)

区制・面積・試験区の構成 1区 4 m² (2×2m) 3連制 右に圃場配置図を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年11月18日および12月2日の計2回

(処理方法) 背負い式バッテリー動力噴霧器(丸山製作所:MSB-1500Li、
広角2頭ノズル)を用いて、所定濃度の薬液を所定量散布した。

(処理前後の降雨影響) いずれの処理も降雨による影響はなかった(成績末尾の気象表参照)。

試験期間中の気象条件

成績末尾に記載(アメダス観測地点:長野県菅平)

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年4月6日

薬害:2020年12月2日(2回目散布前)、2021年4月6日(薬効調査時)

(調査方法) 薬効:各試験区内の病斑面積をパッチの直径を図ることによって調査し、発病面積率を算出した。

また、下記式により防除価を算出した。

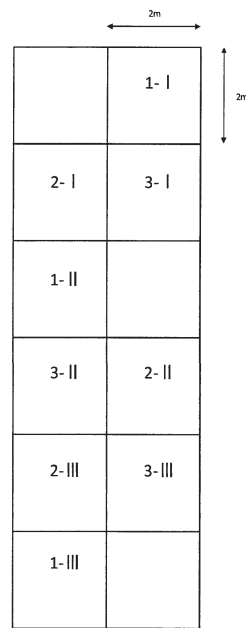
防除価 = (1-処理区平均病斑面積率/無処理区平均病斑面積率) × 100

薬害:2回目処理時と薬効調査時に下記の基準に従い観察調査した。

- : 薬害を認めない + : 軽微な薬害症状を認める ++ : 中程度の薬害症状を認める

+++ : 重度の薬害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

1区 2m × 2m 4m² 3連制1 MIF-1804顆粒水和剤 2,000倍0.5L/m²
2 キノンドー水和剤80 200倍0.5L/m²

3 無処理

I、II、IIIは連制を示す

3. 試験成績

供試薬剤名	処理方法	連制	発生面積率 (%)	防除価	薬害	
					2020/12/2	2021/4/6
5) MIF-1804顆粒水和剤 新規化合物 10.0% 既知化合物 25.0% LotNo.20F-6369	2,000倍0.5L/m ²	I	4.9	75.0	-	-
		II	0.2		-	-
		III	2.7		-	-
		平均	2.6		-	-
対) キノンドー水和剤80 有機銅80.0%	200倍0.5L/m ²	I	2.0	93.3	-	-
		II	0.0		-	-
		III	0.0		-	-
		平均	0.7		-	-
無処理		I	18.5			
		II	9.3			
		III	3.3			
		平均	10.4			

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 紅色雪腐病 *Monographella nivalis* 試験場名 長野県植物防疫協会須坂研究所

4. 考 察

5) MIF-1804 顆粒水和剤 2,000 倍 0.5L/m² CBB-

本剤の 2,000 倍 0.5L/m²処理は対照のキノドー水和剤 80 の 200 倍 0.5L/m²処理と比較してやや劣ったが、無処理と比較すると効果が認められた。実用性はあると思われる。なお、薬害の発生は認められなかった。

試験期間中の気象条件(2020 年)

月・日	降水量 (mm)	平均気温 (°C)	降雪量 (cm)
11月15日	0	4.2	0
11月16日	0	5.7	0
11月17日	0	7	0
11月18日	0	9.3	0
11月19日	0	12.9	0
11月20日	2.5	12.2	0
11月21日	1	1.8	0
11月22日	0	8.1	0
11月23日	8.5	2.3	0
11月24日	0	1	0
11月25日	0	4	0
11月26日	0	2.8	0
11月27日	0	3	0
11月28日	6	-0.7	0
11月29日	0	-1.5	0
11月30日	0	-1	0
12月1日	0	-1.7	0
12月2日	0	0.4	0
12月3日	1.5	1.6	0
12月4日	1.5	-3.6	2
12月5日	0.5	0.2	4
12月6日	0	-1.5	0
12月7日	0	0	0
12月8日	1	-0.6	0
12月9日	0	-1.9	0
12月10日	0	1	0
12月11日	0	-0.4	0
12月12日	0	0	0

観測地点:長野県菅平のアメダスデータ

試験期間中の気象条件(2020~2022 年、半旬)

年・月	半旬	降水量 (mm)	日平均気温 (°C)	降雪量 (cm)	最深積雪 (cm)
2020/11	第1半旬	5.5	4.3	0	0
	第2半旬	1.5	4.9	0	0
	第3半旬	0	1.8	0	0
	第4半旬	2.5	9.4	0	0
	第5半旬	9.5	3.4	0	0
	第6半旬	6	0.5	0	0
2020/12	第1半旬	3.5	-0.6	6	2
	第2半旬	1	-0.6	0	0
	第3半旬	26	-3	31	26
	第4半旬	19	-8.2	30	34
	第5半旬	8	-5.9	31	35
	第6半旬	18	-3.9	47	51
2021/1	第1半旬	4.5	-9.4	17	51
	第2半旬	2.5	-9.1	20	47
	第3半旬	3	-6.2	18	45
	第4半旬	16.5	-7	35	61
	第5半旬	14	-2.2	18	60
	第6半旬	12.5	-4.9	37	62
2021/2	第1半旬	17	-4.6	23	61
	第2半旬	10	-6.5	26	77
	第3半旬	27	-1.3	18	73
	第4半旬	9.5	-5.6	37	78
	第5半旬	5.5	-2.4	15	65
	第6半旬	0	-5.9	6	60
2021/3	第1半旬	27.5	-0.1	21	67
	第2半旬	0	-1.1	4	57
	第3半旬	11	0.6	12	49
	第4半旬	3	1.5	14	40
	第5半旬	38	2.7	11	22
	第6半旬	14	5.3	0	0
2021/4	第1半旬	2	5.9	0	0
	第2半旬	0	0.6	0	0
	第3半旬	5.5	4.1	0	0
	第4半旬	54.5	4.2	0	0
	第5半旬	0	6.9	0	0
	第6半旬	31.5	5.7	0	0

観測地点:長野県菅平のアメダスデータ

対象病害虫名 紅色雪腐病 *Microdochium nivale*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 札幌エルムカントリークラブ(北海道恵庭市)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:ベントグラス 定植:10年以上 パッティンググリーン

刈高:4.5mm 施肥:パッティンググリーンの一般管理

土性:火山灰土壌 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区4㎡(2m×2m) 3連制

1-I			5-I	4-I
6-I	7-I	1-II		
5-II	4-II	6-II	7-II	1-III
		5-III	4-III	6-III
7-III				

1:MIF-1804 顆粒水和剤 2000 倍 0.5L/㎡

4:丸和レキシコ 500 倍 0.5L/㎡ 5:丸和レキシコ 100 倍 0.1L/㎡ 6:トップバスター顆粒水和剤 500 倍 0.5L/㎡ 7:無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年11月11日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、㎡当たり

0.1L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 除雪(積雪8cm)を行い、供試薬剤を処理した。

試験期間中の気象条件

月 日	11/			12/			1/			2/		
項 目	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
平均気温(℃)	6.8	5.4	1.4	-0.5	-5.7	-6.2	-11.4	-6.8	-7.0	-7.1	-1.4	-4.9
降雪(cm)	0	14	7	0	25	20	41	54	32	27	29	42
月 日	3/			4/								
項 目	上旬	中旬	下旬	上旬								
平均気温(℃)	-2.4	1.8	5.6	3.8								
降雪(cm)	46	4	6	0								

観測地点: 恵庭島松のアメダステータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年4月7日(処理後147日)

(調査方法) 試験区(4㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価＝(1－処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

－:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

薬剤処理前に試験区に雪腐小粒菌核病を抑制するためにイカルガSC35の1000倍液 0.3L/㎡散布した。

3. 試験成績

供 試 薬 剤	処理量	区 制	4月7日		薬 害 2021/4/7
			ハッチ面積率(%) 防除価		
5) MIF－1804顆粒水和剤 新規化合物 10.0% 既知化合物 25.0% lot.20F-6369	2000倍 0.5L/㎡	I	0.0		－
		II	0.0		－
		III	0.0		－
		平 均	0.0	100	
18) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% lot.92K003	500倍 0.5L/㎡	I	0.0		－
		II	0.5		－
		III	0.0		－
		平 均	0.17	94.7	
	100倍 0.1L/㎡	I	0.0		－
		II	0.0		－
		III	0.1		－
		平 均	0.03	99.1	
対) トップバスター顆粒水和剤 チオファートミチル 35.0% メコナゾール 5.0%	500倍 0.5L/㎡	I	0.2		－
		II	0.2		－
		III	0.0		－
		平 均	0.13	95.9	
無処理		I	3.2		－
		II	3.5		－
		III	3.0		－
		平 均	3.2		

4. 考 察

2021 年 4 月 7 日 判定

5) MIF-1804顆粒水和剤 2000倍 0.5L/m² BAA-

本剤の2000倍 0.5/m²処理は、対照薬剤トップバスター顆粒水和剤(500 倍 0.5L/m²)と同等の防除効果を示した。無処理区と比較して高い防除効果が認められる。本剤は高い実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

18) 丸和レキシコン 500倍 0.5/m² BAA- , 100倍 0.1L/m² BAA- ,

本剤の500倍 0.5/m²処理は、対照薬剤トップバスター顆粒水和剤(500 倍 0.5L/m²)と同等の防除効果を示した。無処理区と比較して高い防除効果が認められる。本剤は高い実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の100倍 0.1/m²処理は、対照薬剤トップバスター顆粒水和剤(500 倍 0.5L/m²)と同等の防除効果を示した。無処理区と比較して高い防除効果が認められる。本剤は高い実用性があると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 紅色雪腐病 *Microdochium nivale*

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 埼玉県比企郡鳩山町 PGM武蔵ゴルフクラブ ナセリ

対象病害虫発生状況 中発生 初発:2021年2月中旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:ベントグラス(品種:ペンクロス) 土性:砂土

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高4mm 刈り込み頻度:隔日 ゴルフ場の慣行(グリーンの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 4m² (2×2m) , 3連制

			1-Ⅱ	4-Ⅱ	
3-Ⅰ	2-Ⅰ	1-Ⅰ	3-Ⅱ	2-Ⅱ	3-Ⅲ
	4-Ⅰ		4-Ⅲ	1-Ⅲ	2-Ⅲ

1. 丸和レキシコン 100倍
2. 丸和レキシコン 500倍
3. ヘリテージ顆粒水和剤
4. 無処理
Ⅰ, Ⅱ, Ⅲは連制を示す。

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年3月11日

(作物のステージ) 生育期 (2020年10月播種)

(処理方法) 水量0.1L/m²は充電式噴霧器(1頭口, Teejet8003ノズル), 同0.5L/m²は園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため、影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

月日	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	3/18	3/19	3/20	3/21	3/22
平均気温(℃)	7.2	9.6	9.6	12.1	11.3	11.1	11.9	11.1	11.2	11.7	12.4	11.4
降水量(mm)	0	0	66.0	0	0	0	0	0	0	0	30.0	3.0

月日	3/23	3/24	3/25	3/26	3/27	3/28	3/29	3/30	3/31	4/1
平均気温(℃)	8.7	10.6	11.2	12.5	12.5	11.7	17.5	17.2	17.3	16.2
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	20.0	0	0	0

観測地点:埼玉県鳩山アメダスデータ

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年3月11日(処理前), 3月25日(処理14日後), 4月1日(処理21日後)

薬害:2021年3月25日(処理14日後), 4月1日(処理21日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

薬害は葉身を対象に肉眼により観察した。薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

ー:薬害なし 十:軽微な薬害症状あり 十十:中程度の薬害症状あり 十十十:重度の薬害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 紅色雪腐病 *Microdochium nivale*

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率(%)			防除価 3/25	薬害 3/25, 4/1
				3/11	3/25	4/ 1		
17) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot. 97K006	100倍	0.1	I	5	0	0	71.8	—
			II	25	10	0		—
			III	2	0	0		—
			平均	10.7	3.3	0		
	500倍	0.5	I	20	5	0	71.8	—
			II	15	5	0		—
			III	3	0	0		—
			平均	12.7	3.3	0		
対) ヘリテージ顆粒水和剤 アゾキシストロビン 50.0%	4000倍	0.5	I	20	10	0	71.8	—
			II	5	0	0		—
			III	2	0	0		—
			平均	9.0	3.3	0		
無処理	—		I	2	5	0		
			II	20	20	15		
			III	5	10	0		
			平均	9.0	11.7	5.0		

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

処理14日後(3/25)の調査では、無処理区のパッチ面積率は漸増した。一方、丸和レキシコン区ならびにヘリテージ顆粒水和剤区ではパッチ面積率が減少し、防除効果が認められた。同21日後(4/1)の調査では、無処理区で自然治癒が見られたため、処理14日後(3/25)の調査結果から判定することとした。

17) 丸和レキシコン 100倍, 0.1L/m² BBB- 500倍, 0.5L/m² BBB-

本剤の100倍, 0.1L/m²区および500倍, 0.5L/m²区は対照薬剤のヘリテージ顆粒水和剤と同等の防除効果を示した。無処理区に比べて防除効果は認められた。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病虫害名・学名 葉腐病 (ブラウンパッチ) *Rhizoctonia solani*

試験場名 (一財) 関西グリーン研究所

担当者氏名 松村直哉

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び葉害の検討

2. 試験方法 試験地場所 兵庫県宝塚市小林字南畑 226-1 圃場内

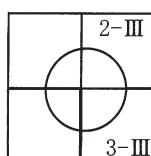
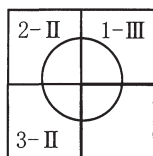
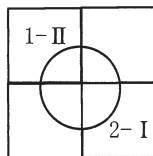
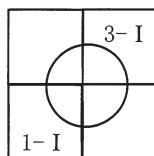
対象病虫害発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種: ペントグラス (ペンクロス)

施肥・刈込などの一般管理はゴルフ場慣行に準じた

土性: 砂土 試験期間中の防除薬剤: 無し

区制・面積 1区 1m² (1×1m²)、3連制

1. ディスアームフロアブル 800倍処理

2. ヘリテージ顆粒水和剤

3. 無処理

I、II、IIIは連制を示す。

処理年月日, 量, 方法, 処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2021年6月23日

(処理方法) 所定の処理方法に従い蓄圧式小型噴霧器を用いて散布した。

(処理前後の降雨影響) 降雨による影響はなかった。

(試験期間中の降雨)

月日	6/23	24	25	26	27	28	29	30	7/1	2	3	4	5	6	7
平均気温 (°C)	24.3	24.1	25.3	23.6	23.8	25.1	25.0	25.5	23.9	26.4	29.1	28.5	28.4	28.7	26.6
降水量 (mm)	4.9	0	0	0	0.5	0	8.1	8.4	44.8	29.3	8.7	0	0	0	103

月日	8
平均気温 (°C)	28.5
降水量 (mm)	62.5

観測地点: 場内の観測データ

調査月日・方法

(調査月日) 葉効試験 6月30日 (最終散布7日後)、7月8日 (最終散布14日後)

葉害試験 6月30日 (最終散布7日後)、7月8日 (最終散布14日後)

(調査方法) 試験区内を対象に、パッチ面積を実測し、パッチ面積率を算出した。

葉害は葉身を対象に肉眼で観察し、葉害症状の有無を以下の内容で観察した。

-: 葉害を認めない。+: 軽微な葉害症状を認める。++: 中程度の葉害症状を認める。+++: 重度の葉害症状を認める。

その他

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 葉腐病 (ブラウンパッチ) *Rhizoctonia solani* 試験場名: 関西グリーン研究所

3. 試 験 成 績

試験薬剤	希釈倍 数 水量	区制	調査日別 パッチ面積率(%)			防除価	薬害 6/30、7/8
			6月23日 パッチ面積 率	6月30日 パッチ面積 率	7月8日 パッチ面積 率		
12) ディスアームフロアブル フルオキサストロビン 40.3% Lot.24.4-SOE01G	800 倍 0.1L/m ²	I	4.5	3.0	1.6	95.4	-
		II	8.0	3.5	0		-
		III	3.0	0.0	0		-
		平均	5.2	2.2	0.5		
対)ヘリテージ顆粒水和 剤 アゾキシストロビン 50.0 %	4000 倍 0.5L/m ²	I	7.0	0.6	0	90.7	-
		II	3.5	0	3.0		-
		III	4.0	0	0		-
		平均	4.8	0.2	1		
無処理		I	5	10.3	14.5		
		II	3.5	5.8	8.5		
		III	2.3	5.5	9.3		
		平均	3.6	7.2	10.8		

4. 考 察

7月8日に行った調査結果から判定した。

12) ディスアームフロアブル 800 倍 0.1L/m² AAA-

本剤の 800 倍 0.1L/m²処理は対照薬剤のヘリテージ顆粒水和剤と比べてまさる防除効果を示し、無処理と比べて高い防除効果を示した。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病虫害名・学名 葉腐病 (ブラウンパッチ) *Rhizoctonia solani*

試験場名 (一財) 関西グリーン研究所

担当者氏名 松村直哉

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び葉害の検討

2. 試験方法 試験地場所 兵庫県宝塚市小林字南畑 226-1 圃場内

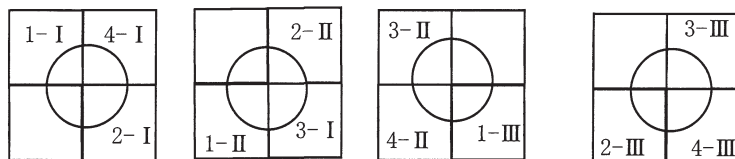
対象病虫害発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種: ベントグラス (ペンクロス)

施肥・刈込などの一般管理はゴルフ場慣行に準じた

土性: 砂土 試験期間中の防除薬剤: 無し

区制・面積 1区 1m^2 ($1 \times 1\text{m}^2$)、3連制

1. S-2688SC 200 倍処理
2. S-2688SC 400 倍処理
3. ヘリテージ顆粒水和剤
4. 無処理

I、II、IIIは連制を示す。

処理年月日, 量, 方法, 処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2021年6月23日

(処理方法) 所定の処理方法に従い蓄圧式小型噴霧器を用いて散布した。

(処理前後の降雨影響) 降雨による影響はなかった。

(試験期間中の降雨)

月日	6/23	24	25	26	27	28	29	30	7/1	2	3	4	5	6	7
平均気温 (°C)	24.3	24.1	25.3	23.6	23.8	25.1	25.0	25.5	23.9	26.4	29.1	28.5	28.4	28.7	26.6
降水量 (mm)	4.9	0	0	0	0.5	0	8.1	8.4	44.8	29.3	8.7	0	0	0	103

月日	8
平均気温 (°C)	28.5
降水量 (mm)	62.5

観測地点: 場内の観測データ

調査月日・方法

(調査月日) 葉効試験 6月30日 (最終散布7日後)、7月8日 (最終散布14日後)

葉害試験 6月30日 (最終散布7日後)、7月8日 (最終散布14日後)

(調査方法) 試験区内を対象に、パッチ面積を実測し、パッチ面積率を算出した。

葉害は葉身を対象に肉眼で観察し、葉害症状の有無を以下の内容で観察した。

- : 葉害を認めない。+ : 軽微な葉害症状を認める。++ : 中程度の葉害症状を認める。+++ : 重度の葉害症状を認める。

その他

対象病害虫名・学名 葉腐病 (ブラウンパッチ) *Rhizoctonia solani* 試験場名: 関西グリーン研究所

3. 試験成績

試験薬剤	希釈倍数 水量	区制	調査日別 パッチ面積率(%)			防除価	薬害 6/30、7/8
			6月23日 パッチ面積 率	6月30日 パッチ面積 率	7月8日 パッチ面積 率		
16) S-2688SC		I	4.1	3	0.9		-
トルクロホスメチル 40.0	200 倍	II	6.8	3.3	0		-
%	0.1L/m ²	III	3.3	0	0		-
Lot.BF20-1F2101		平均	4.7	2.1	0.3	97.2	
16) S-2688SC		I	6.5	2	0		-
トルクロホスメチル 40.0	400 倍	II	2.7	0	0		-
%	0.2L/m ²	III	2.5	0	0		-
Lot.BF20-1F2101		平均	3.9	0.7	0	100.0	
対)ヘリテージ顆粒水和		I	7.0	0.6	0		-
剤	4000 倍	II	3.5	0	3.0		-
アゾキシストロビン 50.0	0.5L/m ²	III	4.0	0	0		-
%		平均	4.8	0.2	1	90.7	
無処理		I	5	10.3	14.5		
		II	3.5	5.8	8.5		
		III	2.3	5.5	9.3		
		平均	3.6	7.2	10.8		

4. 考察

7月8日に行った調査結果から判定した。

16) S-2688SC 200 倍 0.1L/m² AAA-

本剤の 200 倍 0.1L/m²処理は対照薬剤のヘリテージ顆粒水和剤と比べてまさる防除効果を示し、無処理と比べて高い防除効果を示した。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

16) S-2688SC 400 倍 0.2L/m² AAA-

本剤の 400 倍 0.2L/m²処理は対照薬剤のヘリテージ顆粒水和剤と比べてまさる防除効果を示し、無処理と比べて高い防除効果を示した。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 葉腐病(ブラウンパッチ) *Rhizoctonia solani*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 周南カントリー倶楽部 (山口県周南市)

対象病害虫発生状況 中発生

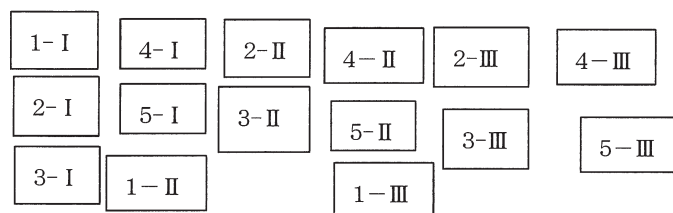
耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種: ベントグラス 定植: 10年以上 練習グリーン

刈高: 4.2mm 施肥: パッティンググリーンの一般管理

土性: 真砂土(花崗岩風化土壌) 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(2m×1m) 3連制



1: S-2688SC 200 倍 0.1L/㎡ 2: S-2688SC 400 倍 0.2L/㎡ 3: ティスアームフロアブル 800 倍 0.1L/㎡

4: イカルガ 35SC 2000 倍 0.5L/㎡ 5: 無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年6月29日、7月12日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡~0.2L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった。

試験期間中の気象条件

月 日	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9
項目												
平均気温(℃)	25.3	25.8	25.5	25.5	25.8	25.2	27.0	26.1	25.7	26.2	26.3	24.3
降水量(mm)				2.5		5.5		9.0	1.5	20.0	17.0	97.5
月 日	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21
項目												
平均気温(℃)	24.5	25.9	26.7	27.1	27.3	26.9	25.2	24.9	24.6	26.8	26.7	26.9
降水量(mm)	2.5							4.0	19.5			

観測地点: 下松のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年7月12日(1回目処理後13日)、7月21日(2回目処理後9日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価 = (1 - 処理区病斑面積率の平均 / 無処理区病斑面積率の平均) × 100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

- : 薬害を認めない。+ : 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、降雨日が多かった

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	6月29日	7月12日	7月21日	薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/7/12 2021/7/21
12) ディスアームフロアブル フルオキサトピン 40.3% lot.24.4SOE016	800倍 0.1L/㎡	I	0.0	0.5	0.0	-
		II	0.0	0.0	0.0	-
		III	0.0	0.0	0.0	-
		平均	0.0	0.17 98.0	0.0 100	-
16) S-2688SC トルクロホスメチル 40.0% lot.BF20-1F2101	200倍 0.1L/㎡	I	0.0	1.0	0.0	-
		II	0.0	0.0	0.0	-
		III	0.0	0.0	0.0	-
		平均	0.0	0.3 96.4	0.0 100	-
	400倍 0.2L/㎡	I	0.0	0.0	0.0	-
		II	0.0	1.0	0.0	-
		III	0.0	0.0	0.0	-
		平均	0.0	0.3 96.4	0.0 100	-
対) イカルガ35SC チフルザミド 35.0%	2000倍 0.5L/㎡	I	0.0	0.0	0.0	-
		II	0.0	0.0	0.0	-
		III	0.0	0.0	0.0	-
		平均	0.0	0.0 100	0.0 100	-
無処理		I	0.0	10.0	15.0	-
		II	0.0	10.0	15.0	-
		III	0.0	5.0	10.0	-
		平均	0.0	8.3	13.3	-

4. 考察

2021年7月21日 判定

12) ディスアームフロアブル 800倍 0.1L/㎡ BAA-

本剤の800倍 0.1L/㎡処理は、対照薬剤イカルガ35SC(2000倍 0.5L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

16) S-2688SC 200倍 0.1L/㎡ BAA- 400倍 0.2L/㎡ BAA-

本剤の200倍 0.1L/㎡処理は、対照薬剤イカルガ35SC(2000倍 0.5L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の400倍 0.2L/㎡処理は、対照薬剤イカルガ35SC(2000倍 0.5L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 葉腐病(ブラウンパッチ) *Rhizoctonia solani*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 広島カンツリー倶楽部 (広島県東広島市)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種: ベントグラス 定植: 10年以上 練習グリーン

刈高: 4.0mm 施肥: パッティンググリーン的一般管理

土性: サンドグリーン 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(2m×1m) 3連制

1-I	2-I		3-I	4-I		
	I-II	2-II		3-II		4-III
4-II		1-III	2-III		3-III	

1: S-2688SC 200倍 0.1L/㎡ 2: S-2688SC 400倍 0.2L/㎡

3: イカルガ 35SC 2000倍 0.5L/㎡ 4: 無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年6月30日、7月13日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡~0.2L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった。

試験期間中の気象条件

月 日	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10
項目												
平均気温(℃)	22.7	23.8	23.1	25.2	24.3	25.7	25.5	25.2	25.5	24.0	23.5	23.8
降水量(mm)			1.0		1.5	1.0	1.5		35.5	177.0	43.0	
月 日	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22
項目												
平均気温(℃)	24.4	23.0	25.4	24.8	23.4	22.1	24.1	23.4	25.6	26.3	25.9	25.4
降水量(mm)		33.0		7.5	20.0	1.5	6.0	22.0				

観測地点: 東広島市のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年7月13日(1回目処理後13日)、7月22日(2回目処理後9日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価 = (1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均) × 100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

- : 薬害を認めない。+ : 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、降雨日が多かった

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	6月30日	7月13日	7月22日	薬害
			パッチ面積率(%)	パッチ面積率(%) 防除価	パッチ面積率(%) 防除価	2021/7/13 2021/7/22
16) S-2688SC トルクロホスメチル 40.0% lot.BF20-1F2101	200倍 0.1L/㎡	I	0.0	0.0	0.0	-
		II	0.0	0.0	0.0	-
		III	0.0	1.0	0.0	-
		平均	0.0	0.3 98.0	0.0 100	-
	400倍 0.2L/㎡	I	0.0	0.0	0.0	-
		II	0.0	0.5	0.0	-
		III	0.0	0.0	0.0	-
		平均	0.0	0.17 98.9	0.0 100	-
対) イカルガ35SC チフルサミト 35.0%	2000倍 0.5L/㎡	I	0.0	0.0	0.0	-
		II	0.0	0.0	0.0	-
		III	0.0	0.5	0.0	-
		平均	0.0	0.17 98.9	0.0 100	-
無処理		I	0.0	15.0	20.0	-
		II	0.0	15.0	15.0	-
		III	0.0	15.0	20.0	-
		平均	0.0	15.0	18.3	-

4. 考察

2021年7月22日 判定

16) S-2688SC

200倍 0.1L/㎡ BAA-

400倍 0.2L/㎡ BAA-

本剤の200倍 0.1L/㎡処理は、対照薬剤イカルガ35SC(2000倍 0.5L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ、無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の400倍 0.2L/㎡処理は、対照薬剤イカルガ35SC(2000倍 0.5L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ、無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 葉腐病(ブラウンパッチ) *Rhizoctonia solani*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 大山ゴルフクラブ(鳥取県西伯郡伯耆町)

対象病害虫発生状況 少発生

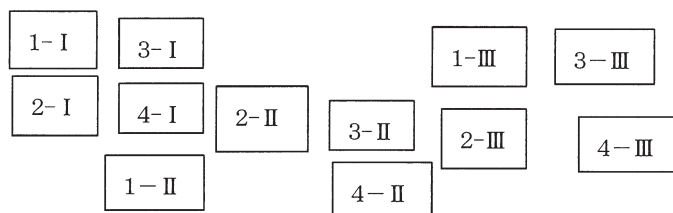
耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種: ベントグラス 定植: 10年以上 練習グリーン

刈高: 4.2mm 施肥: パッティンググリーンの一般管理

土性: サンドグリーン(砂質土壌) 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(2m×1m) 3連制



1: S-2688SC 200 倍 0.1L/㎡ 2: S-2688SC 400 倍 0.2L/㎡

3: イカルガ 35SC 2000 倍 0.5L/㎡ 5: 無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年7月29日、8月12日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡~0.2L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった。

試験期間中の気象条件

月 日	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10
項目													
平均気温(℃)	27.5	27.7	27.7	28.9	31.0	30.0	30.4	30.0	30.8	30.7	28.2	24.9	26.3
降水量(mm)											10.0	62.0	
月 日	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23
項目													
平均気温(℃)	25.0	24.4	22.7	22.0	23.9	24.5	22.6	24.2	26.1	26.2	27.8	28.3	28.0
降水量(mm)	4.5	6.0	109.0	102.5	3.5	10.5	34.5	7.5	3.0	3.0			

観測地点: 米子のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年8月12日(1回目処理後15日)、8月23日(2回目処理後11日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価 = (1 - 処理区病斑面積率の平均 / 無処理区病斑面積率の平均) × 100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

- : 薬害を認めない。+ : 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、降雨日が多かった

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	7月29日	8月12日	8月23日	薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/8/12 2021/8/23
16) S-2688SC トルクロホスメチル 40.0% lot.BF20-1F2101	200倍 0.1L/㎡	I	0.0	0.0	0.0	-
		II	0.0	0.5	0.0	-
		III	0.0	0.5	0.0	-
		平均	0.0	0.3 97.3	0.0 100	-
	400倍 0.2L/㎡	I	0.0	0.0	0.0	-
		II	0.0	0.0	0.0	-
		III	0.0	0.5	0.0	-
		平均	0.0	0.17 98.5	0.0 100	-
対) イカルガ35SC チフルザミト 35.0%	2000倍 0.5L/㎡	I	0.0	0.0	0.0	-
		II	0.0	0.0	0.0	-
		III	0.0	0.5	0.0	-
		平均	0.0	0.17 98.5	0.0 100	-
無処理		I	0.0	8.0	10.0	-
		II	0.0	10.0	15.0	-
		III	0.0	15.0	15.0	-
		平均	0.0	11.0	13.3	-

4. 考察

2021年8月23日 判定

16) S-2688SC

200倍 0.1L/㎡ BAA-

400倍 0.2L/㎡ BAA-

本剤の200倍 0.1L/㎡処理は、対照薬剤イカルガ35SC(2000倍 0.5L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の400倍 0.2L/㎡処理は、対照薬剤イカルガ35SC(2000倍 0.5L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

作物名
(シバ)

対象病虫害名・学名 葉腐病(ブラウンパッチ) *Rhizoctonia solani*

試験場名 (同)緑地環境技術研究所

担当者氏名 土田邦夫

1. 試験目的 防除効果および葉害の検討

2. 試験方法 試験地場所 山形県村山市名取 さくらんぼカントリークラブ ナーセリー

対象病虫害発生状況 中発生 初発:7月中旬

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:ベントグラス(品種ドミニオン) 土性:砂土

試験期間中の薬剤防除: なし

管理:刈高:3.8mm 刈り込み頻度:3.5回/週 (その他施肥等はゴルフ場グリーンの慣行管理に従った)

区制・面積・試験区の構成 1区4m²(2.0m×2.0m) 3連制

3-Ⅱ		1-Ⅲ	2-Ⅲ	4-Ⅲ	3-Ⅲ	
1-Ⅰ	2-Ⅰ	4-Ⅰ	3-Ⅰ	1-Ⅱ	2-Ⅱ	4-Ⅱ

1. S-2688SC 200倍 0.1L/m²

2. S-2688SC 400倍 0.2L/m²

3. 対)ディアンテ 1000倍 0.5L/m²

4. 無処理

I、II、IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日)2021年7月26日および8月3日の計2回

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) バッテリー動力噴霧器を用いて、所定量を散布した。

(処理前後の降雨影響) 処理当日には降雨がなかったため、試験に影響はなかったと考えられる。

試験期間中の気象条件

月日	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3
平均気温(℃)	25.6	24.9	24	25.1	25.6	26.6	26.1	27.5	29.4
降水量(mm)	0	0.5	42	23.5	0	0	8.5	0	0
月日	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12
平均気温(℃)	28.7	29.1	28.8	27	26.7	27	24.9	22.7	20.5
降水量(mm)	0	0	0	0.5	4	4	4.5	0	0

観測地点:アメダス村山 太枠は散布日

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、葉害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:7月26日(散布前)、8月3日(初回散布8日後)、8月12日(最終散布9日後)

葉害:8月3日(初回散布8日後)、8月12日(最終散布9日後)

(調査方法) 薬効:パッチ面積率を調査し、平均値より防除価を求めた。

葉害: 肉眼により観察し、葉害症状の有無を以下の基準で評価した。

ー:葉害を認めない +:軽微な葉害症状を認める

++:中程度の葉害症状を認める +++:重度の葉害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

3. 試験成績

供試薬剤	希釈倍数 水量	区制	パッチ面積率(%)			防除価 (8/12)	薬害 (8/3,8/12)
			7/26 (処理時)	8/3 (2回目処理時)	8/12 最終調査		
16) S-2688SC トルクロホスメチル 40.0% Lot. BF20-1F2101	200倍 0.1L/㎡	I	2	0	0		—
		II	6	1	0		—
		III	2	0	0		—
		平均	3.3	0.3	0.0	100	
	400倍 0.2L/㎡	I	1	0	0		—
		II	5	0	0		—
		III	3	0	0		—
		平均	3.0	0.0	0.0	100	
対)デアマンテ トルクロホスメチル 40.0%, マンデスロビン 10.0%	1000倍 0.5L/㎡	I	4	0	0		—
		II	3	0	0		—
		III	1	0	0		—
		平均	2.7	0.0	0.0	100	
無処理		I	5	12	26		
		II	3	7	15		
		III	1	10	23		
		平均	3.0	9.7	21.3		

4. 考察 (判定した時期、判定記号を記載)

7月中旬に初発を認めた。散布前の事前調査により各試験区の発生状況を均等にして試験を開始した。試験開始以降、無処理区内ではパッチ数と面積の増加が認められ、8月12日の最終調査時にパッチ面積率は21.3%と中発生となった。判定は8月12日の調査結果から行った。

16) S-2688SC 200倍 0.1L/㎡散布 BAA-

本処理は、対照処理と比較してほぼ同等の効果を示した。無処理区のパッチ面積率が21.3%となったのに対し本処理では0%であり、防除効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

16) S-2688SC 400倍 0.2L/㎡散布 BAA-

本処理は、対照処理と比較してほぼ同等の効果を示した。無処理区のパッチ面積率が21.3%となったのに対し本処理では0%であり、防除効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

作物名
(シバ)

対象病虫害名・学名 葉腐病(ブラウンパッチ) *Rhizoctonia solani*

試験場名 (同)緑地環境技術研究所

担当者氏名 土田邦夫

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県常陸大宮市山方 ボボスカントリークラブ久慈川コース ナーセリー

対象病虫害発生状況 少発生 初発:7月下旬

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:ベントグラス(品種ペンクロス) 土性:砂土

試験期間中の薬剤防除: 7月24日ランマンPフロアブル(1回目処理7日前)

管理:刈高:4.5mm 刈り込み頻度:5~7回/週 (その他施肥等はゴルフ場グリーンの慣行管理に従った)

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(1.0m×2.0m) 3連制

		1-Ⅲ	4-Ⅱ			
2-Ⅱ	3-Ⅱ			2-Ⅲ	3-Ⅲ	4-Ⅲ
4-Ⅰ	1-Ⅰ		3-Ⅰ			
		2-Ⅰ		1-Ⅱ		

1. S-2688SC 200倍 0.1L/㎡
 2. S-2688SC 400倍 0.2L/㎡
 3. 対)デ'イアマンテ 1000倍 0.5L/㎡
 4. 無処理
- I、II、IIIは連制を示す。

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日)2021年7月31日および8月10日の計2回

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) バッテリー動力噴霧器を用いて、所定量を散布した。

(処理前後の降雨影響) 7月31日の処理後10時間に降雨があったがわずかであり、影響はなかったものと考えられる。

試験期間中の気象条件

月日	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9
平均気温(℃)	25.4	27.2	27	28.2	27.4	27	26.8	26.3	25.2	26.8
降水量(mm)	0.5	0	0	0	0	0	0	10.5	47.5	14
月日	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19
平均気温(℃)	28.7	25.3	23.4	20.4	19.9	18.9	20.8	21.9	25.3	25.8
降水量(mm)	0	0	7.5	69.5	80	35	0.5	12.5	2.5	0

観測地点:アメダス常陸大宮 太枠は散布日

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:7月31日(散布前)、8月10日(初回散布8日後)、8月19日(最終散布9日後)

薬害: 8月10日(初回散布8日後)、8月19日(最終散布9日後)

(調査方法) 薬効:パッチ面積率を調査し、最終調査の平均値より防除価を求めた。

薬害: 肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の基準で評価した。

一:薬害を認めない 十:軽微な薬害症状を認める

+++:中程度の薬害症状を認める ++++:重度の薬害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

3. 試験成績

供試薬剤	希釈倍数 水量	区制	パッチ面積率(%)			防除価 (8/19)	薬害 (8/10,8/19)
			7/31 (処理時)	8/10 (2回目処理時)	8/19 最終調査		
16) S-2688SC トルクロホスメチル 40.0% Lot. BF20-1F2101	200倍 0.1L/m ²	I	0	0	0		—
		II	2	0	0		—
		III	1	0	0		—
		平均	1.0	0.0	0.0	100	
	400倍 0.2L/m ²	I	1	0	0		—
		II	2	1	0		—
		III	1	0	0		—
		平均	1.3	0.3	0.0	100	
対)ディアマンテ トルクロホスメチル 40.0%, マンデスロビン 10.0%	1000倍 0.5L/m ²	I	1	0	0		—
		II	1	0	0		—
		III	0	0	0		—
		平均	0.7	0.0	0.0	100	
無処理		I	2	6	10		
		II	1	4	7		
		III	0	3	6		
		平均	1.0	4.3	7.7		

4. 考察 (判定した時期、判定記号を記載)

7月下旬に初発を認めた。散布前の事前調査により各試験区の発生状況を均等にして試験を開始した。試験開始以降、無処理区内ではパッチ数と面積が増加した。8月19日の最終調査時のパッチ面積率は7.7%と少発生であった。判定は8月19日の調査結果から行った。

16) S-2688SC 200倍 0.1L/m²散布 BAA-

本処理は、対照処理と比較してほぼ同等の効果を示した。無処理区のパッチ面積率が7.7%となったのに対し本処理では0%であり、防除効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

16) S-2688SC 400倍 0.2L/m²散布 BAA-

本処理は、対照処理と比較してほぼ同等の効果を示した。無処理区のパッチ面積率が7.7%となったのに対し本処理では0%であり、防除効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

作物名
(シバ)

対象病虫害名・学名 葉腐病(ブラウンパッチ) *Rhizoctonia solani*

試験場名 (同)緑地環境技術研究所

担当者氏名 土田邦夫

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 栃木県那須塩原市戸田 (株)那須ナーセリー ベントグラス生産圃場

対象病虫害発生状況 少発生 初発:8月上旬

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:ベントグラス(品種メモリアル) 土性:表層3cm 砂土(床土埴壤土) 試験期間中の薬剤防除:なし

管理:刈高:7mm 刈り込み頻度:3回/週 (その他施肥等は生産芝圃場の慣行管理に従った)

区制・面積・試験区の構成 1区4m²(2.0m×2.0m) 3連制

4-Ⅱ	3-Ⅱ	1-Ⅲ	2-Ⅲ		4-Ⅲ	3-Ⅲ
1-Ⅰ		2-Ⅰ	4-Ⅰ	3-Ⅰ	1-Ⅱ	2-Ⅱ

1. S-2688SC 200倍 0.1L/m²
 2. S-2688SC 400倍 0.2L/m²
 3. 対)ディアマンテ 1000倍 0.5L/m²
 4. 無処理
- I、II、IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日)2021年8月4日および8月12日の計2回

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) バッテリー動力噴霧器を用いて、所定量を散布した。

(処理前後の降雨影響) 8月12日処理後9時間から降雨があった。対照薬剤区で防除効果がみられたため影響はなかったものと考えられる。

試験期間中の気象条件

月日	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13
平均気温(℃)	27	26.6	26	25.4	25.2	25.6	26.6	24.9	20.3	18.7
降水量(mm)	0	0	0	5	10	1.5	0	22	17	80
月日	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23
平均気温(℃)	18.2	18.1	19.7	20.3	23.8	24.9	25.5	24.5	24.2	23.6
降水量(mm)	51	28.5	0	38	8	0	0	37.5	65.5	11.5

観測地点:アメダス黒磯 太枠は散布日

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:8月4日(散布前)、8月12日(初回散布8日後)、8月23日(最終散布11日後)

薬害:8月12日(初回散布8日後)、8月23日(最終散布11日後)

(調査方法) 薬効:パッチ面積率を調査し、平均値より防除価を求めた。

薬害:肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の基準で評価した。

一:薬害を認めない 十:軽微な薬害症状を認める

++:中程度の薬害症状を認める +++:重度の薬害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

3. 試験成績

供試薬剤	希釈倍数 水量	区制	パッチ面積率(%)			防除価 (8/23)	薬害 (8/12,8/23)
			8/4 (処理時)	8/12 (2回目処理時)	8/23 最終調査		
16) S-2688SC トルクロホスメチル 40.0% Lot. BF20-1F2101	200倍 0.1L/m ²	I	3	0	0		—
		II	1	0	0		—
		III	5	1	0		—
		平均	3.0	0.3	0.0	100	
	400倍 0.2L/m ²	I	2	0	0		—
		II	6	0	0		—
		III	3	0	0		—
		平均	3.7	0.0	0.0	100	
対)ディアマンテ トルクロホスメチル 40.0%, マンデスロビン 10.0%	1000倍 0.5L/m ²	I	1	0	0		—
		II	6	1	0		—
		III	1	0	0		—
		平均	2.7	0.3	0.0	100	
無処理		I	2	9	16		
		II	7	11	15		
		III	1	5	9		
		平均	3.3	8.3	13.3		

4. 考察 (判定した時期、判定記号を記載)

7月下旬に初発を認めた。散布前の事前調査により各試験区の発生状況を均等にして試験を開始した。試験開始以降、無処理区内ではパッチ数と面積が増加した。8月23日の最終調査時のパッチ面積率は13.3%と少発生であった。判定は8月23日の調査結果から行った。

16) S-2688SC 200倍 0.1L/m²散布 BAA-

本処理は、対照処理と比較してほぼ同等の効果を示した。無処理区のパッチ面積率が13.3%となったのに対し本処理では0%であり、防除効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

16) S-2688SC 400倍 0.2L/m²散布 BAA-

本処理は、対照処理と比較してほぼ同等の効果を示した。無処理区のパッチ面積率が13.3%となったのに対し本処理では0%であり、防除効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 葉腐病(ラージパッチ) *Rhizoctonia solani*

試験場名 長野県植物防疫協会須坂研究所

担当者氏名 山下 亨

1. 試 験 目 的 防除効果および被害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 長野県上田市菅平高原 上田菅平高原グランヴィリオゴルフ倶楽部
ナセリ

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:ノシバ(品種:不明) 試験期間中の薬剤防除:なし 施肥、その他一般管理はゴルフ場の慣行に従った。

土性:不明

【試験1】

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 少発生

区制・面積・試験区の構成 1区 16 m² (4×4m) 3 連制
右に圃場配置図を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020 年 6 月 4 日

(処理方法) 背負い式バッテリー動力噴霧器(丸山製作所:MSB-1500Li、
広角2頭口ノズル)を用いて、所定濃度の薬液を所定量散布
した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後、降雨による影響はなかった。

試験期間中の気象条件

成績末尾に記載(アメダス観測地点:長野県菅平)

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2020 年 6 月 4 日(処理直前)、6 月 17 日、7 月 3 日、7 月 20 日、7 月 31 日

被害:2020 年 6 月 17 日(薬効調査時)

(調査方法) 薬効:各試験区内の病斑面積を調査し、面積率を算出した。また、下記式により防除価を算出した。

防除価 = (1-処理区平均病斑面積率/無処理区平均病斑面積率) × 100

被害:薬剤処理後、薬効調査時に下記の基準に従い観察調査した。

- : 被害を認めない + : 軽微な被害症状を認める ++ : 中程度の被害症状を認める

+++ : 重度の被害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

試 験 成 績

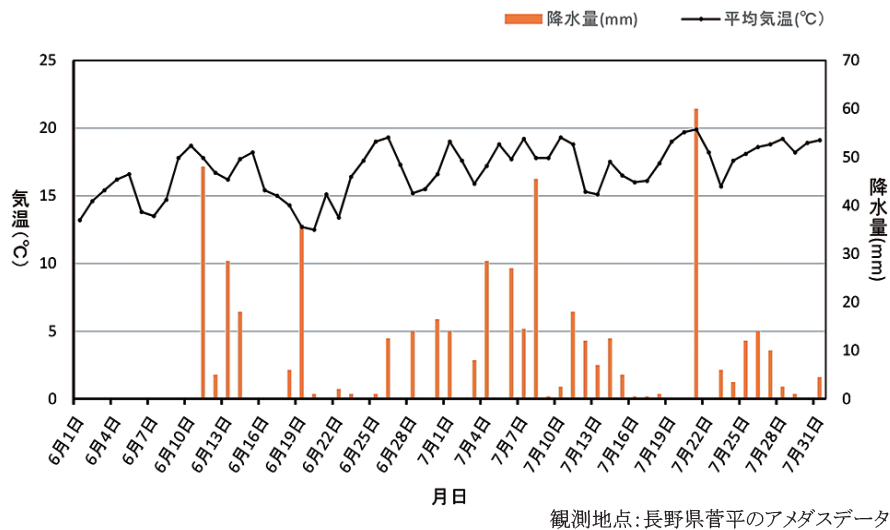
供試薬剤	処理方法	連制	発病面積率(%)					防除価	被害 (6/17)
			6/4	6/17	7/3	7/20	7/31		
2) BEF-2041フロアブル ベンフルフェン 14.3% トリフロキシストロビン 14.3% LotNo.2019-001668	800倍 0.2L/m ²	I	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	90.9	-
		II	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3		-
		III	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		-
		平均	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2		
2) BEF-2041フロアブル ベンフルフェン 14.3% トリフロキシストロビン 14.3% LotNo.2019-001668	500倍 0.2L/m ²	I	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.9	-
		II	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4		-
		III	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3		-
		平均	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2		
対) セレンターフ顆粒水和剤 ペンシクロン 50.0%	400倍 0.2L/m ²	I	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	95.5	-
		II	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3		-
		III	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		-
		平均	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1		
無処理		I	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5		
		II	0.0	0.0	0.0	1.2	2.1		
		III	0.0	0.0	0.0	2.0	3.1		
		平均	0.0	0.0	0.0	1.0	2.2		

1: BEF-2041フロアブル 800倍0.2L/m² 2: BEF-2041フロアブル 500倍0.2L/m²
3: セレンターフ顆粒水和剤 400倍0.2L/m² 4: 無処理
I、II、IIIは連制を示す

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 葉腐病(レージパッチ) *Rhizoctonia solani*

試験場名 長野県植物防疫協会須坂研究所

試験期間中の気象条件



【試験2】

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 少発生

区制・面積・試験区の構成

1区 4.0 m² (2.0×2.0m) 3連、6.25 m² (2.5×2.5m) 1連 の4連制

7月下旬、ナセリに進展性の病斑(パッチ)が散見されてきたため、進展性の病斑(パッチ)を中心に処理区および無処理区を設けた。成績末尾に試験区の設置図を示した。

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年7月31日

(処理方法) 背負い式バッテリー動力噴霧器(丸山製作所:MSB-1500Li、広角2頭口ノズル)を用いて、所定濃度の薬液を所定量散布した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後、降雨による影響はなかった。7月31日に4.5mmの降雨が観測されているが、降雨時刻は未明の4:00~6:00の間であった。

試験期間中の気象条件 成績末尾に記載(アメダス観測地点:長野県菅平)

調査月日・方法(月日、詳細な方法、指数等を用いた場合指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2020年7月31日(処理直前)、8月18日

薬害:2020年8月18日(薬効調査時)

(調査方法) 薬効:処理前に各試験区内の病斑面積を調査し、面積率を算出した。処理18日後に同様に各区の病斑面積率を算出した。防除価は処理前・後の面積率の増減率をもとに算出した。防除価は下記式により算出した。

$$\text{防除価} = (1 - \text{処理区発病面積率の増減率} / \text{無処理区発病面積率の増減率}) \times 100$$

薬害:処理18日後(8月18日)の薬効調査時に下記の基準に従い観察調査した。

一:薬害を認めない 十:軽微な薬害症状を認める 十十:中程度の薬害症状を認める
十十十:重度の薬害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

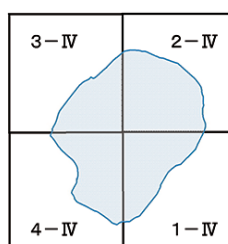
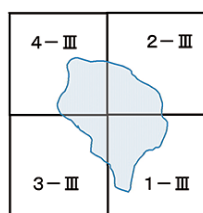
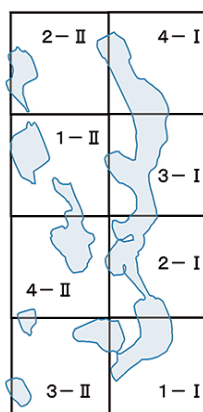
対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 葉腐病(ラージパッチ) *Rhizoctonia solani*

試験場名 長野県植物防疫協会須坂研究所

試験成績

供試薬剤	処理方法	連制	発病面積率(%)		増減率(%)	防除価	薬害 8/18
			7月31日	8月18日			
2) BEF-2041フロアブル ベンフルフェン 14.3% トリフロキシストロビン 14.3% LotNo.2019-001668	800倍 0.2L/m ²	I	15.6	9.4	60.3		—
		II	11.6	4.6	39.7		—
		III	23.7	1.6	6.8		—
		IV	32.6	2.3	7.1		—
		平均	20.9	4.5	28.5	71.8	
2) BEF-2041フロアブル ベンフルフェン 14.3% トリフロキシストロビン 14.3% LotNo.2019-001668	500倍 0.2L/m ²	I	12.8	5.8	45.3		—
		II	8.9	1.8	20.2		—
		III	25.4	1.1	4.3		—
		IV	42.6	0	0.0		—
		平均	22.4	2.2	17.5	82.7	
対) セレンターフ顆粒水和剤 ペンシクロン 50.0%	400倍 0.2L/m ²	I	21.5	7.4	34.4		—
		II	6.7	1.8	26.9		—
		III	16.4	0.5	3.0		—
		IV	36.1	1.2	3.3		—
		平均	20.2	2.7	16.9	83.3	
無処理		I	18.4	14.8	80.4		—
		II	12.5	15.6	124.8		—
		III	20.3	16.4	80.8		—
		IV	32.7	38.6	118.0		—
		平均	21.0	21.4	101.0		—

試験区の構成



1: BEF-2041フロアブル 800倍0.2L/m² 2: BEF-2041フロアブル 500倍0.2L/m²
 3: セレンターフ顆粒水和剤 4: 無処理
 I、II、III、IVは連制を示す
 I、II、III 4.0m²(2.0×2.0m) IV 6.25m²(2.5×2.5m)

試験期間中の気象条件

月日	降水量 (mm)	平均気温 (°C)
7月31日	4.5	19.1
8月1日	0	17.8
8月2日	8	19.2
8月3日	0.5	19.9
8月4日	0	20.7
8月5日	0	21
8月6日	0	22.3
8月7日	0	20.5
8月8日	0	21.5
8月9日	0	20.7
8月10日	0	23.1
8月11日	0	23.5
8月12日	0	21.5
8月13日	0	20.6
8月14日	0	21.5
8月15日	0	22.1
8月16日	0	21
8月17日	0	21.7
8月18日	0	19.7
8月19日	0	20.6
8月20日	0	20.8

観測地点: 長野県菅平のアメダスデータ

3. 考 察

試験1と試験2の結果を総合的に判断し、以下の判定とした。

2) BEF-2041 フロアブル 800 倍 0.2L/m² BBB - 500 倍 0.2L/m² BBB -

本剤の 800 倍および 500 倍 0.2L/m²処理は対照のセレンターフ顆粒水和剤 400 倍 0.2L/m²処理とほぼ同等で、無処理と比較すると効果は認められた。実用性はあると思われる。なお、葉害の発生は認められなかった。

対象病害虫名・学名 葉腐病(ラージパッチ) *Rhizoctonia solani*

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び葉害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県東茨城郡茨城町 オールドオーチャードゴルフクラブ 打席練習場

対象病害虫発生状況 多発生 初発:5月上旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

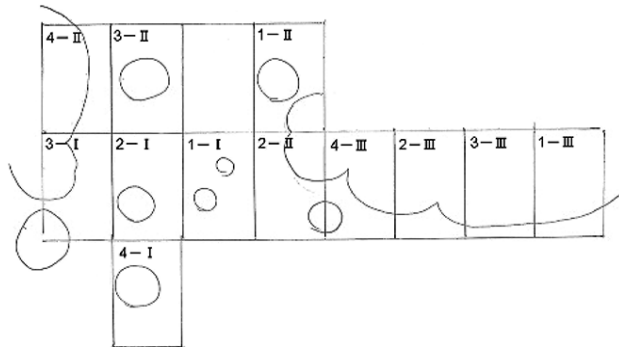
草種:コウライシバ 土性:不明

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高15mm 刈り込み頻度:週1回 ゴルフ場の慣行(フェアウェイの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 10m² (2.5×4m) , 3連制



1. 丸和レキシコン 100倍
2. 丸和レキシコン 500倍
3. シバンバPROフロアブル
4. 無処理

I, II, IIIは連制を示す。

図中の円および半円は既発のパッチを示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年5月14日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 水量0.1および0.2L/m²は充電式噴霧器(1頭口, Teejet8003ノズル), 同0.5L/m²は園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため, 影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

末尾に記載

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、葉害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 葉効:2021年5月14日(処理前), 6月3日(処理20日後), 6月17日(処理34日後)

葉害:2021年5月20日(処理6日後), 5月27日(処理13日後), 6月3日(処理20日後), 6月17日(処理34日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

葉害は葉身を対象に肉眼により観察した。葉害症状の有無を以下の内容で評価した。

一:葉害なし +:軽微な葉害症状あり ++:中程度の葉害症状あり +++:重度の葉害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率(%)			防除価 6/17	薬害 5/20, 27, 6/3, 17
				5/14	6/3	6/17		
17) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot. 97K006	100	0.1	I	10	0	0	100	—
			II	25	10	0		—
			III	80	10	0		—
			平均	38.3	6.7	0		
	500	0.5	I	10	0	0	100	—
			II	50	10	0		—
			III	90	0	0		—
			平均	50.0	3.3	0		
対) シバンバPROフロアブル アゾキシストロビン 18.0% ヘキサコナゾール 15.3%	500	0.2	I	30	0	0	100	—
			II	20	10	0		—
			III	90	0	0		—
			平均	46.7	3.3	0		
無処理	—	—	I	25	20	20		
			II	60	60	50		
			III	60	60	50		
			平均	48.3	46.7	40.0		

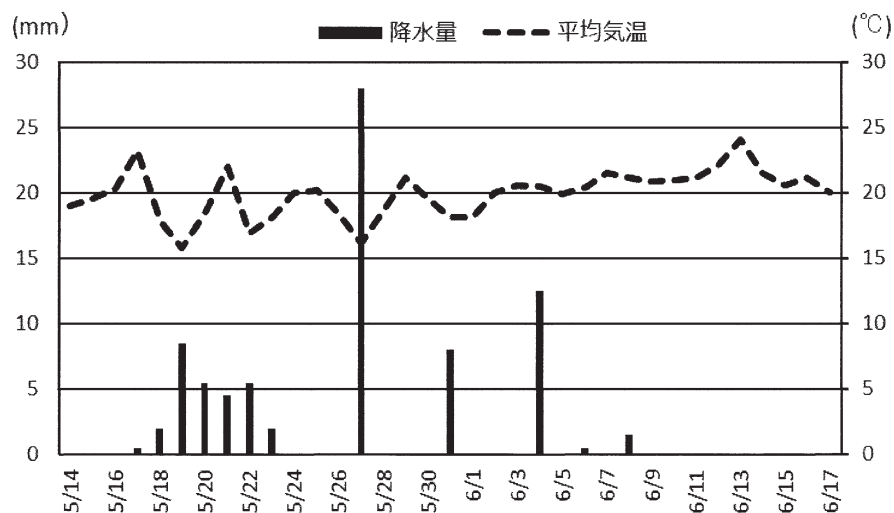
4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

5月上旬に葉腐病の発生を確認し, 試験を開始した。処理34日後(6/17)の結果から判定した。

17) 丸和レキシコン 100倍, 0.1L/m² BAA- 500倍, 0.5L/m² BAA-

本剤の100倍, 0.1L/m²区および500倍, 0.5L/m²区は対照薬剤のシバンバPROフロアブルと同等の防除効果を示した。無処理区に比べて高い防除効果を示した。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

試験期間中の気象条件



観測地点: 茨城県銚田アメダスデータ

対象病害虫名・学名 葉腐病(ラージパッチ) *Rhizoctonia solani*

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び葉害の検討

2. 試験方法 試験地場所 千葉県成田市南羽鳥 成田フェアフィールドゴルフクラブ ラフ

対象病害虫発生状況 中発生 初発:5月上旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

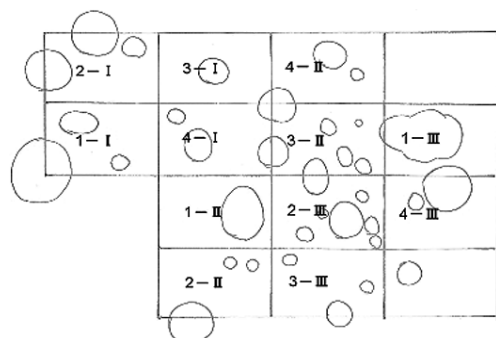
草種:ノシバ 土性:不明

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高50mm 刈り込み頻度:週1回 ゴルフ場の慣行(ラフの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 10m² (2.5×4m) , 3連制



1. 丸和レキシコン 100倍
2. 丸和レキシコン 500倍
3. セレンターフ顆粒水和剤
4. 無処理

I, II, IIIは連制を示す。

図中の円は既発のパッチを示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年5月17日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 水量0.1および0.2L/m²は充電式噴霧器(1頭口, Teejet8003ノズル), 同0.5L/m²は園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため, 影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

末尾に記載

調査月日・方法 (月日, 詳細な方法, 指数等を用いた場合は指数分類・式, 葉害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 葉効:2021年5月17日(処理前), 6月3日(処理17日後), 6月16日(処理30日後)

葉害:2021年5月25日(処理8日後), 6月3日(処理17日後), 6月16日(処理30日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

葉害は葉身を対象に肉眼により観察した。葉害症状の有無を以下の内容で評価した。

一:葉害なし 十:軽微な葉害症状あり 十十:中程度の葉害症状あり 十十十:重度の葉害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は, 採集場所・時期・由来, 月日, 詳細な方法を記載)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率(%)			防除価 6/16	薬害 5/25, 6/3, 16
				5/17	6/ 3	6/16		
17) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot. 97K006	100	0.1	I	20	0	0	100	—
			II	20	0	0		—
			III	30	0	0		—
			平均	23.3	0	0		
	500	0.5	I	20	0	0	100	—
			II	10	0	0		—
			III	40	0	0		—
			平均	23.3	0	0		
対) セレンターフ顆粒水和剤 ペンシクロン 50.0%	400	0.2	I	10	0	0	100	—
			II	20	0	0		—
			III	5	0	0		—
			平均	11.7	0	0		
無処理	—	—	I	20	20	20		
			II	15	20	20		
			III	20	20	25		
			平均	18.3	20.0	21.7		

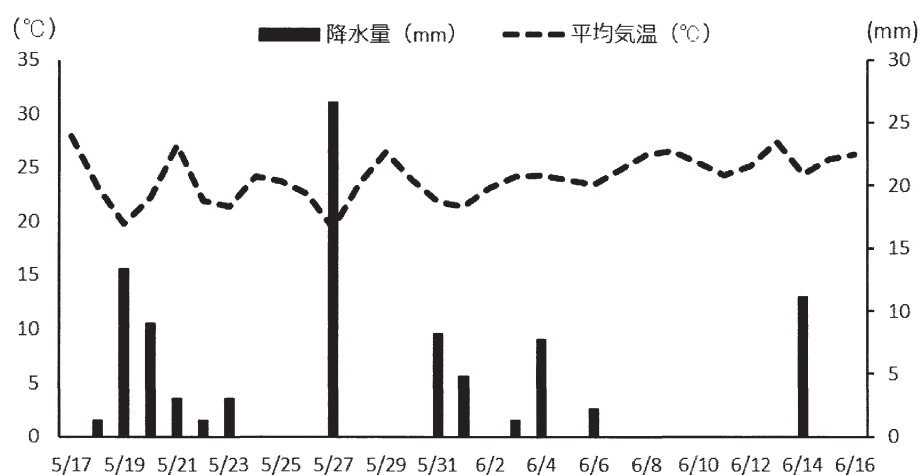
4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

5月上旬に葉腐病の発生を確認し, 試験を開始した。処理30日後(6/16)の結果から判定した。

17) 丸和レキシコン 100倍, 0.1L/m² BAA- 500倍, 0.5L/m² BAA-

本剤の100倍, 0.1L/m²区および500倍, 0.5L/m²区は対照薬剤のセレンターフ顆粒水和剤と同等の防除効果を示した。無処理区に比べて高い防除効果を示した。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

試験期間中の気象条件



観測地点: 千葉県成田アメダスデータ

対象病害虫名・学名 葉腐病(ラージパッチ) *Rhizoctonia solani*

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県笠間市池野辺 スターツ笠間ゴルフ倶楽部 打席練習場

対象病害虫発生状況 多発生 初発:5月下旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

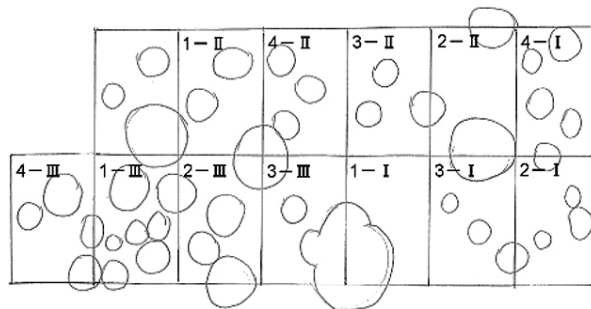
草種:ノシバ 土性:不明

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高50mm 刈り込み頻度:週1回 ゴルフ場の慣行(ラフの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 10m² (2.5×4m) , 3連制



1. 丸和レキシコン 100倍

2. 丸和レキシコン 500倍

3. セルカディスフロアブル

4. 無処理

I, II, IIIは連制を示す。

図中の円は既発のパッチを示す。

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年6月2日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 水量0.1および0.2L/m²は充電式噴霧器(1頭口, Teejet8003ノズル), 同0.5L/m²は園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため, 影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

末尾に記載

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年6月2日(処理前), 6月14日(処理12日後), 6月28日(処理26日後)

被害:2021年6月14日(処理12日後), 6月28日(処理26日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

被害は葉身を対象に肉眼により観察した。被害症状の有無を以下の内容で評価した。

ー:被害なし +:軽微な被害症状あり ++:中程度の被害症状あり +++:重度の被害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率(%)			防除価 6/28	薬害 6/14, 28
				6/ 2	6/14	6/28		
17) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot. 97K006	100	0.1	I	20	10	0	100	—
			II	20	5	0		—
			III	50	15	0		—
			平均	30.0	10.0	0		—
	500	0.5	I	20	5	0	100	—
			II	30	10	0		—
			III	60	10	0		—
			平均	36.7	8.3	0		—
対) セルカディスフロアブル フルキサピロキサド 26.5%	666	0.2	I	20	5	0	100	—
			II	10	5	0		—
			III	40	10	0		—
			平均	23.3	6.7	0		—
無処理	—	—	I	40	40	40		
			II	25	25	40		
			III	50	50	50		
			平均	38.3	38.3	43.3		

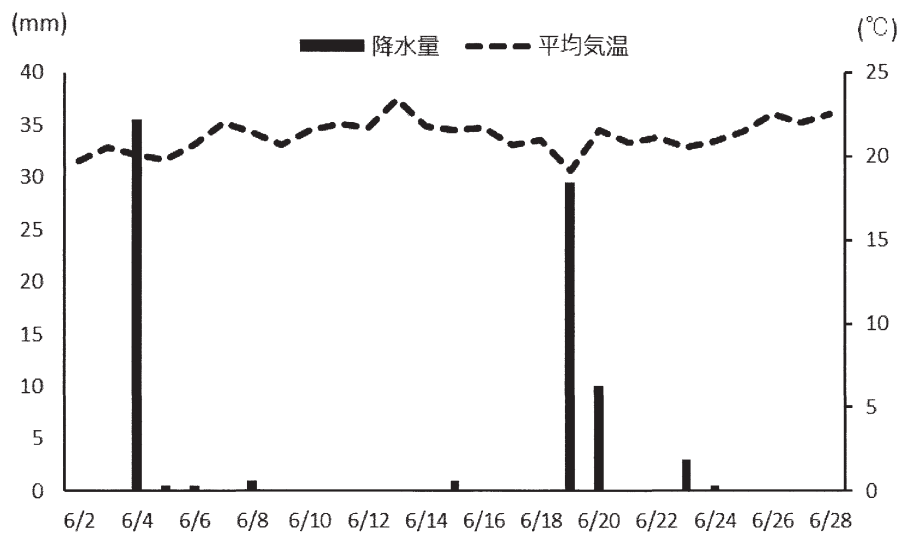
4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

5月下旬に葉腐病の発生を確認し, 試験を開始した。処理26日後(6/28)の結果から判定した。

17) 丸和レキシコン 100倍, 0.1L/m² BAA- 500倍, 0.5L/m² BAA-

本剤の100倍, 0.1L/m²区および500倍, 0.5L/m²区は対照薬剤のセルカディスフロアブルと同等の防除効果を示した。無処理区に比べて高い防除効果を示した。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

試験期間中の気象条件



観測地点: 茨城県笠間アメダスデータ

対象病害虫名 赤焼病 *Pythium aphanidermatum*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 広島カントツリー倶楽部(広島県東広島市西条町)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種: ベントグラス 定植: 5年以上 ナーセリー

刈高: 4.2mm 施肥: パッティンググリーンの一般管理

土性: 真砂土(花崗岩風化土壌) 試験期間中の防除薬剤: なし

7月中旬に粒状化成肥料(10-8-8)を30g/m²を施肥区制・面積・試験区の構成 1区2m²(2m×1m) 3連制

				1-Ⅲ	3-Ⅲ
1-Ⅰ		1-Ⅱ		2-Ⅲ	
2-Ⅰ		2-Ⅱ	3-Ⅱ		
	3-Ⅰ				

1: ガンプロターフロアブル 200 倍 0.1L/m² 2: ランポン P フロアブル 400 倍 0.2L/m² 3: 無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年7月30日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L~0.2L/m²)を使用して、0.1L/m²、0.2L/m²の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 日	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8
項目												
平均気温(°C)	27.2	26.9	27.3	26.8	27.2	27.2	27.4	27.3	28.0	27.8	27.0	26.7
降水量(mm)												26.0
月 日	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20
項目												
平均気温(°C)	24.5	24.8	23.2	21.6	23.0	22.7	23.2	21.8	22.7	23.1	23.3	23.0
降水量(mm)	45.5		0.5	95.5	157.5	154.0	7.5	8.5	14.0	31.0	15.5	11.5

観測地点: 東広島市のアメダスステータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年8月15日(1回目処理後16日)

(調査方法) 試験区(2m²)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価 = (1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均) × 100

薬害は、茎葉を対象に、散布翌日と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

- : 薬害を認めない。+ : 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、高温、強日射日が続いた。

3. 試験成績

供 試 薬 剤	処理量	区 制	7 月 30 日	8 月 15 日	薬 害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/7/31 2021/8/15
10) ザンプロターフフロアブル アトトラジン 18.9% lot.SOC-01	200倍 0.1L/㎡	I	0.0	0.5	-
		II	0.3	0.5	-
		III	0.0	0.0	-
		平 均	0.1	0.3	98.6
対) ランマンPフロアブル シアゾファミド 9.4%	400倍 0.2L/㎡	I	0.2	0.2	-
		II	0.0	0.5	-
		III	0.0	0.0	-
		平 均	0.07	0.2	99.1
無処理		I	0.0	15.0	
		II	0.3	25.0	
		III	0.0	25.0	
		平 均	0.1	21.7	

4. 考 察

2021年8月15日 判定

10) ザンプロターフフロアブル 200倍 0.1L/㎡ BAA-

本剤の200倍 0.1L/㎡処理は、対照薬剤ランマンPフロアブル(400倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 赤焼病 *Pythium aphanidermatum*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 周南カントリー倶楽部(山口県周南市)

対象病害虫発生状況 多発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種: ベントグラス 定植: 10年以上 パッティンググリーン

刈高: 4.5mm 施肥: パッティンググリーンの一般管理

土性: 真砂土(花崗岩風化土壌) 試験期間中の防除薬剤: なし

6月中旬、7月中旬に粒状化成肥料(12-7-7)を30g/m²を施肥区制・面積・試験区の構成 1区4m²(2m×2m) 3連制

6-I			4-II		6-II		5-III
1-I				5-II	1-III		
2-I		1-II			2-III		
3-I		2-II			3-III		6-III
4-I	5-I	3-II			4-III		

1: ザンプロターフロアブル 200倍 0.1L/m² 2: ティスアームフロアブル 800倍 0.1L/m² 3: モトクターフロアブル 50倍 0.2L/m²4: モトクターフロアブル 100倍 0.2L/m² 5: ランマンP フロアブル 400倍 0.2L/m² 6: 無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年7月27日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L~0.2L/m²)を使用して、0.1L/m²、0.2L/m²の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 日	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6
項目												
平均気温(°C)	27.6	28.0	28.6	28.0	28.0	28.4	28.1	28.3	29.0	29.1	29.1	29.9
降水量(mm)												
月 日	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18
項目												
平均気温(°C)	29.9	28.1	26.0	26.5	24.0	24.0	25.1	24.6	24.8	23.3	24.3	24.0
降水量(mm)		35.0	54.5		5.0	96.0	128.0	141.0	0.5	7.5	61.5	0.5

観測地点: 下松のアメダステータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年8月11日(1回目処理後15日)

(調査方法) 試験区(4m²)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価 = (1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均) × 100

薬害は、茎葉を対象に、散布翌日および調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

- : 薬害を認めない。+ : 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、高温、強日射が続いた。

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	7月27日	8月11日	薬害
			パッチ面積率(%)	パッチ面積率(%) 防除価	2021/7/28 2021/8/11
10) ザンプロターフロアブル アトトラジン 18.9% lot.SOC-01	200倍 0.1L/㎡	I	0.0	5.0	—
		II	0.0	0.0	—
		III	0.0	5.0	—
		平均	0.0	3.3	90.1
12) ディスアームフロアブル フルオキサストロビン 40.3% lot.24.4SOE016	800倍 0.1L/㎡	I	0.0	3.0	—
		II	0.0	0.0	—
		III	0.0	3.0	—
		平均	0.0	2.0	94.0
14) モノクターフロアブル ジラム 40.0% lot.006001	50倍 0.2L/㎡	I	0.0	3.0	—
		II	0.0	3.0	—
		III	0.0	3.0	—
		平均	0.0	3.0	91.0
	100倍 0.2L/㎡	I	0.0	3.0	—
		II	0.0	5.0	—
		III	0.0	0.0	—
		平均	0.0	2.7	91.9
対) ランマンPフロアブル シアゾファミド 9.4%	400倍 0.2L/㎡	I	0.0	0.0	—
		II	0.0	3.0	—
		III	0.0	3.0	—
		平均	0.0	2.0	94.0
無処理		I	0.0	30.0	—
		II	0.0	35.0	—
		III	0.0	35.0	—
		平均	0.0	33.3	

4. 考察

2021年8月11日 判定

10) ザンプロターフロアブル 200倍 0.1L/㎡ BAA-

本剤の200倍 0.1L/㎡処理は、対照薬剤ランマンPフロアブル(400倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

12) ディスアームフロアブル 800倍 0.1L/㎡ BAA-

本剤の800倍 0.1L/㎡処理は、対照薬剤ランマンPフロアブル(400倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

14) モノドクターフロアブル 50倍 0.2L/m² BAA- 100倍 0.2L/m² BAA-

本剤の50倍 0.2/m²処理は、対照薬剤ランマンPフロアブル(400 倍 0.2L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の100倍 0.2L/m²処理は、対照薬剤ランマンPフロアブル(400 倍 0.2L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ピシウム病 *Pythium* 属菌

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 広島カントリー倶楽部 西条コース(広島県東広島市)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種: ベントグラス(007) 定植: 10年以上 パッティンググリーン

刈高: 3.8mm 施肥: パッティンググリーンの一般管理

土性: サンドグリーン(砂) 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(1m×2m) 3連制

1-I	3-I	2-I	4-I
		5-I	
6-I	1-II	3-II	2-II
4-II			5-II
	6-II	1-III	3-III
2-III		4-III	
5-III		6-III	

1: ザンプロターフロアブル 200 倍 0.1L/㎡ 2: デイスマームフロアブル 800 倍 0.1L/㎡

3: モバクターフロアブル 50 倍 0.2L/㎡ 4: モバクターフロアブル 100 倍 0.2L/㎡ 5: ランマン P フロアブル 400 倍 0.2L/㎡

6: 無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年6月28日(1回目)、7月7日(2回目)

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡ 0.2L/㎡)、を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験期間中、降雨日が多かった。

試験期間中の気象条件

月 日	6/27	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8
項目	6/27	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8
平均気温(℃)	22.1	21.9	22.7	23.8	23.1	25.1	24.3	25.7	25.5	25.2	25.5	24.0
降水量(mm)	13.0						1.5	1.0			35.5	177.0
月 日	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20
項目	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20
平均気温(℃)	23.5	23.8	24.4	23.0	25.4	24.8	23.4	22.1	24.1	23.4	25.6	26.3
降水量(mm)	43.0			33.0		7.5	20.0	1.5	6.0	22.0		

観測地点: 東広島市のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年7月7日(1回目処理後9日)、7月19日(2回目処理後12日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

炭ソ病の発生を抑制するために、試験実施前にカシマン液剤(500 倍 0.5L/㎡)を処理

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	6月28日	7月7日	7月19日	薬害
			パッチ面積率(%)	パッチ面積率(%) 防除価	パッチ面積率(%) 防除価	2021/7/7 2021/7/19
10) ザンプロターフロアブル アマトラジン 18.9% lot.SOC-01	200倍 0.1L/㎡	I	1.5	1.5	1.0	-
		II	3.0	1.5	1.0	-
		III	1.5	1.0	1.0	-
		平均	2.0	1.3 95.1	1.0 96.5	-
12) ディスアームフロアブル フルオキサストロビン 40.3% lot.24.4SOE016	800倍 0.1L/㎡	I	0.0	0.0	0.0	-
		II	3.0	1.5	1.0	-
		III	1.5	1.5	1.5	-
		平均	1.5	1.0 96.3	0.8 97.2	-
14) モノドクターフロアブル ジラム 40.0% lot.006001	50倍 0.2L/㎡	I	3.0	2.0	1.0	-
		II	0.0	0.0	0.0	-
		III	1.5	1.5	1.0	-
		平均	1.5	1.2 95.5	0.7 97.5	-
	100倍 0.2L/㎡	I	3.0	2.0	1.0	-
		II	3.0	0.0	0.0	-
		III	1.5	2.0	1.0	-
		平均	2.5	1.3 95.1	0.7 97.5	-
対) ランマンPフロアブル シアゾファミド 9.4%	400倍 0.2L/㎡	I	0.0	0.0	0.0	-
		II	3.0	3.0	1.5	-
		III	3.0	1.5	1.0	-
		平均	2.0	1.5 94.4	0.8 97.2	-
無処理		I	3.0	25.0	30.0	
		II	3.0	25.0	25.0	
		III	0.0	30.0	30.0	
		平均	2.0	26.7	28.3	

4. 考 察

2021 年 7 月 19 日 判定

10) ザンプロターフフロアブル 200倍 0.1L/m² BAA-

本剤の200倍 0.1L/m²処理は、対照薬剤ランマンPフロアブル(400 倍 0.2L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

12) ディスアームフロアブル 800倍 0.1L/m² BAA-

本剤の800倍 0.1L/m²処理は、対照薬剤ランマンPフロアブル(400 倍 0.2L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

14) モノドクターフロアブル 50倍 0.2L/m² BAA- 100倍 0.2L/m² BAA-

本剤の50倍 0.2L/m²処理は、対照薬剤ランマンPフロアブル(400 倍 0.2L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の100倍 0.2L/m²処理は、対照薬剤ランマンPフロアブル(400 倍 0.2L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ピシウム病 *Pythium* 属菌

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 和木ゴルフ倶楽部 (山口県玖珂郡和木町)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種: ベントグラス(ペンクロス) 定植: 10年以上 パッティンググリーン

刈高: 3.8mm 施肥: パッティンググリーンの一般管理

土性: サンドグリーン(砂) 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(1m×2m) 3連制

1-I	2-I	3-I	4-I
	1-II		2-II
3-II	4-II	1-III	
2-III	3-III	4-III	

1: モノクローフロアブル 50 倍 0.2L/㎡ 2: モノクローフロアブル 100 倍 0.2L/㎡ 3: ランマン P フロアブル 400 倍 0.2L/㎡

4: 無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年6月29日(1回目)、7月10日(2回目)

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.2L/㎡)、を使用して、0.2L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 降雨日が多く、防除効果に影響したと考えられる

試験期間中の気象条件

月 日	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9
項目	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9
平均気温(℃)	23.4	24.6	25.0	24.7	25.7	25.2	27.0	27.2	26.8	27.1	26.0	24.4
降水量(mm)				5.0	0.5	3.5	0.5	0.5		16.5	15.5	75.5
月 日	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21
項目	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21
平均気温(℃)	25.0	26.2	25.9	26.4	25.5	25.0	24.0	24.5	23.7	26.4	26.9	26.6
降水量(mm)	1.0				17.5	6.5	0.5	12.0	26.5			

観測地点: 岩国のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年7月10日(1回目処理後11日)、7月20日(2回目処理後10日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価 = (1 - 処理区病斑面積率の平均 / 無処理区病斑面積率の平均) × 100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

- : 薬害を認めない。+ : 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

炭ソ病の発生を抑制するために、試験実施前にカシマン液剤(500 倍 0.5L/㎡)を処理

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	6月29日	7月10日		7月20日		薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%)	防除価	ハッチ面積率(%)	防除価	2021/7/10 2021/7/20
14) モノドクターフロアブル ジラム 40.0% lot.006001	50倍 0.2L/㎡	I	5.0	5.0		0.0		-
		II	5.0	5.0		0.0		-
		III	10.0	10.0		2.0		-
		平均	6.7	6.7	76.3	0.7	97.8	-
	100倍 0.2L/㎡	I	5.0	5.0		2.0		-
		II	5.0	5.0		0.0		-
		III	5.0	5.0		0.0		-
		平均	5.0	5.0	82.3	0.7	97.8	-
対) ランマンPフロアブル シアゾファミド 9.4%	400倍 0.2L/㎡	I	10.0	5.0		0.0		-
		II	10.0	10.0		0.0		-
		III	5.0	5.0		0.0		-
		平均	8.3	6.7	76.3	0.0	100	-
無処理		I	10.0	30.0		35.0		
		II	5.0	35.0		35.0		
		III	5.0	20.0		25.0		
		平均	6.7	28.3		31.7		

4. 考察

2021年7月20日 判定

14) モノドクターフロアブル 50倍 0.2L/㎡ BAA- 100倍 0.2L/㎡ BAA-

本剤の50倍 0.2L/㎡処理は、対照薬剤ランマンPフロアブル(400 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の100倍 0.2L/㎡処理は、対照薬剤ランマンPフロアブル(400 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ピシウム病 *Pythium* 属菌

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 周南カンツリー倶楽部 (山口県周南市安田)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種: パーミューダグラス 定植: 4年 パッティンググリーン

刈高: 4.0mm 施肥: パッティンググリーンの一般管理

土性: 砂+花崗岩 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(1m×2m) 3連制

		3-I		1-II			3-III
		4-I		2-II			4-III
	1-I			3-II		1-III	
	2-I			4-II		2-III	

1: レキシコン顆粒水和剤 100 倍 0.1L/㎡ 2: レキシコン顆粒水和剤500 倍 0.5L/㎡ 3: ヘスグリーン DF 1000 倍 0.2L/㎡

4: 無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年5月21日(1回目)、6月1日(2回目)

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡ 0.2L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験期間中、降雨日が多かった

試験期間中の気象条件

月 日	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30	5/31
項目												
平均気温(℃)	19.6	19.8	19.2	20.4	18.8	19.8	17.8	17.9	19.6	20.5	19.8	21.3
降水量(mm)	116.5	5.5			12.5	0.5	2.5	38.5				
月 日	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12
項目												
平均気温(℃)	22.4	22.4	19.4	20.2	18.7	20.1	22.0	23.2	24.9	24.0	23.5	23.0
降水量(mm)			51.5	54.5								1.0

観測地点: 下松市のアメダスステータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年6月1日(1回目処理後10日)、6月14日(2回目処理後13日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価 = (1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均) × 100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	5月21日	6月1日	6月14日	薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/6/1 2021/6/14
17) 丸和レキシコン ピラクストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot.03K003	100倍 0.1L/㎡	I	5.0	5.0	0.0	-
		II	10.0	5.0	0.0	
		III	15.0	10.0	5.0	
		平均	10.0	6.6 79.2	1.7 93.2	
	500倍 0.5L/㎡	I	10.0	10.0	5.0	-
		II	10.0	5.0	0.0	
		III	15.0	5.0	0.0	
		平均	11.7	6.6 79.2	1.7 93.2	
対) ベスグリーンDF アミスルフロム 50%	1000倍 0.2L/㎡	I	10.0	5.0	5.0	-
		II	5.0	5.0	0.0	
		III	10.0	5.0	5.0	
		平均	8.3	5.0 84.2	3.3 86.8	
無処理		I	5.0	30.0	25.0	
		II	10.0	30.0	25.0	
		III	10.0	35.0	25.0	
		平均	8.3	31.7	25.0	

4. 考察

2021年6月14日 判定

17) 丸和レキシコン 100倍 0.1L/㎡ BAA- 500倍 0.5L/㎡ BAA-

本剤の100倍 0.1L/㎡処理は、対照薬剤ベスグリーンDF(1000倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の500倍 0.5L/㎡処理は、対照薬剤ベスグリーンDF(1000倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ピシウム病 *Pythium* 属菌

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 周南カンツリー倶楽部 (山口県周南市安田)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種: パーミューダグラス 定植: 4年 パッティンググリーン

刈高: 4.0mm 施肥: パッティンググリーンの一般管理

土性: 砂 + 花崗岩 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区 2㎡ (1m × 2m) 3連制

	1-I	6-I	3-II		1-III	4-III	6-III
2-I	5-I	7-I	4-II		2-III	5-III	7-III
3-I		1-II	5-II	6-II	3-III		
4-I		2-II		7-II			

1: クイテラ顆粒水和剤 1000 倍 0.5L/㎡ 2: クイテラ顆粒水和剤 2000 倍 0.5L/㎡ 3: クイテラ顆粒水和剤 200 倍 0.1L/㎡

4: クイテラ顆粒水和剤 400 倍 0.1L/㎡ 5: サンプレク液剤 100 倍 0.1L/㎡ 6: ベスグリーン DF 1000 倍 0.2L/㎡ 7: 無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年5月21日(1回目)、6月1日(2回目)

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡ 0.2L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験期間中、降雨日が多かった

試験期間中の気象条件

月 日 項 目	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30	5/31	6/1
平均気温(℃)	19.6	19.8	19.2	20.4	18.8	19.8	17.8	17.9	19.6	20.5	19.8	21.3	22.4
降水量(mm)	116.5	5.5			12.5	0.5	2.5	38.5					
月 日 項 目	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14
平均気温(℃)	22.4	19.4	20.2	18.7	20.1	22.0	23.2	24.9	24.0	23.5	23.0	23.0	23.2
降水量(mm)		51.5	54.5								1.0	14.5	1.0

観測地点: 下松市のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年6月1日(1回目処理後10日)、6月14日(2回目処理後13日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価 = (1 - 処理区病斑面積率の平均 / 無処理区病斑面積率の平均) × 100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

- : 薬害を認めない。+ : 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	5月21日	6月1日	6月14日	薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/6/1 2021/6/14
9) クインテク顆粒水和剤 ヒ°カルブトラゾクス 20% lot.SDI-02T	1000倍 0.5L/m ²	I	10.0	10.0	0.0	-
		II	10.0	5.0	0.0	-
		III	15.0	10.0	0.0	-
		平均	11.7	8.3 73.8	0.0 100	-
	2000倍 0.5L/m ²	I	15.0	10.0	5.0	-
		II	10.0	10.0	0.0	-
		III	5.0	5.0	0.0	-
		平均	10.0	8.3 73.8	1.7 93.2	-
9) クインテク顆粒水和剤 ヒ°カルブトラゾクス 20% lot.SDI-02T	200倍 0.1L/m ²	I	15.0	10.0	5.0	-
		II	15.0	15.0	5.0	-
		III	10.0	5.0	0.0	-
		平均	13.3	10.0 68.5	3.3 86.8	-
	400倍 0.1L/m ²	I	20.0	10.0	5.0	-
		II	10.0	5.0	0.0	-
		III	10.0	5.0	5.0	-
		平均	13.0	6.6 79.2	3.3 86.8	-
10) サンプレイク液剤 ヒ°ロキシイソキサゾール 16.5% lot.87U20001	100倍 0.1L/m ²	I	5.0	5.0	5.0	-
		II	15.0	10.0	5.0	-
		III	15.0	5.0	0.0	-
		平均	11.7	6.6 79.2	3.3 86.8	-
対) ベスグリーンDF アミスル°ロム 50%	1000倍 0.2L/m ²	I	10.0	5.0	5.0	-
		II	5.0	5.0	0.0	-
		III	10.0	5.0	5.0	-
		平均	8.3	5.0 84.2	3.3 86.8	-
無処理		I	5.0	30.0	25.0	
		II	10.0	30.0	25.0	
		III	10.0	35.0	25.0	
		平均	8.3	31.7	25.0	

4. 考 察

2021 年 6 月 14 日 判定

9) クインテクト顆粒水和剤 1000倍 0.5L/㎡ AAA- 2000倍 0.5L/㎡ BAA-

本剤の1000倍 0.5/㎡処理は、対照薬剤ベスグリーンDF(1000 倍 0.2L/㎡)とより優れた防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の2000倍 0.5L/㎡処理は、対照薬剤ベスグリーンDF(1000 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

9) クインテクト顆粒水和剤 200倍 0.1L/㎡ BBB- 400倍 0.1L/㎡ BBB-

本剤の200倍 0.1L/㎡処理は、対照薬剤ベスグリーンDF(1000 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の400倍 0.1L/㎡処理は、対照薬剤ベスグリーンDF(1000 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

10) サンプレイク液剤 100倍 0.1L/㎡ BBB-

本剤の100倍 0.1L/㎡処理は、対照薬剤ベスグリーンDF(1000 倍 0.2L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 ピシウム病 *Pythium* sp.

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 埼玉県比企郡ときがわ町 越生ゴルフクラブ ナセリ

対象病害虫発生状況 中発生 初発:2021年4月中旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:パーミューダグラス(品種:ティフイーグル) 土性:砂土

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高4mm 刈り込み頻度:隔日 ゴルフ場の慣行(グリーンの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 4m² (2×2m) , 3連制

			1-I
3-II	2-II	1-II	2-I
1-III	3-III	2-III	3-I

1. 丸和レキシコン 100倍

2. 丸和レキシコン 500倍

3. 無処理

I, II, IIIは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年4月19日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 水量0.1L/m²は充電式噴霧器(1頭口, Teejet8003ノズル), 同0.5L/m²は園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため, 影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

月日	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30
平均気温(℃)	13.7	14.5	17.5	17.3	13.4	13.8	14.0	12.0	11.5	15.5	15.8	18.1
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14.0	0.5

月日	5/ 1	5/ 2	5/ 3	5/ 4
平均気温(℃)	15.8	15.3	15.8	16.2
降水量(mm)	3.5	4.0	0	0

観測地点:埼玉県鳩山アメダスデータ

調査月日・方法 (月日, 詳細な方法, 指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年4月19日(処理前), 4月26日(処理7日後), 5月4日(処理15日後)

被害:2021年4月20日(処理1日後), 4月26日(処理7日後), 5月4日(処理15日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

被害は葉身を対象に肉眼により観察した。被害症状の有無を以下の内容で評価した。

一:被害なし 十:軽微な被害症状あり 十十:中程度の被害症状あり 十十十:重度の被害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 ピシウム病 *Pythium* sp.

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率(%)			防除価 5/4	薬害 4/20, 26, 5/4
				4/19	4/26	5/4		
17) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot. 97K006	100倍	0.1	I	20	5	0	100	—
			II	60	20	0		—
			III	50	30	0		—
			平均	43.3	18.3	0		
	500倍	0.5	I	20	10	0	100	—
			II	50	20	0		—
			III	60	20	0		—
			平均	43.3	16.7	0		
無処理	—		I	50	50	30		
			II	40	40	20		
			III	40	40	40		
			平均	43.3	43.3	30.0		

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

処理7日後(4/26)の調査では、丸和レキシコン区でパッチ面積率の減少が認められたものの、治癒には至らなかった。無処理区ではパッチ面積率に変化はなかった。

同15日後(5/4)の調査では、丸和レキシコン区ではすべての区画でパッチが消失していた。無処理区の一部では自然治癒によりパッチ面積率が漸減した。しかしながら、丸和レキシコン区と無処理区では明らかな差が認められたため、判定可能と判断した。

処理15日後(5/4)の調査結果から判定することとした。

17) 丸和レキシコン 100倍, 0.1L/m² -AA- 500倍, 0.5L/m² -AA-

本剤の100倍, 0.1L/m²区および500倍, 0.5L/m²区は無処理区に比べて高い防除効果を示した。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 炭疽病 *Colletotrichum* spp.

試験場名 (一財) 関西グリーン研究所

担当者氏名 松村直哉

1. 試験目的 (依頼事項) 防除効果及び葉害の検討

2. 試験方法 試験地場所 兵庫県宝塚市小林字南畑 226-1 圃場内

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種: ペントグラス (ペンクロス) 張芝: 平成 18 年

施肥・刈込などの一般管理はゴルフ場慣行に準じた

土性: 砂土 試験期間中の防除薬剤: 無し

区制・面積 1 区 2 m² (1 × 2m²)、3 連制

		2-II		1-I
1-III		4-III		
	3-II		3-I	2-I
	2-III		4-II	
3-III			1-II	4-I

1. BAF-2001 200 倍処理
 2. BAF-2001 1000 倍処理
 3. オナーWDG
 4. 無処理
- I、II、IIIは連制を示す。

処理年月日, 量, 方法, 処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2021 年 7 月 5 日、13 日の計 2 回

(処理方法) 所定の処理方法に従い乾電池式小型噴霧器 (GT-5S) を用いて散布した。

(処理前後の降雨影響)

(試験期間中の降雨)

月日	7/5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
平均気温 (°C)	28.4	28.7	26.6	28.5	29.2	29.4	28.4	25.5	26.4	27	26.3	27	28.9
降水量 (mm)	0	0	103	62.5	5.7	6.9	0	0	0	0	50.3	7.9	0

月日	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
平均気温 (°C)	27.6	29	28.7	29.4	29	29	28.7	28.6	29.4	29.5	28.3	28.2	29.2	28.4
降水量 (mm)	6.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.5

観測地点: 圃場内気象機データ

調査月日・方法

(調査月日) 薬効試験 7 月 5 日、7 月 13 日、7 月 19 日 (最終散布 7 日後)、7 月 26 日 (最終散布 14 日後)

葉害試験 7 月 13 日 (2 回目散布前)、7 月 19 日 (最終散布 7 日後)、7 月 26 日 (最終散布 14 日後)

(調査方法) 試験区内のパッチ面積を実測し、パッチ面積率を算出した。

葉害は葉身を対象に肉眼で観察し、葉害症状の有無を以下の内容で観察した。

- : 葉害を認めない。+ : 軽微な葉害症状を認める。++ : 中程度の葉害症状を認める。+++ : 重度の葉害症状を認める。

その他

対象病虫害名・学名 炭疽病 *Colletotrichum* spp.

試験場名：関西グリーン研究所

3. 試験成績

試験薬剤	希釈倍数 水量	区制	調査日別 パッチ面積率				防除価	薬害 7/13,19, 26
			7/5 パッチ 面積率	7/13 パッチ 面積率	7/19 パッチ 面積率	7/26 パッチ 面積率		
1) BAF-2001フロアブル 新規化合物100g/L lot.No.FD-210202-1039	200倍 0.1L/m ²	I	14.3	5.7	0.0	0.0		—
		II	9.3	17.8	11.5	0.0		—
		III	5.4	12.3	0.0	0.0		—
		平均	9.7	11.9	3.8	0.0	100.0	
	1000倍 0.5L/m ²	I	7.8	11.1	2.8	0.4		—
		II	16.7	19.6	1.4	0.0		—
		III	8.4	14.4	1.8	0.0		—
		平均	11.0	15.0	2.0	0.1	99.7	
対) オナーWDG ピラクロストロビン6.8% ボスカリド13.6%	1000倍 0.5L/m ²	I	15.3	28.8	12.3	4.2		—
		II	7.3	33.3	10.4	0.9		—
		III	8.1	12.5	7.9	5.2		—
		平均	10.2	24.9	10.2	3.4	91.4	
無処理		I	6.8	18.9	40.2	44.4		
		II	3.8	24.7	33.6	30.6		
		III	13.4	20.7	38.9	44.8		
		平均	8.0	21.4	37.6	39.9		

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 炭疽病 *Colletotrichum* spp.

試験場名：関西グリーン研究所

4. 考察

1) BAF-2001 フロアブル 200 倍 0.1L/m² (AAA-)

本剤の 200 倍 0.1L/m²処理は対照のオナーWDG1000 倍 0.5L/m²処理と比較してまさる効果を示した。無処理と比較して高い効果が認められた。実用性は高いと思われる。葉害は認められなかった。

1) BAF-2001 フロアブル 1000 倍 0.5L/m² (AAA-)

本剤の 1000 倍 0.5L/m²処理は対照のオナーWDG1000 倍 0.5L/m²に比較してまさる効果を示した。無処理と比較して高い効果が認められた。実用性は高いと思われる。葉害は認められなかった。

対象病害虫名 炭そ病 *Colletotrichum graminicola*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 広島カンツリー倶楽部 八本松コース(広島県東広島市)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:ベントグラス 定植:10年以上 パッティンググリーン

刈高:3.8 mm 施肥:パッティンググリーンの一般管理

土性:サンドグリーン(砂質土壌) 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(2m×1m) 3連制

1-I	5-I	3-II	1-III	5-III
2-I	6-I	4-II	2-III	6-III
3-I	1-II	5-II	3-III	
4-I	2-II	6-II	4-III	

1:BAF-2001 フロアブル 200 倍 0.1L/㎡ 2:BAF-2001 フロアブル 1000 倍 0.5L/㎡ 3:BYF-20297 フロアブル 50 倍 0.1L/㎡

4:BYF-20297 フロアブル 100 倍 0.2L/㎡ 5:カシマン液剤 500 倍 0.5L/㎡ 6:無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年7月27日、8月10日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L~0.2L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 日	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9
項目															
平均気温(℃)	26.3	27.1	27.2	26.9	27.3	26.8	27.2	27.2	27.4	27.3	28.0	27.8	27.0	26.7	24.5
降水量(mm)														26.0	45.5
月 日	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24
項目															
平均気温(℃)	24.8	23.2	21.6	23.0	22.7	23.2	21.8	22.7	23.1	23.3	23.0	24.4	24.7	25.9	25.4
降水量(mm)		0.5	95.5	157.5	154.0	7.5	8.5	14.0	31.0	15.5	11.5	1.5	7.0		0.5

観測地点:東広島市のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年8月10日(1回目処理後13日)、8月23日(2回目処理後13日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、2回目処理後、降雨日が多かった

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	7月27日	8月10日		8月23日		薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%)	防除価	ハッチ面積率(%)	防除価	2021/8/10 2021/8/23
1) BAF-2001フロアブル 新規化合物 100g/Ltr lot.FD-210202-1039	200倍 0.1L/m ²	I	0.8	0.8		0.8		-
		II	0.0	0.8		0.8		-
		III	0.4	0.8		0.8		-
		平均	0.4	0.8	97.2	0.8	97.3	
	1000倍 0.5L/m ²	I	0.4	0.8		1.6		-
		II	0.0	0.4		0.8		-
		III	0.0	0.4		0.4		-
		平均	0.13	0.5	98.2	0.9	97.0	
3) BYF-20297フロアブル フルオピラム 1.2% トリフロキシストロビン 1.9% lot.NK44LX3126	50倍 0.1L/m ²	I	0.0	0.8		0.4		-
		II	0.4	0.4		0.8		-
		III	0.4	0.8		0.8		-
		平均	0.27	0.7	97.5	0.7	97.7	
	100倍 0.2L/m ²	I	0.0	0.4		0.4		-
		II	0.4	0.8		1.6		-
		III	0.4	0.8		0.4		-
		平均	0.27	0.7	97.5	0.8	97.3	
対) カシマン液剤 イミダクジン酢酸塩 5.0%	500倍 0.5L/m ²	I	0.4	0.8		0.4		-
		II	0.4	0.8		0.8		-
		III	0.0	0.4		0.8		-
		平均	0.27	0.7	97.5	0.7	97.3	
無処理		I	0.4	25.0		30.0		
		II	0.0	30.0		30.0		
		III	0.4	30.0		30.0		
		平均	0.27	28.3		30.0		

4. 考 察

2021年8月23日 判定

1) BAF-2001フロアブル 200倍 0.1L/m² BAA- 1000倍 0.5L/m² BAA-

本剤の200倍 0.1L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の1000倍 0.5L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

3) BYF-20297フロアブル 50倍 0.1L/m² BAA- 100倍 0.2L/m² BAA-

本剤の50倍 0.1L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の100倍 0.2L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 炭そ病 *Colletotrichum graminicola*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 周南カントリー倶楽部(山口県周南市)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:ベントグラス 定植:10年以上 パッティンググリーン

刈高:4.0 mm 施肥:パッティンググリーンの一般管理

土性:真砂土(花崗岩風化土壌) 試験期間中の防除薬剤: なし

7月中旬より刈高を低くする

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(2m×1m) 3連制

1-I		2-II		3-III	6-III
2-I		3-II	6-II	4-III	7-III
3-I	6-I	4-II	7-II	5-III	
4-I	7-I	5-II	1-III		
5-I	1-II		2-III		

1:BAF-2001フロアブル 200倍 0.1L/㎡ 2:BAF-2001フロアブル 1000倍 0.5L/㎡ 3:BYF-20297フロアブル 50倍 0.1L/㎡

4:BYF-20297フロアブル 100倍 0.2L/㎡ 5:モトクターフロアブル 100倍 0.2L/㎡ 6:プロテクト顆粒水和剤 166倍 0.5L/㎡ 7:無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年7月16日、7月28日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L~0.2L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 日	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28
項目														
平均気温(℃)	26.9	25.2	24.9	24.6	26.8	26.7	26.9	27.1	27.7	27.4	27.4	27.6	28.0	28.6
降水量(mm)			4.0	19.5										
月 日	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11
項目														
平均気温(℃)	28.0	28.0	28.4	28.1	28.3	29.0	29.1	29.1	29.9	29.9	28.1	26.0	26.5	24.0
降水量(mm)											35.0	54.5		5.0

観測地点:下松のアメダステータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年7月28日(1回目処理後12日)、8月11日(2回目処理後14日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、高温、強日射日が続いた。

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	7月16日	7月28日	8月11日	薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/7/28 2021/8/11
1) BAF-2001フロアブル 新規化合物 100g/Ltr lot.FD-210202-1039	200倍 0.1L/m ²	I	0.0	0.8	0.4	-
		II	0.0	0.4	0.4	-
		III	0.4	0.8	0.4	-
		平均	0.13	0.7 97.2	0.4 98.5	-
	1000倍 0.5L/m ²	I	0.0	0.8	0.4	-
		II	0.0	0.4	0.4	-
		III	0.0	0.0	0.0	-
		平均	0.0	0.4 98.4	0.3 98.9	-
3) BYF-20297フロアブル フルオビラム 1.2% トリフロキシストロビン 1.9% lot.NK44LX3126	50倍 0.1L/m ²	I	0.0	0.4	0.0	-
		II	0.4	0.8	0.4	-
		III	0.0	0.8	0.4	-
		平均	0.13	0.7 97.2	0.3 98.9	-
	100倍 0.2L/m ²	I	0.0	0.4	0.0	-
		II	0.0	0.4	0.0	-
		III	0.0	0.4	0.4	-
		平均	0.0	0.4 98.4	0.13 99.5	-
14) モノクスターフロアブル ジラム 40.0% Lot006001	100倍 0.2L/m ²	I	0.0	0.4	0.0	-
		II	0.0	0.8	0.0	-
		III	0.0	0.8	0.4	-
		平均	0.0	0.7 97.2	0.13 99.5	-
対) プロテクメート顆粒水和剤 プロピネブ 70%	166倍 0.5L/m ²	I	0.0	0.8	0.4	-
		II	0.0	0.4	0.4	-
		III	0.0	0.4	0.4	-
		平均	0.0	0.7 97.2	0.4 98.5	-
無処理		I	0.4	25.0	25.0	-
		II	0.0	25.0	30.0	-
		III	0.0	25.0	25.0	-
		平均	0.13	25.0	26.7	-

4. 考察

2021年8月11日 判定

1) BAF-2001フロアブル 200倍 0.1L/m² BAA- 1000倍 0.5L/m² BAA-

本剤の200倍 0.1L/m²処理は、対照薬剤プロテクメート顆粒水和剤(166倍 0.5L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の1000倍 0.5L/m²処理は、対照薬剤プロテクメート顆粒水和剤(166倍 0.5L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

3) BYF-20297フロアブル 50倍 0.1L/m² BAA- 100倍 0.2L/m² BAA-

本剤の50倍 0.1L/m²処理は、対照薬剤プロテクメート顆粒水和剤(166倍 0.5L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の100倍 0.2L/m²処理は、対照薬剤プロテクメート顆粒水和剤(166倍 0.5L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

14) モノドクターフロアブル 100倍 0.2L/m² BAA-

本剤の100倍 0.2L/m²処理は、対照薬剤プロテクメート顆粒水和剤(166倍 0.5L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 炭 そ 病 *Colletotrichum graminicola*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試 験 目 的 防除効果および薬害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 大山ゴルフクラブ (鳥取県西伯郡西伯町)

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種: ベントグラス 定植: 10年以上 パッティンググリーン

刈高: 3.6 mm 施肥: パッティンググリーンの一般管理

土性: サンドグリーン(砂質土壌) 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(2m×1m) 3連制

1-I	4-I	2-II	1-III	
2-I	1-II	3-II	2-III	4-III
3-I		4-II	3-III	

1: BYF-20297 フロアブル 50 倍 0.1L/㎡ 2: BYF-20297 フロアブル 100 倍 0.2L/㎡

3: カシマン液剤 500 倍 0.5L/㎡ 4: 無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年7月26日、8月11日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L~0.2L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験期間中、結果に影響する事象はなかった。

試験期間中の気象条件

月 日	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10
項 目																
平均気温(℃)	29.1	27.6	27.9	27.5	27.7	27.7	28.9	31.0	30.4	30.0	30.8	30.7	28.2	24.9	26.3	25.0
降水量(mm)														10.0	62.0	
月 日	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26
項 目																
平均気温(℃)	24.4	22.7	22.0	23.9	24.5	22.6	24.2	24.2	26.1	26.2	26.8	27.6	26.6	27.8	29.7	29.1
降水量(mm)	4.5	6.0	109.0	102.5	3.5	10.5	34.5	7.5	3.0	3.0	8.0	1.0	12.0	5.0		

観測地点: 米子市のアメスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年8月11日(1回目処理後16日)、8月26日(2回目処理後15日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価 = (1 - 処理区病斑面積率の平均 / 無処理区病斑面積率の平均) × 100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

一: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、2回目処理後、降雨日が多かった

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	7月26日	8月11日		8月26日		薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%)	防除価	ハッチ面積率(%)	防除価	2021/8/11 2021/8/26
3) BYF-20297フロアブル フルオピラム 1.2% トリフロキシストロビン 1.9% lot.NK44LX3126	50倍 0.1L/m ²	I	0.4	0.4		0.4		-
		II	0.4	0.4		0.8		-
		III	0.0	0.0		0.4		-
		平均	0.27	0.27	98.0	0.53	96.8	
	100倍 0.2L/m ²	I	0.0	0.0		0.4		-
		II	0.4	0.4		0.4		-
		III	0.4	0.4		0.4		-
		平均	0.27	0.27	98.0	0.4	97.6	
対) カシマン液剤 イミタジン酢酸塩 5.0%	500倍 0.5L/m ²	I	0.4	0.4		0.8		-
		II	0.0	0.4		0.4		-
		III	0.0	0.4		0.4		-
		平均	0.13	0.4	97.0	0.53	96.8	
無処理		I	0.4	15.0		15.0		-
		II	0.4	15.0		20.0		-
		III	0.0	10.0		15.0		-
		平均	0.27	13.3		16.7		-

4. 考察

2021年8月26日 判定

3) BYF-20297フロアブル 50倍 0.1L/m² BAA- 100倍 0.2L/m² BAA-

本剤の50倍 0.1L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の100倍 0.2L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 炭疽病 *Colletotrichum* sp.

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 埼玉県比企郡ときがわ町 越生ゴルフクラブ ナセリ

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種: ベントグラス(品種:007) 土性:砂土

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高4mm 刈り込み頻度:隔日 ゴルフ場の慣行(グリーンの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 3m² (1.5×2m) , 3連制

	2-I		
	1-I	3-I	
		2-II	
1-II			3-II
	3-III		1-III
	2-III		

1. モノドクターフロアブル
 2. トップグラスドライフロアブル
 3. 無処理
- I, II, IIIは連制を示す。

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年5月4日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 水量0.2L/m²は充電式噴霧器(1頭口, Teejet8003ノズル), 同0.5L/m²は園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため、影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

月日	5/ 4	5/ 5	5/ 6	5/ 7	5/ 8	5/ 9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15
平均気温(℃)	16.2	15.0	19.2	16.7	18.9	20.8	20.1	16.0	16.0	16.0	21.6	21.6
降水量(mm)	0	0	0	1.0	0	0	0	0	0	0.5	0	0

月日	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20
平均気温(℃)	19.2	20.3	19.0	17.1	18.0
降水量(mm)	1.0	2.0	7.0	10.5	3.0

観測地点:埼玉県鳩山アメダスデータ

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年5月20日(処理16日後)

被害:2021年5月13日(処理9日後), 5月20日(処理16日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

被害は葉身を対象に肉眼により観察した。被害症状の有無を以下の内容で評価した。

一:被害なし 十:軽微な被害症状あり 十十:中程度の被害症状あり 十十十:重度の被害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対象病害虫名・学名 炭疽病 *Colletotrichum* sp.

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率 (%)	防除価 5/20	薬害 5/13, 20
14) モノドクターフロアブル ジラム 40.0% Lot. 006001	100	0.2	I II III 平均	0 5 0 1.7	91.5	— — —
対) トップグラスドライフロアブル チオファネートメチル 70.0%	500	0.5	I II III 平均	0 5 0 1.7	91.5	— — —
無処理	—	—	I II III 平均	30 10 20 20.0		

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

炭疽病発生前に試験を開始した。5月中旬より本病の発生が見られた。判定は処理16日後(5/20)の調査結果から行うこととした。

14) モノドクターフロアブル 100倍, 0.2L/m² BAA-

本剤の100倍, 0.2L/m²区は対照薬剤のトップグラスドライフロアブルと同等の防除効果を示した。無処理区に比べて高い防除効果を示した。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 炭疽病 *Colletotrichum* sp.

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 千葉県成田市南羽鳥 成田フェアフィールドゴルフクラブ ナセリ

対象病害虫発生状況 多発生 初発:9月上旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:ベントグラス(品種:ペンクロス) 土性:砂土

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高4mm 刈り込み頻度:隔日 ゴルフ場の慣行(グリーンの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 4m² (2×2m), 3連制

3-Ⅱ	1-Ⅰ		3-Ⅰ
			2-Ⅰ
1-Ⅱ			
2-Ⅱ		3-Ⅲ	
		2-Ⅲ	
		1-Ⅲ	

1. モノドクターフロアブル
 2. カシマン液剤
 3. 無処理
- I, II, IIIは連制を示す。

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年9月14日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 水量0.2L/m²は充電式噴霧器(1頭口, Teejet8003ノズル), 同0.5L/m²は園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 9月14日の薬剤処理は午前中, 降雨は19時以降であった。

対照薬剤のカシマン液剤が防除効果を示しており, 降雨の影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

月日	9/14	9/15	9/16	9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22
平均気温(℃)	21.8	21.9	21.7	21.9	24.3	22.2	20.7	21.6	24.7
降水量(mm)	7.5	2.0	0	0	31.0	6.5	0	0	0

観測地点:千葉県成田アメダスデータ

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年9月14日(処理前), 9月22日(処理8日後)

被害:2021年9月16日(処理2日後), 9月22日(処理8日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

被害は葉身を対象に肉眼により観察した。被害症状の有無を以下の内容で評価した。

一:被害なし 十:軽微な被害症状あり 十十:中程度の被害症状あり 十十十:重度の被害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対象病虫害名・学名 炭疽病 *Colletotrichum* sp.

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率(%)		防除価 9/22	薬害 9/16, 22
				9/14	9/22		
14) モノドクターフロアブル ジラム 40.0% Lot. 006001	100	0.2	I	10	0	100	—
			II	20	0		
			III	40	0		
			平均	23.3	0		
対) カシマン液剤 イミノクタジン酢酸塩 5.0%	500	0.5	I	10	0	96.1	—
			II	5	0		
			III	40	5		
			平均	18.3	1.7		
無処理	—	—	I	20	40		
			II	40	40		
			III	30	50		
			平均	30.0	43.3		

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

炭疽病発生後に試験を開始した。処理8日後(9/22)の調査では、無処理区でパッチ面積率の増加が認められた。一方、薬剤処理区ではパッチが消失し、防除効果が確認されたため、この日の調査結果から判定することとした。

14) モノドクターフロアブル 100倍, 0.2L/m² BAA-

本剤の100倍, 0.2L/m²区は対照薬剤のカシマン液剤と同等の防除効果を示した。無処理区に比べて高い防除効果を示した。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病虫害名・学名 炭疽病 *Colletotrichum* sp.

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 千葉県成田市南羽鳥 成田フェアフィールドゴルフクラブ ラフ

対象病虫害発生状況 多発生 初発:2021年4月中旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:ノシバ 土性:不明

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高50mm 刈り込み頻度:10月末まで週1回、その後は刈込なし ゴルフ場の慣行(ラフの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 4m² (2×2m) , 3連制

	1-I	2-I	3-I	4-I
3-II	4-II		1-II	2-II
1-III	2-III	3-III	4-III	

1. 丸和レキシコン 100倍

2. 丸和レキシコン 200倍

3. 丸和レキシコン 500倍

4. 無処理

I, II, IIIは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年10月12日, 11月9日

(作物のステージ) 生育停滞期

(処理方法) 水量0.1L/m²は充電式噴霧器(1頭口, Teejet8003ノズル), 同0.2および0.5L/m²は園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため、影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

末尾に記載

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年4月28日(最終処理170日後)

薬害:2020年11月9日(初回処理28日後), 2021年4月28日(最終処理170日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

薬害は葉身を対象に肉眼により観察した。薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

—:薬害なし +:軽微な薬害症状あり ++:中程度の薬害症状あり +++:重度の薬害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率(%)	防除価 4/28	薬害 11/9, 4/28
17) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot. 97K006	100	0.1	I	0	95	—
			II	5		—
			III	0		—
			平均	1.7		
	200	0.2	I	0	90	—
			II	10		—
			III	0		—
			平均	3.3		
	500	0.5	I	5	90	—
			II	5		—
			III	0		—
			平均	3.3		
無処理	—	—	I	30		
			II	40		
			III	30		
			平均	33.3		

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

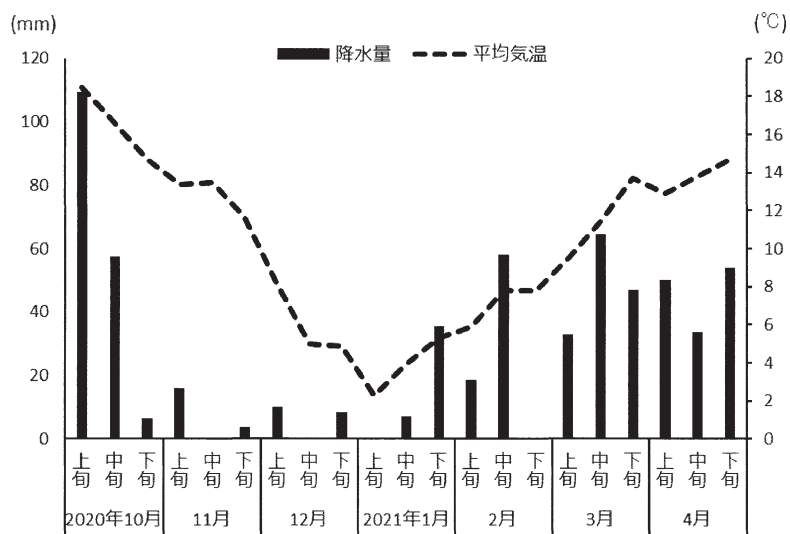
2020年4月に炭疽病の発生を確認した箇所試験を実施した。

最終処理170日後(4/28)に調査したところ、無処理区に炭疽病の発生が確認されたため、この日の調査結果で判定することとした。

17) 丸和レキシコン 100倍, 0.1L/m² -AA- 200倍, 0.2L/m² -AA- 500倍, 0.5L/m² -AA-

本剤の100倍, 0.1L/m²区, 200倍, 0.2L/m²区および500倍, 0.5L/m²区は無処理区に比べて高い防除効果を示した。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

試験期間中の気象条件



観測地点: 千葉県成田アメダスデータ

対象病虫害名・学名 炭疽病 *Colletotrichum* sp.

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県笠間市池野辺 スターツ笠間ゴルフ倶楽部 練習グリーンカラー

対象病虫害発生状況 多発生 初発:2021年4月中旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:コウライシバ 土性:砂土

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高10mm 刈り込み頻度:11月末まで週2回、その後は刈込なし ゴルフ場の慣行(グリーンカラーの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 4m² (2×2m), 3連制

2-I		1-I		1-II	
1-III		2-III			2-II

1. 丸和レキシコン 200倍

2. 無処理

I, II, IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年9月24日, 10月26日

(作物のステージ) 生育停滞期

(処理方法) 園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため、影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

末尾に記載

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年5月6日(最終処理192日後)

薬害:2020年10月12日(初回処理18日後), 10月26日(初回処理32日後), 11月16日(最終処理21日後),
2021年5月6日(最終処理192日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

薬害は葉身を対象に肉眼により観察した。薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

ー:薬害なし +:軽微な薬害症状あり ++:中程度の薬害症状あり +++:重度の薬害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対象病害虫名・学名 炭疽病 *Colletotrichum* sp.

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

3. 試験成績

供試薬剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率(%)	防除価 5/6	薬害 10/12, 26, 11/16, 5/6
17) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot. 97K006	200	0.2	I II III 平均	20 20 10 16.7	73.6	— — —
無処理	—	—	I II III 平均	60 70 60 63.3		

4. 考察 (判定した時期, 判定記号を記載)

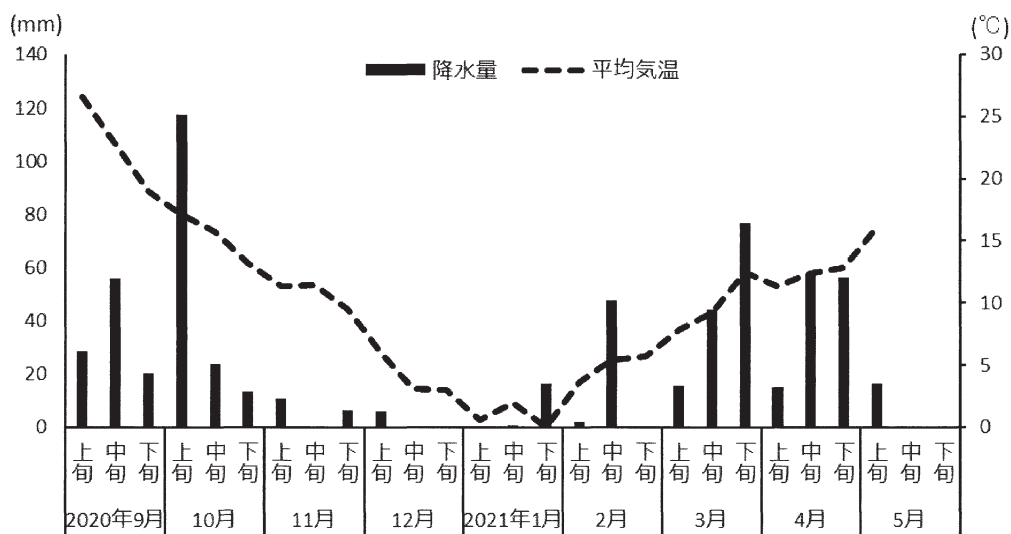
2020年4月に炭疽病の発生を確認した箇所で試験を実施した。

最終処理192日後(5/6)に調査したところ、無処理区に炭疽病の発生が確認されたため、この日の調査結果で判定することとした。

17) 丸和レキシコン 200倍, 0.2L/m² -BB-

本剤200倍, 0.2L/m²区は無処理区に比べて防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

試験期間中の気象条件



観測地点: 茨城県笠間アメダスデータ

対象病虫害名・学名 炭疽病 *Colletotrichum* sp.

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 静岡県沼津市宮本 新沼津カントリークラブ ティーグラウンド

対象病虫害発生状況 多発生 初発:2021年3月下旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:コウライシバ 土性:不明

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高15mm 刈り込み頻度:11月末まで週1回、その後は刈込なし ゴルフ場の慣行(ラフの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 4m² (2×2m) , 3連制

4-I	1-II		4-II
1-I	2-II	3-III	
2-I	3-II	1-III	
3-I		2-III	4-III

1. 丸和レキシコン 100倍

2. 丸和レキシコン 200倍

3. 丸和レキシコン 500倍

4. 無処理

I, II, IIIは連制を示す。

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年9月15日, 10月30日

(作物のステージ) 生育停滞期

(処理方法) 水量0.1L/m²は充電式噴霧器(1頭口, Teejet8003ノズル), 同0.2および0.5L/m²は園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため、影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

末尾に記載

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年3月30日(最終処理151日後)

薬害:2020年10月30日(初回処理45日後), 2021年3月30日(最終処理151日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

薬害は葉身を対象に肉眼により観察した。薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

ー:薬害なし +:軽微な薬害症状あり ++:中程度の薬害症状あり +++:重度の薬害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率(%)	防除価 3/30	薬害 10/30, 3/30
17) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot. 97K006	100	0.1	I	0	100	—
			II	0		—
			III	0		—
			平均	0		—
	200	0.2	I	0	100	—
			II	0		—
			III	0		—
			平均	0		—
	500	0.5	I	0	100	—
			II	0		—
			III	0		—
			平均	0		—
無処理	—	—	I	50		
			II	40		
			III	40		
			平均	43.3		

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

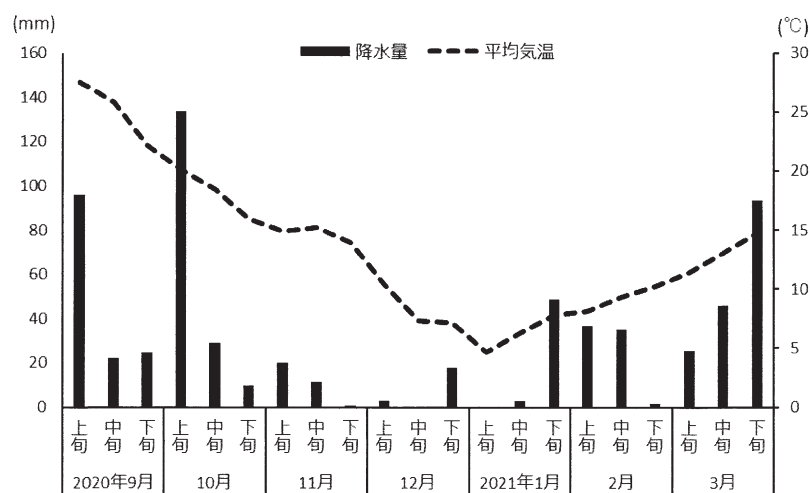
2020年4月に炭疽病の発生を確認した箇所試験を実施した。

最終処理151日後(3/30)に調査したところ、無処理区に炭疽病の発生が確認されたため、この日の調査結果で判定することとした。

17) 丸和レキシコン 100倍, 0.1L/m² -AA- 200倍, 0.2L/m² -AA- 500倍, 0.5L/m² -AA-

本剤の100倍, 0.1L/m²区, 200倍, 0.2L/m²区および500倍, 0.5L/m²区は無処理区に比べて高い防除効果を示した。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

試験期間中の気象条件



観測地点: 静岡県三島アメダスデータ

対象病害虫名・学名 炭疽病 *Colletotrichum* sp.

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 静岡県沼津市宮本 新沼津カントリークラブ ラフ

対象病害虫発生状況 中発生 初発:2021年3月下旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:ノシバ 土性:不明

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高50mm 刈り込み頻度:10月末まで週1回、その後は刈込なし ゴルフ場の慣行(ラフの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 4m² (2×2m) , 3連制

	4-I	2-I	1-I		3-I	1-II	4-II
1-III	2-III	3-III		4-III	2-II	3-II	

1. 丸和レキシコン 100倍

2. 丸和レキシコン 200倍

3. 丸和レキシコン 500倍

4. 無処理

I, II, IIIは連制を示す。

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2020年9月15日, 10月30日

(作物のステージ) 生育停滞期

(処理方法) 水量0.1L/m²は充電式噴霧器(1頭口 Teejet8003ノズル), 同0.2および0.5L/m²は園芸用ジョロで散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため、影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

末尾に記載

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年3月30日(最終処理151日後)

薬害:2020年10月30日(初回処理45日後), 2021年3月30日(最終処理151日後)

(調査方法) パッチ面積率を調査した。防除価はパッチ面積率の平均より求めた。

薬害は葉身を対象に肉眼により観察した。薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

—:薬害なし +:軽微な薬害症状あり ++:中程度の薬害症状あり +++:重度の薬害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率(%)	防除価 3/30	薬害 10/30, 3/30
17) 丸和レキシコン ピラクロストロビン 5.0% フルキサピロキサド 4.0% Lot. 97K006	100	0.1	I	0	100	—
			II	0		—
			III	0		—
			平均	0		—
	200	0.2	I	0	100	—
			II	0		—
			III	0		—
			平均	0		—
	500	0.5	I	0	100	—
			II	0		—
			III	0		—
			平均	0		—
無処理	—	—	I	20		
			II	10		
			III	10		
			平均	13.3		

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

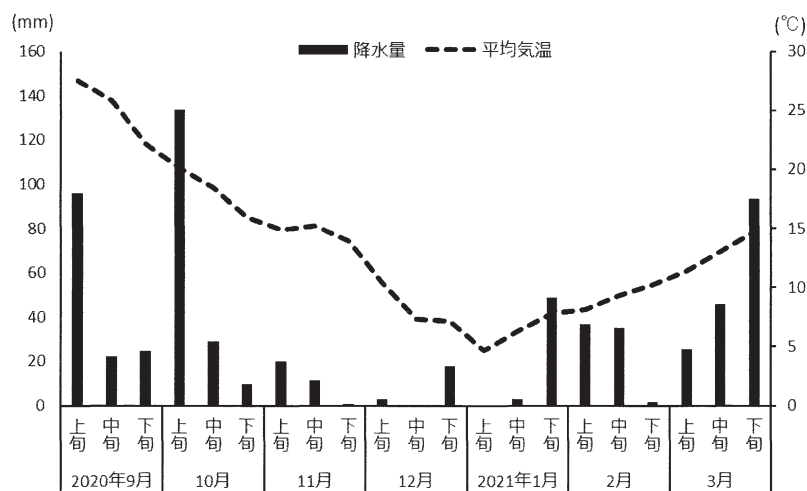
2020年4月に炭疽病の発生を確認した箇所試験を実施した。

最終処理151日後(3/30)に調査したところ、無処理区に炭疽病の発生が確認されたため、この日の調査結果で判定することとした。

17) 丸和レキシコン 100倍, 0.1L/m² -AA- 200倍, 0.2L/m² -AA- 500倍, 0.5L/m² -AA-

本剤の100倍, 0.1L/m²区, 200倍, 0.2L/m²区および500倍, 0.5L/m²区は無処理区に比べて高い防除効果を示した。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

試験期間中の気象条件



観測地点: 静岡県三島アメダスデータ

対象病害虫名・学名 葉枯細菌病 *Xanthomonas* sp.

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

担当者氏名 田中明美

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県東茨城郡大洗町 大洗ゴルフ倶楽部 ナセリ

対象病害虫発生状況 多発生 初発:9月初旬

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:ベントグラス(品種:DC1) 土性:砂土

試験期間中の薬剤防除:なし

施肥:ゴルフ場の慣行による。

管理:刈高4mm 刈り込み頻度:隔日 ゴルフ場の慣行(グリーンの管理)に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 4m² (2×2m) , 3連制

1-I	2-I			
3-I	1-II		2-II	3-II
	2-III	1-III		3-III

1. モノドクターフロアブル 100倍

2. モノドクターフロアブル 67倍

3. 無処理

I, II, IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年8月23日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 充電式噴霧器(1頭口, Teejet8003ノズル)で散布した。

(処理前後の降雨影響) 薬剤処理当日に降雨はなかったため、影響はなかったと判断された。

試験期間中の気象条件

月日	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/ 1	9/ 2	9/ 3
平均気温(℃)	26.1	25.3	27.4	29.1	28.4	28.4	26.8	27.3	25.1	19.7	19.2	20.3
降水量(mm)	0	0.5	0.5	0	0	0	0	28.0	4.0	9.5	12.5	3.5

月日	9/ 4	9/ 5	9/ 6
平均気温(℃)	20.6	21.2	19.4
降水量(mm)	4.5	0.5	0.5

観測地点:茨城県水戸アメダスデータ

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、被害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効:2021年8月30日(処理7日後), 9月6日(処理14日後)

薬害:2021年8月26日(処理3日後), 8月30日(処理7日後), 9月6日(処理14日後)

(調査方法) 発病面積率を調査した。防除価は発病面積率の平均より求めた。

薬害は葉身を対象に肉眼により観察した。薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

一:薬害なし 十:軽微な薬害症状あり 十十:中程度の薬害症状あり 十十十:重度の薬害症状あり

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

対象病害虫名・学名 葉枯細菌病 *Xanthomonas* sp.

試験場名 丸和バイオケミカル(株)

3. 試験成績

供 試 薬 剤	希釈倍数	水量 (L/m ²)	区制	パッチ面積率(%)		防除価 9/6	薬害 8/26, 30, 9/6
				8/30	9/6		
14) モノドクターフロアブル ジラム 40.0% Lot. 006001	100	0.2	I	0	5	66.7	—
			II	0	5		—
			III	0	20		—
			平均	0	10.0		
対) モノドクターフロアブル ジラム 40.0%	67	0.2	I	0	10	66.7	—
			II	0	10		—
			III	0	10		—
			平均	0	10.0		
無処理	—	—	I	0	30		
			II	0	30		
			III	0	30		
			平均	0	30.0		

4. 考 察 (判定した時期, 判定記号を記載)

葉枯細菌病発生前に試験を開始した。処理7日後(8/30)の調査では無処理区に発生が見られなかった。同14日後(9/6)に調査したところ、無処理区に葉枯細菌病の発生が確認されたため、この日の調査結果で判定することとした。

14) モノドクターフロアブル 100倍, 0.2L/m² BBB-

本剤の100倍, 0.2L/m²区は対照薬剤のモノドクターフロアブル(67倍, 0.2L/m²)と同等の防除効果を示した。無処理区に比べて防除効果は認められた。実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名・学名 褐条病 *Acidovorax avenae*

試験場名 秋田県立大学

担当者名 藤 晋一

1.試験目的(依頼事項) 防除効果および葉害の検討

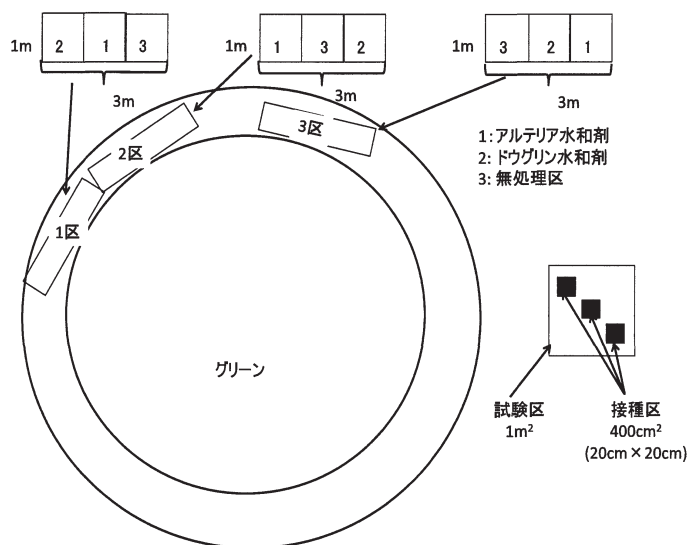
2.試験方法 試験地場所 秋田県男鹿市五里合箱井字長信太 68-2 男鹿ゴルフクラブ

対象病害虫発生状況 多発生(接種)

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載)

品種: ベントグラス(品種: ペンクロス) 施肥条件: ゴルフ場の慣行に従う。土性: 不明 試験期間中の薬剤防除: なし

試験期間中の刈り込みなし

区制・面積・試験区の構成 試験区 1m² (1×1m) 3 連制

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージ及び処理前後の降雨の影響

薬剤処理年月日: 供試薬剤 アルテリア水和剤 2021 年 7 月 9 日(接種翌日) 対照薬剤 ドウグリン水和剤 2021 年 7 月 8 日(接種半日前)

薬剤処理方法: 電池式噴霧器(工進社製) GT 一頭口噴口 0.240/min にて散布した。

処理前後の降雨: アルテリア水和剤処理の夜半に降雨があったが、薬液は乾いており影響はないと判断し、再散布は行わなかった。

試験期間中の気象条件

月日	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15
平均気温(℃)	23.5	22.0	22.3	22.4	22.1	22.0	22.2	22.7
降水量(mm)	0	4.5	11.5	5.0	3.5	0	3.0	0

試験場所におんどりを設置 7/8は8:00より計測

降水量の観測地点は男鹿ゴルフクラブ

7/14の降水はスプリンクラーによる散水

太枠は接種・散布日

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、葉害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験: 2021 年 7 月 12 日(接種 4 日後)、15 日(接種 7 日後)

葉害試験: 2021 年 7 月 12 日(接種 4 日後)、15 日(接種 7 日後)

(調査方法) 接種区(400cm²×3) および試験区(1m²) の発病面積率(%)を調査し、試験区の発病面積率より防除価を求めた。

葉害は葉身を対象に肉眼で観察し、葉害症状の有無を以下の内容で評価した。

- : 葉害を認めない + : 軽微な葉害症状を認める ++ : 中度の葉害症状を認める +++ : 重度の葉害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

病原菌接種年月日: 2021 年 7 月 8 日(ドウグリン水和剤散布半日後) 病原菌接種方法: 各接種区に対して蒸留水 40ml に 10⁸CFU/ml の *Acidovorax avenae* [静岡県産シバ分離株] を懸濁させた菌液を作製し、電動バリカンをその菌液に浸漬し、ベントグラスを 2cm 程度に刈り込み接種を行い、残液を接種区に灌注処理した。刈り込み後は調査日最終日の 7 月 15 日まで寒冷紗で「白色 22%遮光率」調査区全体を被覆した。

3.試験成績

薬効調査

供試薬剤	希釈倍率 散布水量	区	7月12日(接種4日後)			7月15日(接種7日後)		
			発病面積率(%)		防除価 (試験区)	発病面積率(%)		防除価 (試験区)
			接種区	試験区		接種区	試験区	
(6)アルテリア水和剤 フマル酸 80.0% (SIK-01T)	250 倍 0.50/ m ²	I	24.0	40.0	0	15.0	20.0	70.9
		II	25.2	50.0		5.0	10.0	
		III	28.8	50.0		5.0	2.0	
		平均	26.0	46.7		8.3	10.7	
(対)ドウグリソ水和剤 有機銅 80.0% (03036)	250 倍 0.50/ m ²	I	7.2	10.0	27.3	15.3	10.0	83.6
		II	16.8	30.0		5.0	5.0	
		III	13.2	40.0		40.0	3.0	
		平均	12.4	26.7		20.1	6.0	
無処理		I	9.6	30.0		26.7	40.0	
		II	30.0	50.0		41.7	50.0	
		III	20.4	30.0		5.0	20.0	
		平均	20.0	36.7		24.4	36.7	

薬害調査

供試薬剤	希釈倍率・散布水量	区	7月12日	7月15日
(6)アルテリア水和剤	250 倍・0.50/ m ²	I	+++ (白化)	—
		II	+++ (白化)	—
		III	+++ (白化)	—
(対)ドウグリソ水和剤	250 倍・0.50/ m ²	I	—	—
		II	—	—
		III	—	—

4.考察

調査は接種4日後、7日後に行い、7日後の結果からアルテリア水和剤は接種後、ドウグリソ水和剤は接種前に散布したことを考慮して評価した。発病は試験区によりばらつきがあるものの十分に評価できる結果であった。

(6)アルテリア水和剤 250 倍 0.50/ m² (BBB+)

アルテリア水和剤 250 倍 0.50/ m² 処理は、褐条病に対して対照のドウグリソ水和剤 250 倍 0.50/ m² 処理とほぼ同等の効果で、無処理区に対して防除効果が認められた。実用性はあると考えられる。散布4日後に薬害と思われる白化症状が刈り込みをしていない部分も含めて認められた。症状はその後回復し、生育への影響は無かったが、散布4日後の白化症状は実用上問題があると判断した。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 褐条病 *Acidovorax avenae* subsp. *avenae*

試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所 担当者氏名 沼田慎一、岡本陽子、守田航馬、瀬川沙枝、齋藤龍平

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 茨城県稲敷市四箇 2002 JGM 霞丘ゴルフクラブ ナーセリー

対象病害虫発生状況 中発生(接種) 初発:7月20日

耕種概要(品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌性条件・試験期間中の薬剤防除を記載)

草種:ベントグラス(品種:トリプルセブン) 刈高:5.0mm 刈込頻度:週2~3回 土性:不明 試験期間中の薬剤防除:なし
 施肥その他の管理はゴルフ場の慣行に従った。

区制・面積・試験区の構成 1区 1.0 m² (1.0m×1.0m) 3連制

2-I	4-I		3-I	1-I
3-II	1-II	2-II	4-II	
4-III		3-III	1-III	2-III

1. アルテリア水和剤
 2. ドウグリン水和剤
 3. 接種・無処理
 4. 無接種・無処理
- I、II、IIIは連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年7月16日および7月25日の計2回

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 背負式バッテリー動力噴霧機を用いて、所定量を散布した。

(処理前後の降雨影響) 処理前後に降雨は認められなかったため、影響はなかったと思われる。

試験期間中の気象条件

月日	アメダス 観測所	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2
平均気温(℃)	龍ヶ崎	24.0	26.1	26.0	27.0	27.7	27.5	27.2	27.0	27.1	26.9	26.7	24.9	24.2	26.9	27.3	25.1	25.5	27.7	27.5
降水量(mm)	龍ヶ崎	22.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19.0	0	1.0	67.5	1.0	0	0
降水量(mm)	江戸崎	5.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25.5	0	0	0.5	0	0	0

観測地点:アメダス龍ヶ崎および江戸崎 太枠は処理日

試験地からアメダス観測所までの距離:龍ヶ崎:約17km、江戸崎:約5km

試験地に最も近い江戸崎アメダス観測所では降水量のみの観測であるため、龍ヶ崎アメダス観測所のデータを併記した。

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験:7月24日および8月2日(最終処理8日後)

薬害試験:7月24日、25日、8月2日

(調査方法) 各試験区の発病面積率を調査し、発病面積率の平均から接種・無処理区に対する防除価を算出した。

防除価 = (1 - 処理区の発病面積率の平均/接種・無処理区の発病面積率の平均) × 100

薬害は、葉身を肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

- ー:薬害を認めない +:軽微な薬害症状を認める ++:中程度の薬害症状を認める
 +++:重度の薬害症状を認める

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

接種年月日:2021年7月15日および7月24日

試験区全面をデッキブラシで軽く擦り、ベントグラス葉表面に傷を付けた。その後、約1×10⁸CFU/mlに調製したベントグラス褐条病菌(シンジェンタジャパン株式会社より分譲)の懸濁液を噴霧接種した。接種量について、初回接種の7月15日は200ml/区、2回目接種の7月24日は500ml/区で実施した。また、2回目接種以降は、試験区全体を不織布で被覆した。

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 褐条病 *A. avenae subsp. avenae* 試験場名 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

3. 試験成績

薬効調査および薬害調査

供試薬剤	処理方法	連制	7月24日		8月2日		薬害		
			発病面積率 (%)	防除価	発病面積率 (%)	防除価	7/24	7/25	8/2
6) アルテリア水和剤 フマル酸 80% Lot. SIK-01T	250倍 0.5L/m ² 散布	I	0.2		15.0		—	—	—
		II	0.2		10.0		—	—	—
		III	0.2		20.0		—	—	—
		平均	0.2	85.7	15.0	0			
対) ドウグリン水和剤 有機銅 80.0%	200倍 0.5L/m ² 散布	I	0		0		—	—	—
		II	0		0		—	—	—
		III	0		0		—	—	—
		平均	0	100	0	100			
接種・無処理		I	1.0		10.0				
		II	0.1		5.0				
		III	3.0		30.0				
		平均	1.4		15.0				
無接種・無処理		I	0.2		10.0				
		II	0.2		4.0				
		III	0.5		8.0				
		平均	0.3		7.3				

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

7月15日の夕刻に褐条病菌を接種し、その翌日に初回処理を実施した。初発は7月20日に接種・無処理区で認められたが、降雨がなく病勢進展は緩慢となり、7月24日の調査時には極少発生であった。このため、同日に2回目の接種をおこない、翌日の7月25日に2回目(最終)処理を実施した。その後は病勢が進展し、8月2日の最終調査時には、ばらつきがあるものの接種・無処理区の発生状況は中発生となった。このような発生状況下で、対照薬剤のドウグリン水和剤は高い防除効果が認められた。

効果の判定は、8月2日の調査結果によりおこなった。

6) アルテリア水和剤 250倍 0.5L/m² 散布 DDDー

本剤の250倍液 0.5L/m² 散布は、対照薬剤のドウグリン水和剤 200倍液 0.5L/m² 散布と比較し防除効果は劣った。無処理と比較して防除効果は認められなかった。実用性はないと思われる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名・学 名 褐条病 *Acidovorax avenae*

試験場名 静岡県農林技術研究所

担当者氏名 池村嘉晃

1. 試 験 目 的 (依 頼 事 項) 防除効果及び被害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 静岡県磐田市富丘 678-1 静岡県農林技術研究所内ベントグラス圃場

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 甚発生(接種)

耕種概要 (品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別を記載)

品種: クリーピングベントグラス‘ペンクロス’ 播種: 2016 年 10 月 6 日

刈高: 5 mm. 散水: なし. 土性: 砂土 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区 2 m² (1 m × 2 m) 3連制

1-I	1-II	3-III
3-I	2-II	2-III
2-I	3-II	1-III

1: 試験薬剤 2: 対照剤 3: 無処理 I、II、III は連制を示す。

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) 2021 年 9 月 1 日 (接種翌日: 1 回目)、9 月 10 日 (2 回目)

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の方法に従い、処理は加圧式4頭ロスプレーヤーにて散布した。

(処理前後の降雨影響) 接種日・薬剤処理日共に降雨なく、降雨の影響はないと思われる。

試験期間中の気象条件

月日	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3	9/4
気温 (°C)	27.6	28.4	28.7	28.9	28.8	28.7	28.4	27	26	22.5	23.3
降雨量 (mm)	0	0	0	0	0	0	0	0	21	33	5.5

月日	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15
気温 (°C)	24.4	23.1	22.3	23.1	23.8	24.7	25.2	23.7	24.2	22.6	23.6
降雨量 (mm)	0	9	0	0	15	0	0	5.5	0	3	0.5

観測地点: 静岡県磐田市のアメダスデータ 太枠は散布日

調査月日・方法 (月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載)

(調査月日) 薬効試験: 2回目処理5日後(9月15日)

薬害試験: 9月2日(1回目散布翌日)、9月8日(1回目散布7日後)、9月10日(2回目散布時)

(調査方法) 処理区内の病害発生面積を調査した。可視大気抵抗指数(VARI)は、ドローンで撮影した画像の緑色、赤色、青色バンドのピクセル値から計算した。計算式は、 $VARI = (緑色 - 赤色) / (緑色 + 赤色 - 青色)$ 。VARI 値が高いほど芝生の状態は良い。また、芝草に対する薬害は葉身を対象に随時の観察により調査し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。-: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。+++: 重度の薬害症状を認める。

その他 (特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期・由来、月日、詳細な方法を記載)

薬剤処理 1 日前の 8 月 31 日に病原菌を接種した。接種した病原菌は、蒸留水 4L に 10⁸CFU/ml の *Acidovorax avenae* (シンジエンタ様提供) を懸濁させた菌液を使用した。病原菌の接種は、芝刈り直後、褐条病菌を加圧式4頭ロスプレーヤーにより散布水量 222mL/m² にて噴霧接種した。病原菌接種直後に透明マルチで被覆し、その上に遮光シート(白色 70%遮光)で被覆した。被覆したカバーは、薬剤処理時と芝生調査時以外は常に被覆した状態だった。

3. 試 験 成 績

供 試 薬 剤	希釈倍率 水量	区制	9月15日 (2回目散布5日後) パッチ面積率(%) 防除価	9月15日 VARI値	薬害 9/2, 9/8, 9/10
6) 試験薬剤 アルテリア水和剤 フマル酸 80.0% Lot No. SAB-01T	250倍 0.5L/m ²	I II III 平均	50.0 50.0 50.0 50.0 0	-0.248 -0.197 -0.145 -0.197	— — —
対) ドウ格林水和剤 8-ヒドロキシキノリン銅80.0%	200倍 0.5L/m ²	I II III 平均	40.0 30.0 30.0 33.3 23.1	-0.051 0.070 -0.231 -0.071	— — —
無 処 理		I II III 平均	40.0 50.0 40.0 43.3	-0.024 -0.084 -0.206 -0.105	— — —

4. 考 察 (判定した時期、判定記号を記載)

1回目の病原菌接種および薬剤散布以降、病勢の進展は急激であった。2回目の薬剤散布 5 日後に、パッチ面積率で評価した。VARI 値は、植物の活性や被覆率と相関があるので、参考までにデータ収集を実施した。パッチ面積率と VARI 値による評価でドウ格林水和剤は、無処理に比較して多少良い傾向があったものの病害の発生度合いが激しく効果は判然としなかった。

6) アルテリア水和剤 250倍・0.5L/m² (C, ?, ?, -)

本剤の 250 倍・0.5L/m² 処理は、対照剤の防除効果が明瞭でなかったことから、判定不能だと考えられた。但し、本剤と対照剤との比較では、本剤は対照剤にやや劣る効果であると考えられた。実用性は、判定不能。薬害は認められなかった。

対象病虫害名・学名 褐条病 *Acidovorax avenae*

試験場名 日本曹達株式会社 榛原フィールドリサーチセンター

担当者氏名 福島悠介、澤田祐次

1. 試験目的(依頼事項) 防除効果及び被害の検討

2. 試験方法 試験地場所 静岡県牧之原市坂部 62-1

対象病虫害発生状況 少発生(接種)

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種: ベントグラス(ペンクロス) 播種: 2012 年

施肥その他一般管理はゴルフ場の慣行に従った。刈高 4mm 場内のナーセリーを使用

土性: 遠州珪砂

試験期間中の防除薬剤: 7 月 16 日 ランマン P フロアブル、モノクタジンフロアブル

区制・面積・試験区の構成 1 区 1 m² (1 m×1m) 3 連制

				1-III	
		2-II		3-III	
		3-II	1-II	2-III	
1-I					
3-I					
2-I					

1: アルテリア水和剤 2: ドウグリン水和剤 3: 無処理
I、II、III は連制を示す

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

(処理年月日) ドウグリン水和剤: 2021 年 7 月 12 日、アルテリア水和剤: 2021 年 7 月 15 日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 供試薬剤を所定量の水で希釈し、CO₂ 加圧式スプレーヤーと TeeJet ノズル(8002VS)を使用して散布した。

(処理前後の降雨影響) 7 月 12 日の散布 7 時間後わずかに降雨が認められたが、薬剤は乾いており影響はなかったと思われる。

7 月 15 日の散布 3 時間後わずかに降雨が認められたが、薬剤は乾いており影響はなかったと思われる。

試験期間中の気象条件

月日	7月12日	7月13日	7月14日	7月15日	7月16日	7月17日	7月18日	7月19日
平均気温(°C)	26.1	25.5	24	25.4	26.7	26.6	27.1	28.1
降雨量(mm)	0.4	1.2	2.2	0.4	0.4	0	0	0

月日	7月20日	7月21日	7月22日	7月23日	7月24日	7月25日	7月26日
平均気温(°C)	27	27.1	27.2	27.3	27.6	27.8	27.5
降雨量(mm)	0	0	0	0	0	0	0

観測地点: 榛原フィールドリサーチセンター内(静岡県牧之原市)の気象観測装置のデータ、太枠は散布日

調査月日・方法

(調査月日) 薬効試験: 7 月 21 日(接種 8 日後)、7 月 26 日(接種 13 日後)

薬害試験: 7 月 16 日(接種 3 日後)、7 月 21 日(接種 8 日後)、7 月 26 日(接種 13 日後)

(調査方法) 各試験区(1m²)の発病面積率を調査し、発病面積率の平均から無処理区に対する防除価を算出した。

防除価 = (1-処理区の発病面積率の平均/無処理区の発病面積率の平均) × 100

薬害は、葉身を対象に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で評価した。

-: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。

+++: 重度の薬害症状を認める。

作物名
(シバ)

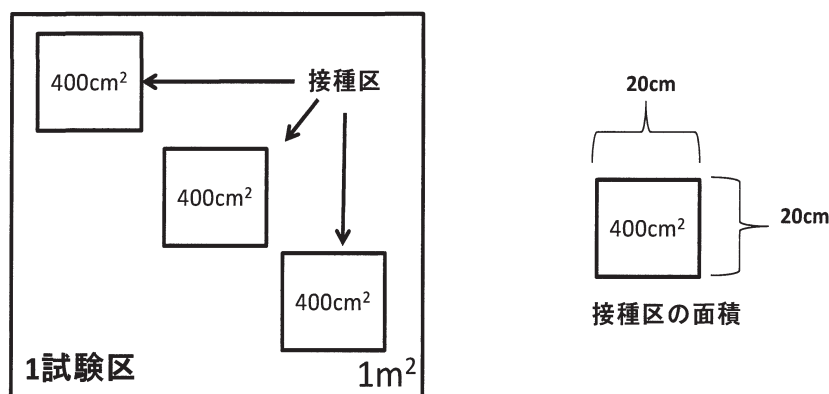
対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名 褐条病 *Acidovorax avenae*

試験場名 日本曹達株式会社 榛原フィールドリサーチセンター

その他

接種年月日:2021 年 7 月 13 日

試験区全体をグリーンモアで刈高 4mm に刈り込んだ後、各試験区に 400cm²の接種区画を 3ヶ所設け、滅菌済イオン交換水に 2.5×10⁷CFU/ml に調製した *Acidovorax avenae* (T9020 富山県農業技術センター農業試験場よりイネ由来の菌株をベントグラスに感染させ再分離した菌株を使用、病原性は確認済) 菌懸濁液 20ml/400cm²を 1 試験区あたり三か所に噴霧接種した(下図)。接種後 1 時間風乾させ、試験区全体を透明マルチシートおよび 70%遮光シート(白色)で 2 日間被覆した。



3. 試験成績

供試薬剤	処理方法	連制	発病 面積率(%)		防除価 (7/26)	薬害調査		
			7/21 (接種8日後)	7/26 (接種13日後)		7月16日	7月21日	7月26日
6) アルテリア水和剤 フマル酸 80.0% Lot No. T19-018	250倍 0.5L/m ² 散布	I	1	1		+	+	-
		II	1	2		+	+	-
		III	2	8		+	+	-
		平均	1.3	3.7	75.3			
対) ドウグリソ水和剤 有機銅 80.0%	200倍 0.5L/m ² 散布	I	1	1		-	-	-
		II	4	5		-	-	-
		III	1	7		-	-	-
		平均	2.0	4.3	71.3			
無処理		I	9	20				
		II	3	20				
		III	4	5				
		平均	5.3	15.0				

4. 考 察

実用性の判定は接種 13 日後 (7/26) の調査結果で行った。

6) アルテリア水和剤 250 倍 0.5 L/m² (BBB ±)

本剤 250 倍の 0.5 L/m²散布は対照剤のドウグリソ水和剤と同等の防除価を示し、無処理と比較して効果があった。実用性はあると考えられる。

散布 1、6 日後に葉先端部の退色(白化)が認められたが、生育への影響はなくその後回復したため、実用上問題ないと判断した。

対象病害虫名 かさ枯病 *Pseudomonas syringae*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 白龍湖カントリークラブ(広島県三原市大和町)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:L93 定植:10年以上 パッティンググリーン

刈高:4.0mm 施肥:パッティンググリーンの一般管理

土性:サンドグリーン(砂) 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区4㎡(2m×2m) 3連制

1-I	2-I	3-I	4-I	5-I
6-I		1-II	2-II	3-II
4-II	5-II	6-II	1-III	2-III
3-III	4-III	5-III	6-III	

1:BYF-1502 顆粒水和剤 100 倍 0.1L/㎡ 2:BYF-1502 顆粒水和剤 160 倍 0.2L/㎡ 3:シグネチャー WDG 100 倍 0.1L/㎡

4:シグネチャー WDG 100 倍 0.2L/㎡ 5:ドウリン水和剤 200 倍 0.5L/㎡ 6:無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021 年3月1日、3月15日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡、0.2L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 日	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10	3/11
項目	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10	3/11
平均気温(℃)	5.8	10.8	5.7	2.0	5.6	10.2	8.5	6.0	6.7	5.4	6.8	5.3
降水量(mm)			25.0		1.0	6.0						
月 日	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	3/18	3/19	3/20	3/21	3/22	3/23
項目	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	3/18	3/19	3/20	3/21	3/22	3/23
平均気温(℃)	7.7	7.4	5.2	6.9	10.9	10.0	8.2	9.9	10.2	4.6	5.1	8.2
降水量(mm)	7.5	1.0							2.0	7.5	1.0	

観測地点: 世羅町の観測データ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年3月15日(1回目処理後14日)、3月29日(2回目処理後14日)

(調査方法) 試験区(4㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防位値=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

一: 薬害を認めない。+: 軽微な薬害症状を認める。++: 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、曇天日が続いた。

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	3月1日	3月15日	3月29日	薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/3/15 2021/3/29
2) BYF-1502顆粒水和剤 ホセチル 59.2% lot.NK29KX0316	80倍 0.1/㎡	I	5.0	5.0	5.0	-
		II	5.0	5.0	0.0	-
		III	10.0	10.0	5.0	-
		平均	6.7	6.7 59.9	3.3 82.0	-
	160倍 0.2L/㎡	I	5.0	5.0	0.0	-
		II	5.0	5.0	0.0	-
		III	10.0	10.0	5.0	-
		平均	6.7	6.7 59.9	1.7 90.7	-
11) シグネチャーWDG ホセチル 79.4% lot.PD19G00008	100倍 0.1L/㎡	I	5.0	0.0	0.0	-
		II	10.0	5.0	5.0	-
		III	5.0	0.0	0.0	-
		平均	6.7	1.7 89.8	1.7 90.7	-
	100倍 0.2L/㎡	I	10.0	5.0	0.0	-
		II	5.0	5.0	5.0	-
		III	5.0	5.0	5.0	-
		平均	6.7	5.0 70.1	3.3 82.0	-
対) ドウグリ水水和剤 有機銅 80.0%	200倍 0.5L/㎡	I	5.0	5.0	0.0	-
		II	5.0	5.0	5.0	-
		III	5.0	5.0	5.0	-
		平均	5.0	5.0 70.1	3.3 82.0	-
無処理		I	5.0	15.0	15.0	-
		II	5.0	20.0	20.0	-
		III	5.0	15.0	20.0	-
		平均	5.0	16.7	18.3	-

4. 考察

2021年3月29日 判定

2) BYF-1502顆粒水和剤 80倍 0.1L/㎡ BBB- 160倍 0.2L/㎡ AAA-

本剤の80倍 0.1L/㎡ 処理は、対照薬剤ドウグリ水水和剤(200倍 0.5L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の160倍 0.2L/㎡ 処理は、対照薬剤ドウグリ水水和剤(200倍 0.5L/㎡)より優る防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 かさ枯病 *Pseudomonas syringae*

試験場名 新中国グリーン研究所

11) シグネチャーWDG 100倍 0.1L/m² AAA- 100倍 0.2L/m² BAA-

本剤の100倍 0.1L/m² 処理は、対照薬剤ドウグリン水和剤(200 倍 0.5L/m²)より優る防除効果が認められ
無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の100倍 0.2L/m² 処理は、対照薬剤ドウグリン水和剤(200 倍 0.5L/m²)と比較して同等の防除効果が認められ
無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 かさ枯病 *Pseudomonas syringae*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 和木ゴルフ倶楽部(山口県玖珂郡和木町)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:ペンクロス 定植:10年以上 パッティンググリーン

刈高:3.8mm 施肥:パッティンググリーンの一般管理

土性:サンドグリーン(砂) 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区4㎡(2m×2m) 3連制

1-I		2-I	3-I	4-I	
5-I		6-I	1-II	2-II	3-II
4-II		5-II	6-II	1-III	2-III
3-III	4-III		5-III	6-III	

1:BYF-1502 顆粒水和剤 80 倍 0.1L/㎡ 2:BYF-1502 顆粒水和剤 160 倍 0.2L/㎡ 3:シグネチャー WDG 100 倍 0.1L/㎡

4:シグネチャー WDG 100 倍 0.2L/㎡ 5:ドウグリン水和剤 200 倍 0.5L/㎡ 6:無処理

処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021 年3月1日、3月16日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡、0.2L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった(処理日の降雨は処理後8時間)

試験期間中の気象条件

月 日	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10	3/11
項目												
平均気温(℃)	7.9	11.3	10.0	4.7	7.0	12.5	12.5	7.8	8.9	7.6	9.3	8.5
降水量(mm)		1.0	23.5		2.5	9.0						
月 日	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	3/18	3/19	3/20	3/21	3/22	3/23
項目												
平均気温(℃)	8.9	10.1	7.5	9.7	12.5	12.9	10.6	12.7	11.5	12.6	8.4	9.2
降水量(mm)	39.5								130	9.0		

観測地点:岩国の観測データ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年3月16日(1回目処理後15日)、3月30日(2回目処理後14日)

(調査方法) 試験区(4㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防位値=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、降雨日が多く、曇天日が続いた。

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	3月1日	3月16日	3月30日	薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/3/16 2021/3/30
2) BYF-1502顆粒水和剤 ホセチル 59.2% lot.NK29KX0316	80倍 0.1/㎡	I	10.0	5.0	0.0	-
		II	10.0	10.0	5.0	-
		III	10.0	5.0	0.0	-
		平均	10.0	6.7 66.5	1.7 91.5	-
	160倍 0.2L/㎡	I	5.0	5.0	0.0	-
		II	10.0	5.0	5.0	-
		III	5.0	5.0	0.0	-
		平均	6.7	5.0 75.0	1.7 91.5	-
11) シグネチャーWDG ホセチル 79.4% lot.PD19G00008	100倍 0.1L/㎡	I	10.0	5.0	5.0	-
		II	10.0	5.0	0.0	-
		III	5.0	5.0	0.0	-
		平均	8.3	5.0 75.0	1.7 91.5	-
	100倍 0.2L/㎡	I	10.0	10.0	5.0	-
		II	5.0	0.0	0.0	-
		III	10.0	5.0	0.0	-
		平均	8.3	5.0 75.0	1.7 91.5	-
対) ドウグリン水和剤 有機銅 80.0%	200倍 0.5L/㎡	I	10.0	10.0	5.0	-
		II	10.0	10.0	0.0	-
		III	10.0	10.0	5.0	-
		平均	10.0	10.0 50.0	3.3 83.5	-
無処理		I	10.0	20.0	20.0	-
		II	10.0	20.0	20.0	-
		III	10.0	20.0	20.0	-
		平均	10.0	20.0	20.0	-

4. 考察

2021年3月30日 判定

2) BYF-1502顆粒水和剤 80倍 0.1L/㎡ AAA- 160倍 0.2L/㎡ AAA-

本剤の80倍 0.1L/㎡ 処理は、対照薬剤ドウグリン水和剤(200倍 0.5L/㎡)より優る防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の160倍 0.2L/㎡ 処理は、対照薬剤ドウグリン水和剤(200倍 0.5L/㎡)より優る防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 かさ枯病 *Pseudomonas syringae*

試験場名 新中国グリーン研究所

11) シグネチャーWDG 100倍 0.1L/m² AAA- 100倍 0.2L/m² AAA-

本剤の100倍 0.1L/m² 処理は、対照薬剤ドウグリン水和剤(200 倍 0.5L/m²)より優る防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の100倍 0.2L/m² 処理は、対照薬剤ドウグリン水和剤(200 倍 0.5L/m²)より優る防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ダラースポット病 *Sclerotinia homoeocarpa*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 鬼ノ城ゴルフ倶楽部(岡山県総社市奥坂)

対象病害虫発生状況 少発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:パーミューダグラス 定植:10年以上 ティーイングエリア

刈高:10.0 mm 施肥:ティーイングエリアの一般管理

土性:花崗岩風化土壌 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(2m×1m) 3連制

	4-I	3-II		1-I	2-II	
		4-II	3-III	2-I	1-III	2-III
3-I			4-III	1-II		

1:BYF-20297フロアブル50倍 0.1L/㎡ 2:BYF-20297フロアブル100倍 0.2L/㎡

3:カシマン液剤 500倍 0.5L/㎡ 4:無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年6月7日、6月16日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡、0.2L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 日	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17
項目												
平均気温(℃)	20.5	22.8	24.1	24.0	23.7	20.9	21.0	22.1	23.6	24.1	20.7	22.9
降水量(mm)						0.5	12.0	3.0	2.0	1.0	6.0	
月 日	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29
項目												
平均気温(℃)	20.2	21.9	21.7	23.0	22.3	20.5	22.6	22.4	21.0	22.9	22.7	23.4
降水量(mm)	18.5	22.5			4.5	14.0		2.0		2.0		9.5

観測地点:高梁市のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年6月16日(1回目処理後9日)、6月25日(2回目処理後9日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、降雨日が多く、曇天日が続いた。

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	6月7日	6月16日	6月25日	薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/6/16 2021/6/25
3) BYF-20297フロアブル フルオピラム 1.2% トリフロキシストロビン 1.9% lot.NK44LX3126	50倍 0.1L/m ²	I	0.0	0.2[7]	0.1[4]	-
		II	0.0	0.1[3]	0.1[3]	-
		III	0.0	0.2[6]	0.1[4]	-
		平均	0.0	0.17[5.3] 91.5	0.1[3.7] 95.5	-
	100倍 0.2L/m ²	I	0.0	0.1[4]	0.1[4]	-
		II	0.0	0.2[5]	0.1[4]	-
		III	0.0	0.1[4]	0.1[2]	-
		平均	0.0	0.13 [4.3] 93.5	0.1[3.3] 95.5	-
対) カシマン液剤 イミダクタン酢酸塩 5.0%	500倍 0.5L/m ²	I	0.0	0.1[2]	0.1[2]	-
		II	0.0	0.1[2]	0.1[2]	-
		III	0.0	0.04[1]	0.1[2]	-
		平均	0.0	0.08[1.7] 96.0	0.1[2] 95.5	-
無処理		I	0.0	2.0[56]	2.0[55]	
		II	0.0	2.0[54]	2.5[68]	
		III	0.0	2.0[59]	2.0[53]	
		平均	0.0	2.0 [56.3]	2.2 [58.7]	

〔 〕内はハッチ数

4. 考察

2021年6月25日 判定

3) BYF-20297フロアブル 50倍 0.1L/m² CBB- 100倍 0.2L/m² CBB-

本剤の50倍 0.1L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/m²)と比較してやや劣る防除効果が認められ、無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の100倍 0.2L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/m²)と比較してやや劣る防除効果が認められ、無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ダラースポット病 *Sclerotinia homoeocarpa*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 鬼ノ城ゴルフ倶楽部(岡山県総社市奥坂)

対象病害虫発生状況 少発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:パーミューダグラス 定植:10年以上 ティーイングエリア

刈高:10.0 mm 施肥:ティーイングエリアの一般管理

土性:花崗岩風化土壌 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(2m×1m) 3連制

1-I	4-I	3-II	2-III
2-I	1-II	4-II	3-III
3-I	2-II	1-III	4-III

1:オブテインフロアブル 200倍 0.1L/㎡ 2:オブテインフロアブル 1000倍 0.5L/㎡

3:カシマン液剤 500倍 0.5L/㎡ 4:無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年6月7日、6月16日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 日	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17
項目												
平均気温(℃)	20.5	22.8	24.1	24.0	23.7	20.9	21.0	22.1	23.6	24.1	20.7	22.9
降水量(mm)						0.5	12.0	3.0	2.0	1.0	6.0	
月 日	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29
項目												
平均気温(℃)	20.2	21.9	21.7	23.0	22.3	20.5	22.6	22.4	21.0	22.9	22.7	23.4
降水量(mm)	18.5	22.5			4.5	14.0		2.0		2.0		9.5

観測地点:高梁市のアマダステータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年6月16日(1回目処理後9日)、6月25日(2回目処理後9日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、降雨日が多く、曇天日が続いた。

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	6月7日	6月16日	6月25日	薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/6/16 2021/6/25
7) オブテインフロアブル ペンフルフェン 22.7% lot.PD19B00001	200倍 0.1L/m ²	I	0.0	0.4[11]	0.3[8]	-
		II	0.0	0.4[11]	0.2[7]	-
		III	0.0	0.5[14]	0.3[8]	-
		平均	0.0	0.43 [12] 78.5	0.28 [7.7] 87.3	-
	1000倍 0.5L/m ²	I	0.0	0.4[12]	0.4[10]	-
		II	0.0	0.5[14]	0.4[11]	-
		III	0.0	0.3[9]	0.4[10]	-
		平均	0.0	0.4 [11.7] 80.0	0.4 [10.3] 81.8	-
対) カシマン液剤 イミクタジン酢酸塩 5.0%	500倍 0.5L/m ²	I	0.0	0.1[2]	0.1[2]	-
		II	0.0	0.1[1]	0.1[2]	-
		III	0.0	0.04[1]	0.1[2]	-
		平均	0.0	0.08[1.7] 96.0	0.1[2] 95.5	-
無処理		I	0.0	2.0[56]	2.0[55]	
		II	0.0	2.0[54]	2.5[68]	
		III	0.0	2.0[59]	2.0[53]	
		平均	0.0	2.0 [56.3]	2.2 [58.7]	

[]内はハッチ数

4. 考察

2021年 6月25日 判定

7) オブテインフロアブル 200倍 0.1L/m² CBB- 1000倍 0.5L/m² CBB-

本剤の200倍 0.1L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/m²)と比較してやや劣る防除効果が認められ
無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の1000倍 0.5L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/m²)と比較してやや劣る防除効果が認められ
無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ダラースポット病 *Sclerotinia homoeocarpa*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 賀茂カントリークラブ(広島県東広島市高屋町)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:バーミューダグラス 定植:10年以上 ジェネラルエリア

刈高:14.0 mm 施肥:ジェネラルエリアの一般管理

土性:花崗岩風化土壌 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区2m²(2m×1m) 3連制

				1-I	2-II	
3-I		3-II	4-II	3-II	4-II	2-I
4-I				1-II		2-III

1:BYF-20297 フロアブル 50 倍 0.1L/m² 2:BYF-20297 フロアブル 100 倍 0.2L/m²3:ガシマン液剤 500 倍 0.5L/m² 4:無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年6月8日、6月21日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/m²、0.2L/m²)、ジョウロ(0.5L/m²)を使用して、0.1L/m²、0.2L/m²、0.5L/m²の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 日	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18
項目												
平均気温(°C)	21.5	23.3	22.9	22.5	19.8	20.3	22.8	22.7	22.1	20.7	21.5	20.1
降水量(mm)						1.0	14.5	1.0	0.5	15.0		53.0
月 日	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30
項目												
平均気温(°C)	22.2	21.7	22.6	22.1	21.8	22.3	22.1	20.8	22.1	21.9	22.7	23.8
降水量(mm)	11.0	13.5										

観測地点:東広島市のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年6月21日(1回目処理後13日)、6月30日(2回目処理後9日)

(調査方法) 試験区(2m²)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、降雨日が多く、曇天日が続いた。

3. 試験成績

供 試 薬 剤	処理量	区 制	6 月 8 日	6 月 21 日	6 月 30 日	薬 害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/6/21 2021/6/30
3) BYF-20297フロアブル フルオピラム 1.2% トリフロキシストロビン 1.9% lot.NK44LX3126	50倍 0.1L/m ²	I	0.0	0.2[7]	0.2[5]	-
		II	0.0	0.3[8]	0.2[5]	-
		III	0.0	0.3[9]	0.1[4]	-
		平 均	0.0	0.27 [8] 90.0	0.17 [4.7] 93.7	-
	100倍 0.2L/m ²	I	0.0	0.2[5]	0.1[3]	-
		II	0.0	0.2[7]	0.2[4]	-
		III	0.0	0.3[8]	0.2[5]	-
		平 均	0.0	0.23 [6.7] 91.5	0.17 [4] 93.7	-
対) カシマン液剤 イミノクタン酢酸塩 5.0%	500倍 0.5L/m ²	I	0.0	0.1[4]	0.1[3]	-
		II	0.0	0.1[3]	0.1[4]	-
		III	0.0	0.1[3]	0.1[3]	-
		平 均	0.0	0.1 [3.3] 96.3	0.1 [3.3] 96.3	-
無処理		I	0.0	3.0[82]	3.0[81]	-
		II	0.0	2.5[66]	2.5[64]	-
		III	0.0	2.5[68]	2.5[66]	-
		平 均	0.0	2.7 [72]	2.7 [70.3]	-

[]内はハッチ数

4. 考 察

2021 年 6 月 21 日、6 月 30 日 判定

3) BYF-20297フロアブル 50倍 0.1L/m² CBB- 100倍 0.2L/m² CBB-

本剤の50倍 0.1L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500 倍 0.5L/m²)と比較してやや劣る防除効果が認められ
無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の100倍 0.2L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500 倍 0.5L/m²)と比較してやや劣る防除効果が認められ
無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ダラースポット病 *Sclerotinia homoeocarpa*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試 験 目 的 防除効果および薬害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 賀茂カントリークラブ(広島県東広島市高屋町)

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 中発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種: パーミューダグラス 定植: 10年以上 ジェネラルエリア

刈高: 14.0 mm 施肥: ジェネラルエリアの一般管理

土性: 花崗岩風化土壌 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(2m×1m) 3連制

1-I	2-I
3-I	
4-I	

1-II	2-II
3-II	4-II

1-II	2-II
3-II	4-II

1: オブテインフロアブル 200 倍 0.1L/㎡ 2: オブテインフロアブル 1000 倍 0.5L/㎡

3: カシマン液剤 500 倍 0.5L/㎡ 4: 無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年6月8日、6月21日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 日	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18
項 目												
平均気温(℃)	21.5	23.3	22.9	22.5	19.8	20.3	22.8	22.7	22.1	20.7	21.5	20.1
降水量(mm)						1.0	14.5	1.0	0.5	15.0		53.0
月 日	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30
項 目												
平均気温(℃)	22.2	21.7	22.6	22.1	21.8	22.3	22.1	20.8	22.1	21.9	22.7	23.8
降水量(mm)	11.0	13.5										

観測地点: 東広島市のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年6月21日(1回目処理後13日)、6月30日(2回目処理後9日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価 = (1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均) × 100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

- : 薬害を認めない。+ : 軽微な薬害症状を認める。++ : 中程度の薬害症状を認める。+++ : 重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、降雨日が多く、曇天日が続いた。

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	6月8日	6月21日	6月30日	薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/6/21 2021/6/30
7) オブテインフロアブル ペンフルフェン 22.7% lot.PD19B00001	200倍 0.1L/m ²	I	0.0	0.5[15]	0.3[10]	—
		II	0.0	0.5[16]	0.5[12]	—
		III	0.0	0.4[11]	0.2[7]	—
		平均	0.0	0.47 [14] 82.6	0.33 [9.7] 87.8	—
	1000倍 0.5L/m ²	I	0.0	0.5[14]	0.3[9]	—
		II	0.0	0.6[17]	0.4[12]	—
		III	0.0	0.6[17]	0.4[13]	—
		平均	0.0	0.57 [16] 78.9	0.36 [11.3] 86.7	—
対) カシマン液剤 イミノダジン酢酸塩 5.0%	500倍 0.5L/m ²	I	0.0	0.1[4]	0. [3]	—
		II	0.0	0.1[3]	0.1[4]	—
		III	0.0	0.1[3]	0.1[3]	—
		平均	0.0	0.1[3.3] 96.3	0.1[3.3] 96.3	—
無処理		I	0.0	3.0[82]	3.0[81]	—
		II	0.0	2.5[66]	2.5[64]	—
		III	0.0	2.5[68]	2.5[66]	—
		平均	0.0	2.7 [72]	2.7 [70.3]	—

[]内はハッチ数

4. 考察

2021年6月30日 判定

7) オブテインフロアブル 200倍 0.1L/m² CBB- 1000倍 0.5L/m² CBB-

本剤の200倍 0.1L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/m²)と比較してやや劣る防除効果が認められ
無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の1000倍 0.5L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/m²)と比較してやや劣る防除効果が認められ
無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ダラースポット病 *Sclerotinia homoeocarpa*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 周南カントリー倶楽部(山口県周南市安田)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:バーミューダグラス 定植:3年 ティーイングエリア

刈高:8.0 mm 施肥:ティーイングエリアの一般管理

土性:花崗岩風化土壌 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(2m×1m) 3連制

			3-I	1-I	2-II
4-I				2-I	1-III
3-II	4-II				2-III
	3-III	4-III		1-II	

1:BYF-20297フロアブル 50倍 0.1L/㎡ 2:BYF-20297フロアブル 100倍 0.2L/㎡

3:カシマン液剤 500倍 0.5L/㎡ 4:無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年6月8日、6月21日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡、0.2L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.2L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 日	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18
項目												
平均気温(℃)	22.0	23.2	24.9	24.0	23.5	23.0	23.0	23.2	23.2	22.2	23.6	21.8
降水量(mm)						1.0	14.5	1.0	0.5	15.0		53.0
月 日	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30
項目												
平均気温(℃)	23.8	22.6	23.4	23.4	23.8	24.1	24.8	24.3	23.5	23.7	25.3	25.8
降水量(mm)	11.0	13.5										

観測地点:下松のアメダステータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年6月21日(1回目処理後13日)、6月30日(2回目処理後9日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、降雨日が多く、曇天日が続いた。

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	6月8日	6月21日	6月30日	薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/6/21 2021/6/30
3) BYF-20297フロアブル フルオヒラム 1.2% トリフロキシストロビン 1.9% lot.NK44LX3126	50倍 0.1L/㎡	I	0.0	0.2[7]	0.2[5]	-
		II	0.0	0.2[5]	0.1[2]	-
		III	0.0	0.2[5]	0.1[3]	-
		平均	0.0	0.2 [5.7] 90.9	0.13 [3.3] 94.1	-
	100倍 0.2L/㎡	I	0.0	0.2[6]	0.1[3]	-
		II	0.0	0.3[8]	0.2[5]	-
		III	0.0	0.2[6]	0.1[3]	-
		平均	0.0	0.23 [6.7] 89.5	0.13 [5.7] 94.1	-
対) カシマン液剤 イミノタジン酢酸塩 5.0%	500倍 0.5L/㎡	I	0.0	0.1[3]	0.1[2]	-
		II	0.0	0.1[3]	0.1[2]	-
		III	0.0	0.1[4]	0.04[1]	-
		平均	0.0	0.1[3.3] 95.5	0.08 [1.7] 96.4	-
無処理		I	0.0	2.0[55]	2.0[52]	-
		II	0.0	2.0[50]	2.0[48]	-
		III	0.0	2.5[68]	2.5[65]	-
		平均	0.0	2.2 [57.7]	2.2 [55]	-

[]内はハッチ数

4. 考察

2021年 6月30日 判定

3) BYF-20297フロアブル 50倍 0.1L/㎡ CBB- 100倍 0.2L/㎡ CBB-

本剤の50倍 0.1L/㎡処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/㎡)と比較してやや劣る防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の100倍 0.2L/㎡処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/㎡)と比較してやや劣る防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対象病害虫名 ダラススポット病 *Sclerotinia homoeocarpa*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試験目的 防除効果および薬害の検討

2. 試験方法 試験地場所 周南カントリー倶楽部(山口県周南市安田)

対象病害虫発生状況 中発生

耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種:バーミューダグラス 定植:3年 ティーイングエリア

刈高:8.0 mm 施肥:ティーイングエリアの一般管理

土性:花崗岩風化土壌 試験期間中の防除薬剤: なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(2m×1m) 3連制

	1-I	2-I	3-I
4-I		1-II	2-II
3-II	4-II		1-III
2-III	3-III	4-III	

1:オブテインフロアブル 200 倍 0.1L/㎡ 2:オブテインフロアブル 1000 倍 0.5L/㎡

3:カシマン液剤 500 倍 0.5L/㎡ 4:無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年6月8日、6月21日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 日	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18
項目												
平均気温(℃)	22.0	23.2	24.9	24.0	23.5	23.0	23.0	23.2	23.2	22.2	23.6	21.8
降水量(mm)						1.0	14.5	1.0	0.5	15.0		53.0
月 日	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30
項目												
平均気温(℃)	23.8	22.6	23.4	23.4	23.8	24.1	24.8	24.3	23.5	23.7	25.3	25.8
降水量(mm)	11.0	13.5										

観測地点:下松のアメダステータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年6月21日(1回目処理後13日)、6月30日(2回目処理後9日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、降雨日が多く、曇天日が続いた。

3. 試験成績

供試薬剤	処理量	区制	6月8日	6月21日	6月30日	薬害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/6/21 2021/6/30
7) オブテインフロアブル ペンフルフェン 22.7% lot.PD19B00001	200倍 0.1L/m ²	I	0.0	0.4[11]	0.2[7]	—
		II	0.0	0.3[9]	0.2[5]	—
		III	0.0	0.4[13]	0.2[5]	—
		平均	0.0	0.37 [11] 83.2	0.2 [5.7] 90.9	—
	1000倍 0.5L/m ²	I	0.0	0.4[10]	0.2[6]	—
		II	0.0	0.4[13]	0.2[6]	—
		III	0.0	0.4[12]	0.2[5]	—
		平均	0.0	0.4 [11.7] 81.8	0.2 [5.7] 90.9	—
対) カシマン液剤 イミノタジン酢酸塩 5.0%	500倍 0.5L/m ²	I	0.0	0.1[3]	0.1[2]	—
		II	0.0	0.1[3]	0.1[2]	—
		III	0.0	0.1[4]	0.04[1]	—
		平均	0.0	0.1[3.3] 95.5	0.08 [1.7] 96.4	—
無処理		I	0.0	2.0[55]	2.0[52]	—
		II	0.0	2.0[50]	2.0[48]	—
		III	0.0	2.5[68]	2.5[65]	—
		平均	0.0	2.2 [57.7]	2.2 [55]	—

[]内はハッチ数

4. 考察

2021年6月30日判定

7) オブテインフロアブル 200倍 0.1L/m² CBB- 1000倍 0.5L/m² CBB-

本剤の200倍 0.1L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/m²)と比較してやや劣る防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の1000倍 0.5L/m²処理は、対照薬剤カシマン液剤(500倍 0.5L/m²)と比較してやや劣る防除効果が認められ無処理区との比較では防除効果があり、実用性はあると考えられる。薬害は認められなかった。

対 象 病 害 虫 名 ダラススポット病 *Sclerotinia homoeocarpa*

試験場名 新中国グリーン研究所

担当者氏名 中村 公治

1. 試 験 目 的 防除効果および薬害の検討

2. 試 験 方 法 試験地場所 和木ゴルフ倶楽部(山口県玖珂郡和木町)

対 象 病 害 虫 発 生 状 況 少発生

耕種概要 (品種・施肥・一般管理)

品種:ペレニアルライグラス 定植:2年 ティーイングエリア

刈高:10.0mm 施肥:ティーイングエリアの一般管理

土性:花崗岩風化土壌 試験期間中の防除薬剤:なし

区制・面積・試験区の構成 1区2㎡(2m×1m) 3連制

1-I	2-I		3-I
4-I	1-II	2-II	
3-II	4-II	1-III	2-III
	3-III		4-III

1:オブテインフロアブル 200 倍 0.1L/㎡ 2:オブテインフロアブル 1000 倍 0.5L/㎡

3:ファンターフ顆粒水和剤 2000 倍 0.5L/㎡ 4:無処理

処理年月日・量・方法・処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

(処理年月日) 2021年6月2日、6月11日

(作物のステージ) 生育期

(処理方法) 所定の希釈倍数に調整した供試薬剤を、電動噴霧器(0.1L/㎡)、ジョウロ(0.5L/㎡)を使用して、0.1L/㎡、0.5L/㎡の割合で散布を行った。

(処理前後の降雨影響) 試験結果に影響する事象はなかった

試験期間中の気象条件

月 日	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12
項 目												
平均気温(℃)	22.0	21.5	18.3	19.8	18.7	18.7	21.7	23.2	24.4	23.6	20.9	21.5
降水量(mm)			37.0	55.0							0.5	13.0
月 日	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24
項 目												
平均気温(℃)	22.7	22.9	22.9	21.5	23.5	21.6	22.5	22.5	23.4	22.8	21.6	22.9
降水量(mm)	18.5	13.5		42.5		30.5	11.0				12.5	0.5

観測地点:岩国のアメダスデータ

調査月日・方法

(調査月日) 2021年6月11日(1回目処理後9日)、6月23日(2回目処理後12日)

(調査方法) 試験区(2㎡)に発生した病斑面積の測定により調査した。

防除価=(1-処理区病斑面積率の平均/無処理区病斑面積率の平均)×100

薬害は、茎葉を対象に、散布時と調査時に肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で観察した。

-:薬害を認めない。+:軽微な薬害症状を認める。++:中程度の薬害症状を認める。+++ :重度の薬害症状を認める。

その他

試験期間中、降雨日が多く、曇天日が続いた。

3. 試験成績

供 試 薬 剤	処理量	区 制	6 月 2 日	6 月 11 日	6 月 23 日	薬 害
			ハッチ面積率(%)	ハッチ面積率(%) 防除価	ハッチ面積率(%) 防除価	2021/6/11 2021/6/23
7) オブテインフロアブル ペンフルフェン 22.7% lotPD18H00006	200倍 0.1L/㎡	I	0.0	0.2[5]	0.1[3]	—
		II	0.0	0.2[5]	0.1[3]	—
		III	0.0	0.1[3]	0.0	—
		平 均	0.0	0.17 [4.3] 88.7	0.07 [2] 95.9	—
	1000倍 0.5L/㎡	I	0.0	0.1[3]	0.0	—
		II	0.0	0.1[3]	0.0	—
		III	0.0	0.2[5]	0.1[3]	—
		平 均	0.0	0.13 [3.7] 91.3	0.03 [1] 98.3	—
対) ファンターフ顆粒水和剤 ピリベンカルブ 40.0%	2000倍 0.5L/㎡	I	0.0	0.0	0.0	—
		II	0.0	0.1[3]	0.0	—
		III	0.0	0.0	0.0	—
		平 均	0.0	0.03[1] 98.0	0.0 [0] 100	—
無処理		I	0.0	1.5[39]	2.0[50]	—
		II	0.0	1.5[42]	1.5[42]	—
		III	0.0	1.5[40]	1.5[42]	—
		平 均	0.0	1.5 [40.3]	1.7 [44.6]	—

〔 〕内はハッチ数

4. 考 察

2021 年 6 月 23 日 判 定

7) オブテインフロアブル 200倍 0.1L/㎡ BAA- 1000倍 0.5L/㎡ BAA-

本剤の200倍 0.1L/㎡処理は、対照薬剤ファンターフ顆粒水和剤(2000 倍 0.5L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

本剤の1000倍 0.5L/㎡処理は、対照薬剤ファンターフ顆粒水和剤(2000 倍 0.5L/㎡)と比較して同等の防除効果が認められ無処理区との比較では高い防除効果があり、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。